

結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム

こども家庭庁
令和6年3月

目次

はじめに	3
I モデルプログラムの目的について	4
II モデルプログラムの構成・使い方について	4
III 本モデルプログラムにおける想定について	5
IV 研修内容	
第1回研修	
導入	7
第1章. わが国および各地域における少子化の現状	8
★結婚におけるよくある思い込み・誤解を解くために	2 3
第2章. 未婚者の恋愛・結婚状況	2 4
第3章. 婚活・結婚支援サービス業界の現状	6 0
第2回研修	
第4章. 結婚支援ボランティアの活動内容	7 3
第5章. 結婚支援業務に関する知識・技能	9 1
第3回研修	
第6章. 結婚支援業務に関するトラブルおよびその対応	1 1 5
第7章. 結婚支援業務に関わるための法的知識等	1 1 9
V モデルプログラム附録(PowerPoint ファイル)について	1 3 5

はじめに

令和4年の出生数(確定数)は77万759人と過去最少となっており、合計特殊出生率についても1.26で前年の1.30より低下しました。我が国の少子化の進行は深刻さを増しており、危機的な状況です。

少子化の進行は、人口(特に生産年齢人口)の減少と高齢化を通じて、労働力の減少、将来の経済や市場規模の縮小、経済成長率の低下、地域・社会の担い手の減少、現役世代の負担の増加、行政サービスの水準の低下など、結婚しない人や子どもを持たない人を含め、社会経済に大きな影響を与えます。

少子化の主な要因としては、特に未婚化・晩婚化の影響が大きいといわれており、結婚支援の取組において、結婚支援センターやマッチングシステムとともに、ボランティア等が果たすべき役割は極めて大きいと言えます。

こども大綱(令和5年12月22日閣議決定)においても、「多くの地方自治体等において行われている出会いの機会・場の創出支援について、効果の高い取組を推進し、より広域での展開、官民連携、伴走型の支援を充実させる」こととされており、伴走型の支援の担い手となるボランティア等の育成はより重要なものとなっています。

これらを踏まえ、こども家庭庁では、結婚支援を行うボランティア等が効果的な活動を進めていく上で必要となる知識、能力等を身につけるために内閣府において令和3年度に策定した「結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム」について、その改訂を行いました。

本モデルプログラム改訂にあたり、ご協力いただきました企画委員会委員並びに調査にご協力いただきました自治体および各企業・団体等の皆様に御礼申し上げます。

本モデルプログラムにより、ボランティア等に求められる知識、能力やその育成方策等が明確化され、ボランティア等の育成が進むことで、自治体における伴走型結婚支援の更なる質の向上が図られることを期待しております。

I モデルプログラムの目的について

各地域でボランティア等に活躍いただくため、地方自治体(実施者)においてボランティア等の育成研修を実施することが想定されます。

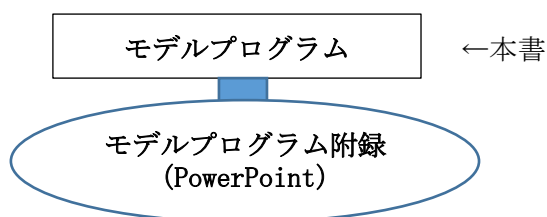
各地域には、それぞれ個別の事情があります。各実施者はそれぞれの事情も踏まえながら独自に必要な教材を作成し、必要な研修を実施いただくこととなります。本モデルプログラムは、実施者の研修の実施や教材作成の指針・目安となるものであり、実施者の方が、モデルプログラムの要素を吟味しつつ、御自身でデータの追加や補足をしていただきながら活用していただくことを想定しています。

II モデルプログラムの構成・使い方について

本モデルプログラムは、講師が行う育成研修の項目・内容のほか、講師がその内容について説明を行うにあたってのポイント、説明の仕方(解釈)、説明する上での注意点等をまとめています。

本モデルプログラムでは、さまざまなデータや資料を紹介していますが、データや資料は、淡々と説明するだけでは受講者に伝わらないほか、データの解釈を間違えると、(データに基づいているのに)間違った知識を受講者に伝えてしまうおそれもあるので、研修の際は、各項目に付記した研修時のポイント等についても、参考にするようにしてください。

また、本モデルプログラムに基づいて研修を行う際には、資料が必要になると思われませんが、その資料のひな型となるような PowerPoint ファイルを、「モデルプログラム附録」として添付したほか、附録のうち特に重要なスライドについてはサマリ版としてとりまとめています。



「モデルプログラム附録」は、地域の実情を踏まえて、加工・編集すれば、各自治体における研修資料(印刷資料・投影スライド)として、そのまま利用いただくことができます。

(もちろん、既存の資料などがある場合は、モデルプログラム附録を使用せず、まったく別の資料を準備しても問題ありません。なお、その場合でも、本モデルプログラムの内容、データ解釈、注意点等を、きちんと踏まえた研修となるようにしてください。)

また年を経て、データが古くなった場合は、新しいデータに差し替えてください。

Ⅲ 本モデルプログラムにおける想定について

本モデルプログラムは、下記のような形式で行われる研修を想定して作成しています。

●育成研修の実施形式

- (1) 実施者：地方自治体、NPO 団体等
- (2) 受講者：地方自治体が運営する結婚相談所、結婚支援センターを支援するボランティアおよびボランティア希望者
- (3) 研修時間：研修回数は年3回、1回2時間程度の予定
- (4) 研修方式：対面を原則（リモート可）
- (5) 研修定員：10～30人程度

●育成研修の内容

3回の研修で、以下の項目を取り扱います。なお、第2回研修の内容は特に実践形式での学びが効果的であるため、経験豊富なボランティアの方に講師を担当いただくことも考えられます。また、第3回研修の内容は特に専門知識が必要であり、外部専門家に講師を担当いただくことも考えられます。

第1回研修

わが国の少子化と結婚状況の現状

第1章. わが国および各地域における少子化の現状

第2章. 未婚者の恋愛・結婚状況

第3章. 婚活・結婚支援サービス業界の現状

第2回研修

結婚支援ボランティアの活動

第4章. 結婚支援ボランティアの活動内容

第5章. 結婚支援業務に関する知識・技能

第3回研修

結婚支援業務の法的な問題

第6章. 結婚支援業務に関するトラブルおよびその対応

第7章. 結婚支援業務に関わるための法的知識等

IV 研修内容

第1回研修

【導入】

研修のスタートに当たっては、これから研修を受ける受講者を退屈させず、引き込むための導入、「つかみ」が重要です。

これから始まる結婚支援ボランティア活動への意欲を高め、研修に対して前向きな気持ちになってもらうことができれば、研修の効果が大きく高まることが期待されます。

導入の仕方は、人それぞれで、講師自らの性格やキャラクターに合った方法を考えていただくのが一番ですが、講師となる全員が話術の達人ではありませんので、そういったことを考えるのが苦手な場合もあるかと思われます。

その場合でも、少なくとも、いきなり知識や技術の説明に入るのではなく、例えば、

- ・わが自治体が、いったい何故、皆さんに結婚支援ボランティアをお願いしたいのか？
 - ・ボランティアの皆さんにどんな活動をしていただくのか？
 - ・この活動にはどんな楽しみ・やりがいがあるのか？
 - ・若い人たちや地域、ひいては日本にとってどんな意義があるのか？
- などを簡潔に、自分なりの言葉で伝えるだけでも、違ってきます。

集まってくれたボランティアさんたちを退屈させず、知識と技術を少しでも吸収してもらうため、まずはしっかりと実施者側の思いを伝えてみてください。

また、受講者が少人数の場合や、少人数にグループ分けする場合などは、受講者自身に、自己紹介や、今回の研修に参加した理由、いまの気持ちなど、簡単な発言をしてもらう場面を作ると、受講者の参加意識がぐっと高まることも期待されますので、そのようなやり方も是非検討してみてください。

第1章. わが国および各地域における少子化の現状

ここでは、受講者に、わが国および地域の少子化の現状を、具体的なデータも示しながら紹介することで、幅広く理解していただきます。

それにより、受講者の皆さんの今後のボランティア活動への動機付けを図ります。

(1) 日本・本県(市町村)の人口推移

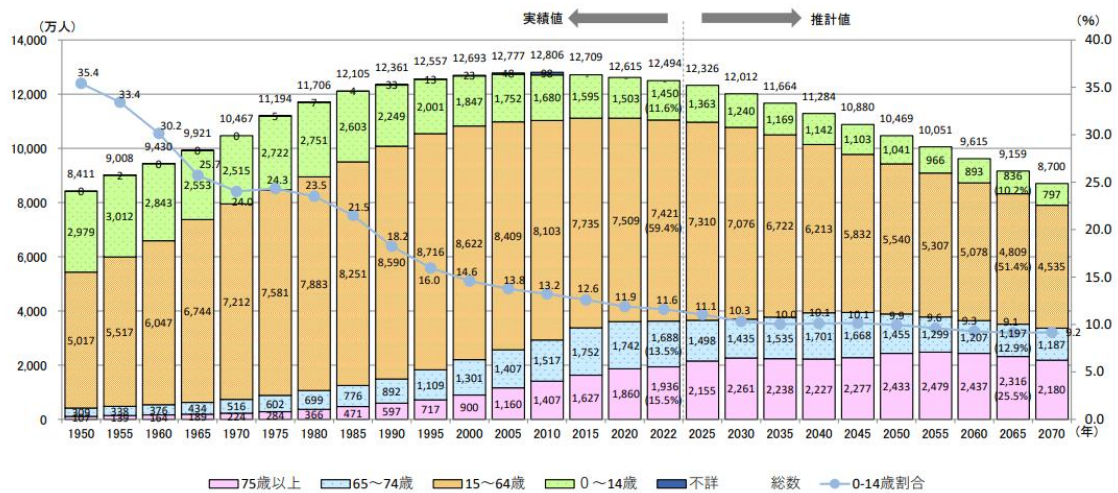
日本の人口は2020年に約1.2億人いるが、少子高齢化によって、今後、年々、子ども・若者が減少し、高齢者が増えながら人口が減少していく。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、2070年には8,700万人となる。

(県や市町村のデータもあれば、この後に、ちなみに本県の人口は…本市町村の人口は…と紹介する。)

日本の人口構造

- ◆ 社会全体の中で、年少人口割合(0-14歳割合)は年々低下。2050年以降、10%未満の水準になる。



資料：2020年までは総務省「国勢調査」(2015、2020年は不詳補完値による。)、2022年は総務省「人口推計」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果から作成。
 注：1. 2015年及び2020年の年齢階級別人口は不詳補完値によるため、年齢不詳は存在しない。2025年以降の年齢階級別人口は総務省統計局「令和2年国勢調査 年齢・国籍不詳をあん分した人口(参考表)」による年齢不詳をあん分した人口に基づいて算出されていることから、年齢不詳は存在しない。なお、1950~2010年の年少人口割合の算出には分母から年齢不詳を除いている。ただし、1950年及び1955年において割合を算出する際には、下記の注釈における沖縄県の一部の人口を不詳には含めないものとする。
 2. 沖縄県の1950年70歳以上の外国人136人(男55人、女81人)及び1955年70歳以上23,328人(男8,090人、女15,238人)は65~74歳、75歳以上の人口から除き、不詳に含めている。
 3. 百分率は、小数点第2位を四捨五入して、小数第1位までを表示した。このため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。

子ども家庭庁「子ども審議会基本政策部会第5回資料4」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・日本の人口は、2010年頃をピークに、減少傾向に入っている。
- ・このままいくと、やがて人口1億人を割り、2065年には8,000万人台にまで減っていく。大きな原因は少子化によるもの。
- ・少子化が進み、人口が減ることで、世の中から働き手や個人消費の担い手が減ることによる企業の競争力や将来の経済・市場規模の縮小、税収減による行政サービスの水準の低下など、活力のある地域や経済社会を持続させる力がどんどん弱くなっていく。
- ・(地域のデータを記載した場合) 日本全体と比べて、また、近隣や同規模の自治体と比較しても、わが自治体の人口は~~~~となっており、やはり、年々減少している。

【講義展開例】

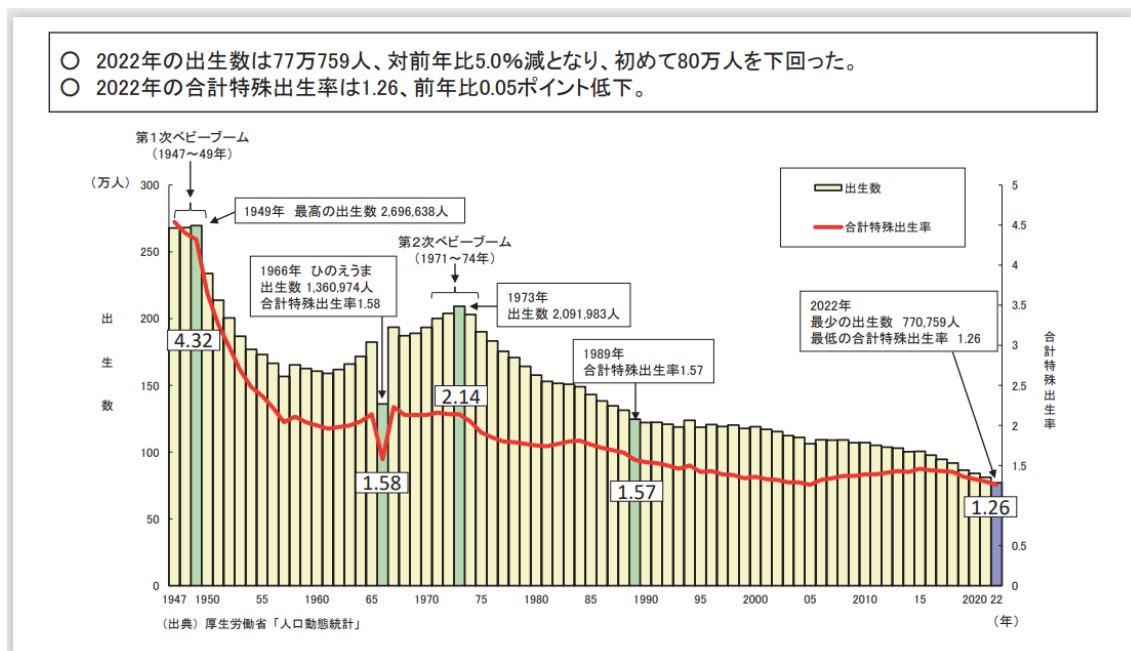
- ・受講者に、日本全体に比べ、自らの自治体の状況はどうなっていると思うかを質問。

(2) 出生数、出生率の推移

日本の出生数は、戦後すぐは年間で約270万人を超えるこどもが生まれていましたが、1973年の第2次ベビーブームを最後に減少傾向が続き、近年は年間80万人を割る状況となっている。

また、一人の女性が、その年の年齢別（15歳～49歳）の出生率によって一生に生むこども数を割り出した「合計特殊出生率」も長く減少傾向にあり、2005年を底に若干上昇傾向となったが、近年はまた減少傾向となっている。

（県や市町村のデータもあれば、この後に、ちなみに本県の出生数は…本市の出生数は…と紹介する。）



こども家庭庁『令和4年度 少子化の状況及び少子化への対処施策の概況』
「図表2 出生数と合計特殊出生率の推移」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・合計特殊出生率は「一人の女性（結婚していない人も含む。）が、一生に生む子どもの人数の平均」を、その年の各年齢の出生率で割り出した数字。「結婚した夫婦が何人生むか」ではない。
- ・合計特殊出生率は、人口規模が維持される水準（人口置換水準。現在は2.07）を下回る状態が続くと、人口は減り続ける。
- ・出生数は、最多である第1次ベビーブーム時の3分の1まで減少している。合計特殊出生率は、1.33という人口置換水準を大きく下回る水準にとどまっている。
- ・急速な少子化のため、日本の10代未満人口は40代人口の半分もない現状となっている。
(受講生の皆さんの老後の社会保障も、それを支える担い手である若者、子どもの減少で危機的状況になっていく。)
- ・(地域のデータを記載した場合)
日本全体と比べ、また近隣や同規模の自治体と比較して、わが県は〜〜〜となっている。

【講義展開例】

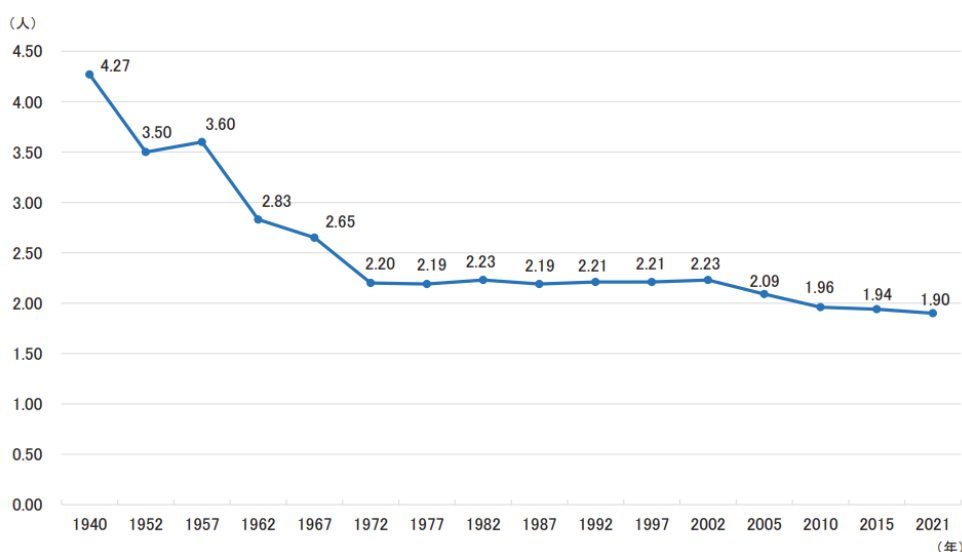
- ・このままでは、わが県の人口もどんどん減っていき、いずれは〇〇人や、〇〇人となることも、視野に入る。人口（特に若い人口）が減ると、地域としてどのようなことが問題となってくると思うか質問。

(3) 完結出生児数の推移

こどもがどのくらい生まれるか、というのは、計算上、「どのくらいの人
が結婚しているか」と「結婚した人にどのくらいこどもが生まれてい
るのか」との掛け算である。

「結婚した人にどのくらいこどもが生まれているのか」を「完結出生
児数」と呼び、この「完結出生児数」は、1970年頃からずっと2前後で
横ばいとなっているが、近年は低下傾向にある。

○ 夫婦の完結出生児数は、1970年代から2002年まで2.2人前後で安定的に推移していたが、2005年か
ら減少傾向となり、直近の調査では過去最低である1.90人になった。



(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」(夫婦調査)を基に作成。
(注)・対象は結婚持続期間15～19年の初婚どうしの夫婦(出生児数不詳を除く。)。各調査の年は調査を実施した年である。
・2015年(第15回調査)以前は妻の調査時年齢50歳未満、2021年(第16回調査)は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の夫婦について集計。

こども家庭庁『令和4年度 少子化の状況及び少子化への対処施策の概況』
「図表5 完結出生児数の推移」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・子どもがどのくらい生まれるか、は、「どのくらい結婚しているか」と、「結婚した夫婦にどのくらい子どもを生んでいるか（完結出生児数）」の掛け算で決まる。
- ・「完結出生児数」は、あまり聞き慣れない単語だが、要するに「結婚した夫婦に、何人子どもが生まれたか」。
- ・これを見ると、結婚すれば、おおむね2人くらい子どもが生まれている。この傾向は、1970年頃から続いているが、近年は低下傾向にある。

【講義展開例】

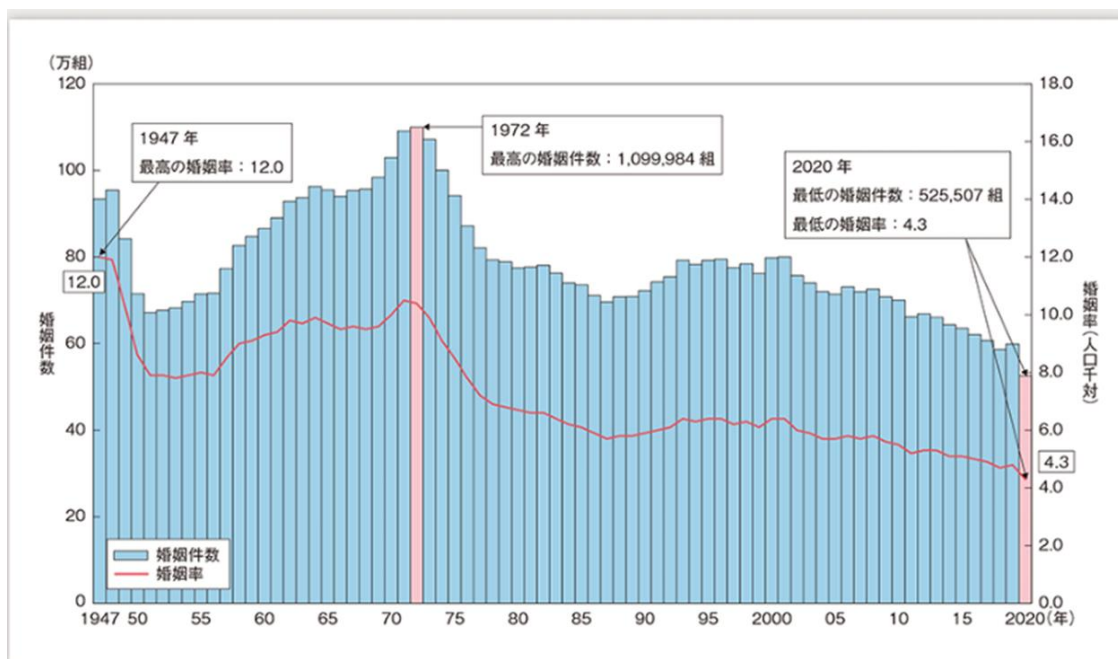
- ・受講者に、近隣の家族の子どもは何人が多いかを聞いてみる。

(4) 婚姻件数、婚姻率、50歳時未婚率の状況

一方、「どのくらいの人が結婚しているか」については、婚姻件数は1970年頃には年間100万件を超えていたものの、その後は減少傾向にあり、近年は年間60万件を切っている。

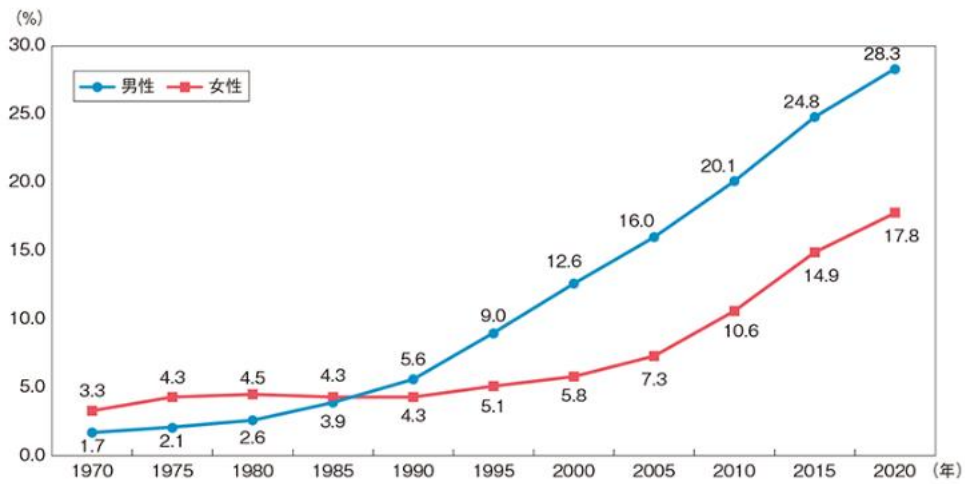
50歳まで一度も結婚したことの無い未婚の人の割合である「50歳時未婚率」は年々上昇しており、2020年の国勢調査では、男性は4人に一人、女性は6人に一人に上っている。

(県や市町村のデータがあれば、この後に、ちなみに本県の場合は…本市の場合は…と紹介する。)



資料：厚生労働省「人口動態統計」を基に作成。

内閣府子ども・子育て本部『令和4年版少子化社会対策白書』「第1-1-8 図 婚姻件数及び婚姻率の年次推移」



資料：各年の国勢調査に基づく実績値（国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」。(2015年及び2020年は配偶関係不詳補完結果に基づく。)

内閣府子ども・子育て本部『令和4年版少子化社会対策白書』「第1-1-10 図 50歳時の未婚割合の推移と将来推計」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

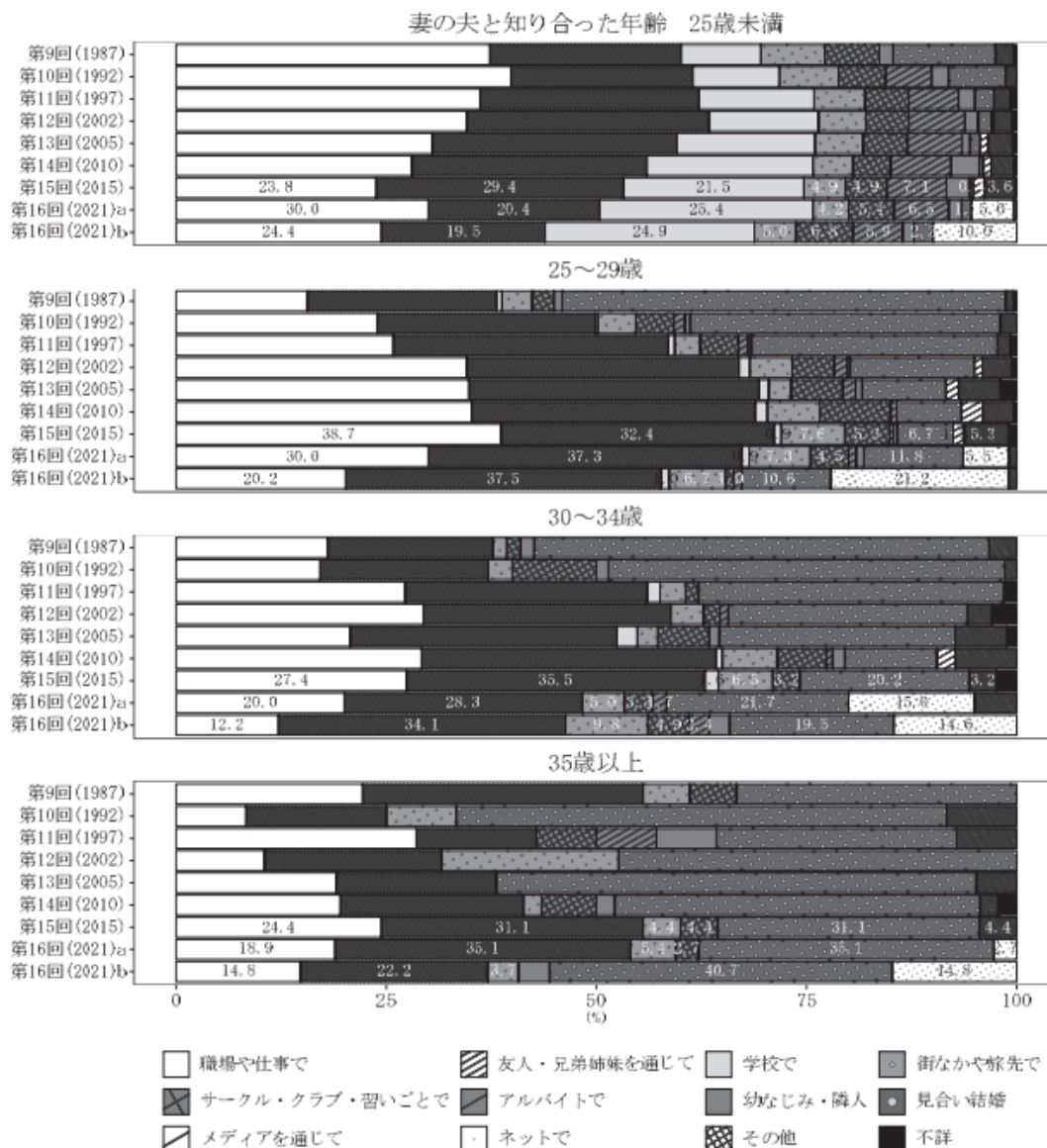
- ・「どのくらい結婚しているか」については、グラフの通り、婚姻件数が、どんどん減っている。
- ・これは、少子化でそもそも若い人が減っているから、というだけでなく、実は「50歳時未婚率」つまり50歳になっても一度も結婚してない方が、年々増えている。
- ・なんと、2020年のデータでは、50歳以上の男性はおよそ4人に一人、50歳以上の女性は6人に一人の割合で、一度も結婚していない、未婚者となっている。
- ・かつては、結婚しないでいる男女はほとんどいなかったが、現在は、ここまで増えているのが実情。結婚に進まないことが、少子化が進む大きな要因だと言える。
- ・(地域のデータを記載した場合) 日本全体と比べ、また近隣や同規模の都道府県と比較しても、わが県の婚姻件数(婚姻率)は、〜〜〜となっており、やはり未婚化が進んでいることがわかる。

【講義展開例】

- ・受講者に、身近なところで未婚化の状況を肌感覚で感じていないかと、聞いてみる。

(5) 結婚のきっかけ

直近3年間で結婚した夫婦が知り合ったきっかけを妻の年齢別にみると、25歳未満では「学校で」が最多、25～34歳では「友人・兄弟姉妹を通じて」が最多、35歳以上では「見合いで」「結婚相談所で」を含む「見合い結婚」が最多であり、知り合い時の年齢が高いほど見合いの場でお出会う夫婦が多い。



注：対象は、第15回以前は結婚持続期間5年未満で妻の調査時年齢50歳未満、第16回は結婚持続期間6年未満で、妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の初婚どうしの夫婦。第16回は結婚年月で期間を2つに分けて集計。(2021) a：結婚が2015年7月～2018年6月、(2021) b：結婚が2018年7月～2021年6月。妻の知り合った年齢別の客数数は、第15回(25歳未満466、25～29歳225、30～34歳124、35歳以上45)、第16回(2021)a(25歳未満260、25～29歳110、30～34歳60、35歳以上37)、第16回(2021)b(25歳未満221、25～29歳104、30～34歳41、35歳以上27)。設問や選択肢については図表5-2-2を参照。

【報告書図表5-2-4 調査・妻の夫と知り合った年齢別にみた、夫妻が知り合ったきっかけの構成割合(調査時点から5年以内に結婚した初婚どうしの夫婦(第16回は過去6年間の結婚))】

国立社会保障・人口問題研究所『第16回出生動向基本調査』「図表5-2-4 調査・妻の夫と知り合った年齢別にみた、夫妻が知り合ったきっかけの構成割合（調査時点から5年以内に結婚した初婚どうしの夫婦（第16回は過去6年間の結婚）」

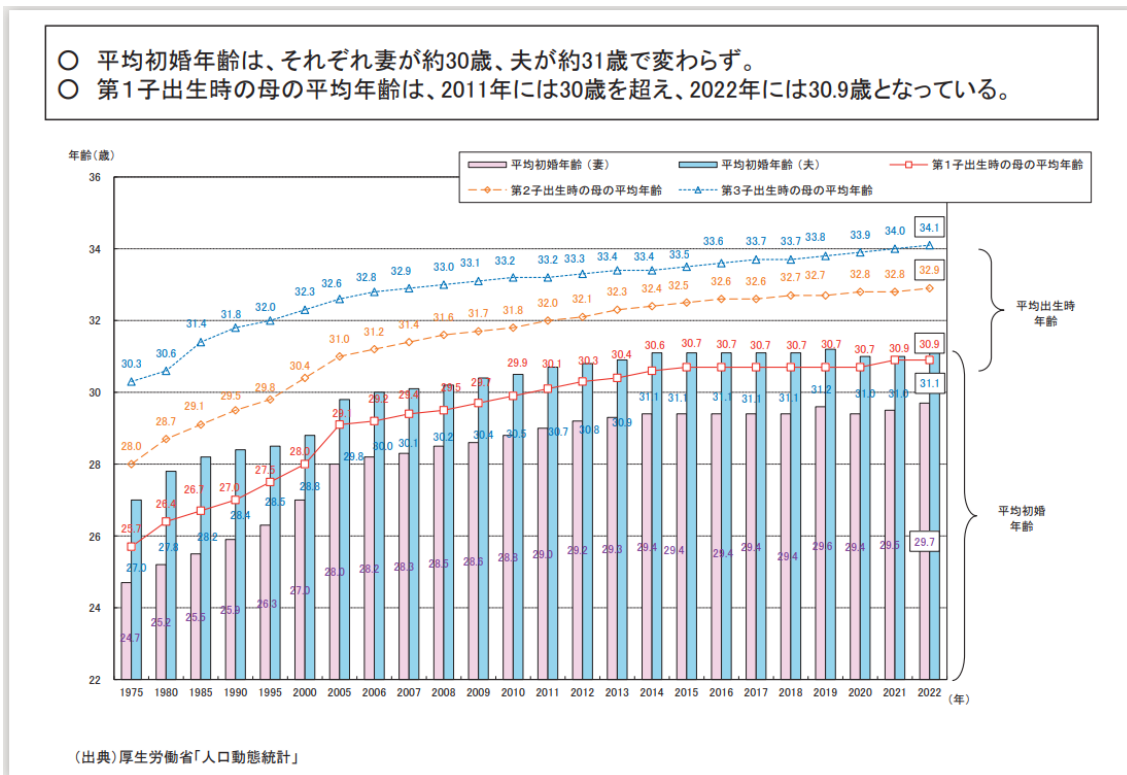
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・年齢が高くなるほど、「見合い」や「結婚相談所」がきっかけの結婚が多くなっている。いわばこれまでも未婚男女は必ずしも一人で相手を見つけてきたわけではなく、伴走支援を受けてきた層が一定数いたと推測される。
- ・近年は、インターネットやSNSでの出会いも一定数見られる。

(6) 晩婚化の進行？実は…

- ① 近年は、昔と比べて、結婚する時期が遅くなっている（晩婚化）と言われており、平均初婚年齢等が年々上昇している。



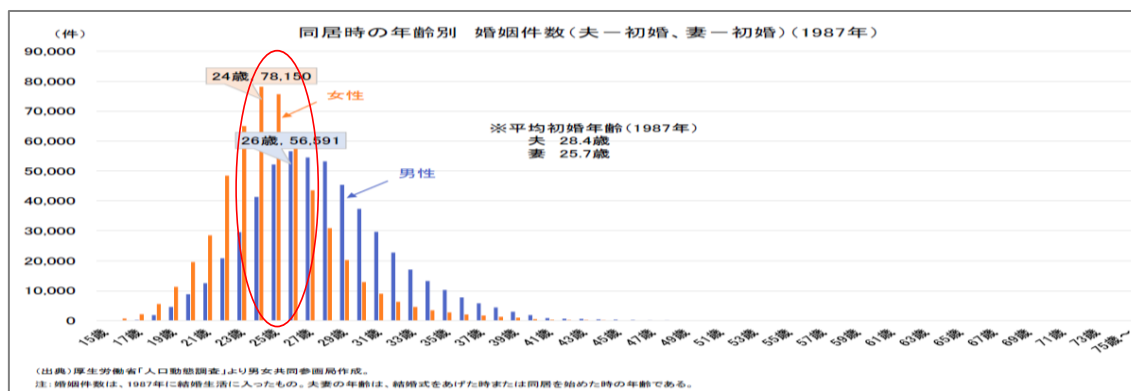
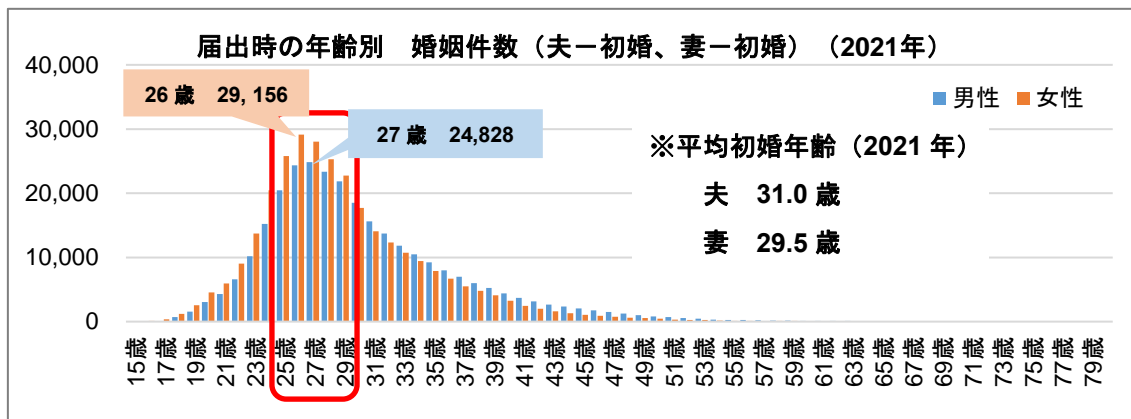
こども家庭庁『令和4年度 少子化の状況及び少子化への対処施策の概況』
 「図表4 平均初婚年齢と出生順位別出生時の母の平均年齢の推移」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・近年、若い人たちが、昔と比べて、なかなか結婚しない。結婚時期が遅くなる。晩婚化が進んでいると「**言われて**」いる。実際、このように統計を見てみると、たしかに、初めて結婚する年齢(平均初婚年齢)は、年々上昇している「**ように見え**」る。
- ・理由は色々と考えられる。例えば4年制大学に進学する若者は男女とも昔より増えており、大学を出て3年は仕事に専念すると、その時点で既に26歳、27歳。そこから結婚のことを考え始めたら、あっという間に30歳を迎えることも考えられる。

- ② 一方、実は統計上、今も、男性も女性も最も初婚で結婚する人数が多いのは20歳代後半である。



上：厚生労働省『人口動態統計』「婚姻件数（当該年に結婚生活に入り届け出したもの）、夫—妻の結婚生活に入ったときの年齢（各歳）；夫妻の平均婚姻年齢，初婚—再婚・都道府県（特別区—指定都市再掲）別」（2021年）より作成
下：内閣府男女共同参画局『結婚と家族をめぐる基礎データ』「届出時の年齢別婚姻件数」（令和3年12月14日）

研修時のポイント等

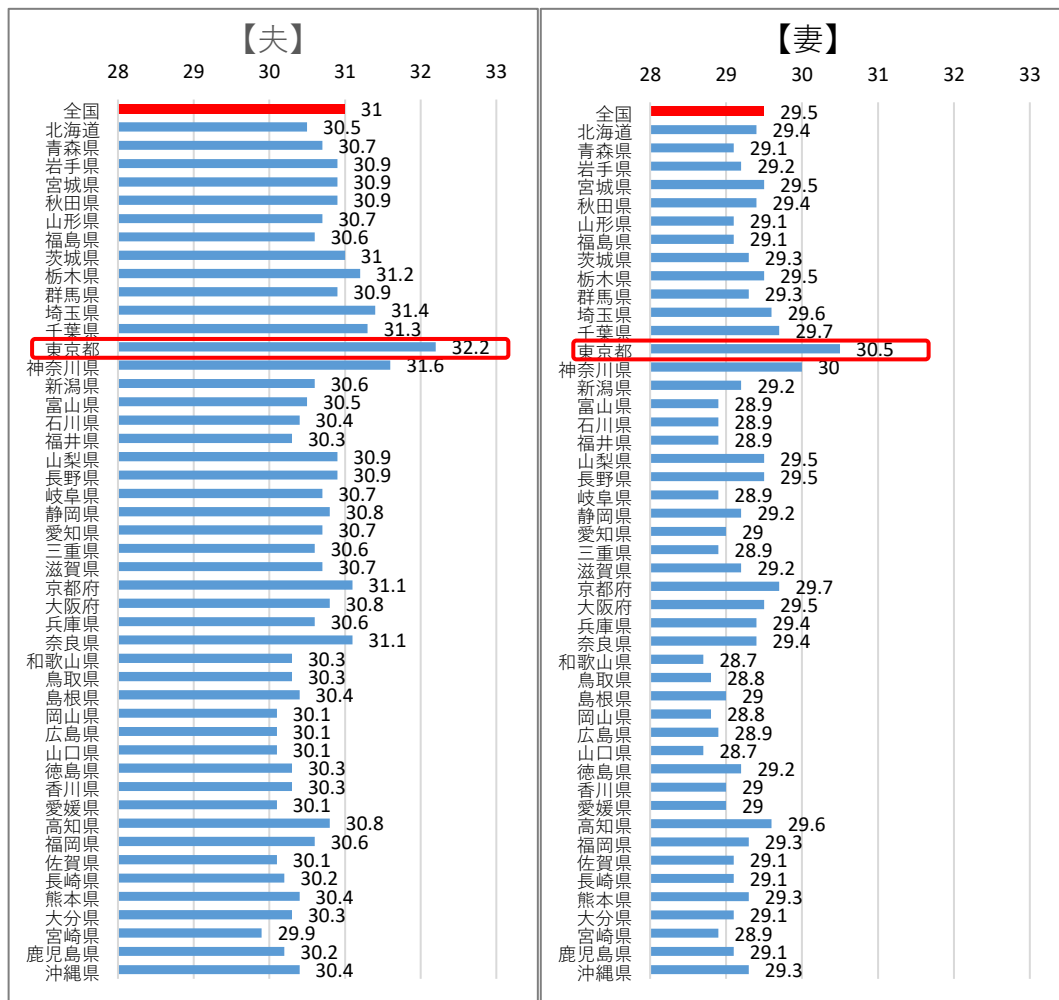
【重点説明ポイント】

- ・こちらのグラフをみると、実は、「平均初婚年齢」は、確かに30歳以上だが、男性も女性も、もっとも多くの人たちが結婚するのは「26歳～27歳」頃。
- ・高齢で結婚する方も増えてきたことから、「平均初婚年齢」は上がっているが、結婚する人が多い「最頻値」は、実は、もっと早い段階となっている。

【講義展開例】

- ・夫と妻の初婚率のグラフについて、受講者に感想を聞く。
- ・利用者の中には、30歳代後半になってから来所するケースもあるが、こうした現実を示しつつ、婚活に前向きに取り組んでもらうためには、どのようなアドバイスが考えられるか話し合う。

③ 都道府県別に見ても、夫の平均初婚年齢全国平均（2021年時点）は31歳となっているが、実際に初婚年齢が31歳を超えている主な地域は東京都やその近隣地域となっており、地域ごとに差異が見られる。



厚生労働省『人口動態統計』「都道府県別にみた年次別夫妻の平均初婚年齢」（2021年）より作成

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- 一部のケースが平均初婚年齢を引き上げるという点は、地域別データでも同じことがいえる。例えば、東京は他の地域と比べて、平均初婚年齢がかなり高くなっている。一方で、他の地域では、東京ほど平均初婚年齢は高くなっておらず、晩婚化の進み具合には地域差が見られる。

★結婚に関するよくある思い込み・誤解を解くために

ボランティアの皆さんは、様々な相談を受ける中で、利用者やその家族の思いを受け止めつつも、思い込みや誤解を解いてストライクゾーンを広げることにより、利用者が結婚に向けて前向きな一歩を踏み出せるような支援が求められる場面も出てくるかと思います。

ご自身の人生経験を踏まえた助言もあるかと思いますが、本モデルプログラムでは、客観的なデータを正しく引用し示すことで、利用者に新たな気づきを得てもらうような素材を、盛り込んでいます。

代表的なものを抜粋して以下にまとめましたので、ご参照ください。

(ケース 1)

■最近では晩婚化といわれているのでまだ焦らないでいいよね。

⇒確かに平均初婚年齢は上昇していますが、初婚のピークは 27 歳です。一部の高齢で結婚するケースが平均を引き上げてしまっているためデータの見方に注意が必要です。

参照：第 1 章 P20 (6) 晩婚化の進行？実は… ②

(ケース 2)

■男性の方が女性よりも学歴が上の方が良い。

⇒ここ 30 年で 4 年制大学進学率は大幅に増加しています。大卒は特別なステータスではなくなってきています。

参照：第 2 章 P25 (2) 男女別進学率の推移
～結婚をめぐる社会情勢の変化～

(ケース 3)

■今の収入で結婚できるか不安。

⇒「結婚後に期待する相手の年収」を未婚者と既婚者とで比較すると、未婚者の方が「結婚生活にお金がかかる」と思いがちという調査結果も出ています。

参照：第 2 章 P35 (9) 結婚には経済力が必要という思い込み

(ケース 4)

■(男性が)芸能人のように年下の若い奥さんが欲しい。

■男性は結婚を焦らなくても大丈夫。若い女性と結婚すればよい。

⇒芸能界等特殊な事例もありますが、データを見ると歳の差がある結婚はかなり少なく、夫 4 歳上～妻 2 歳上の近い年齢の結婚が 7 割を超えます。

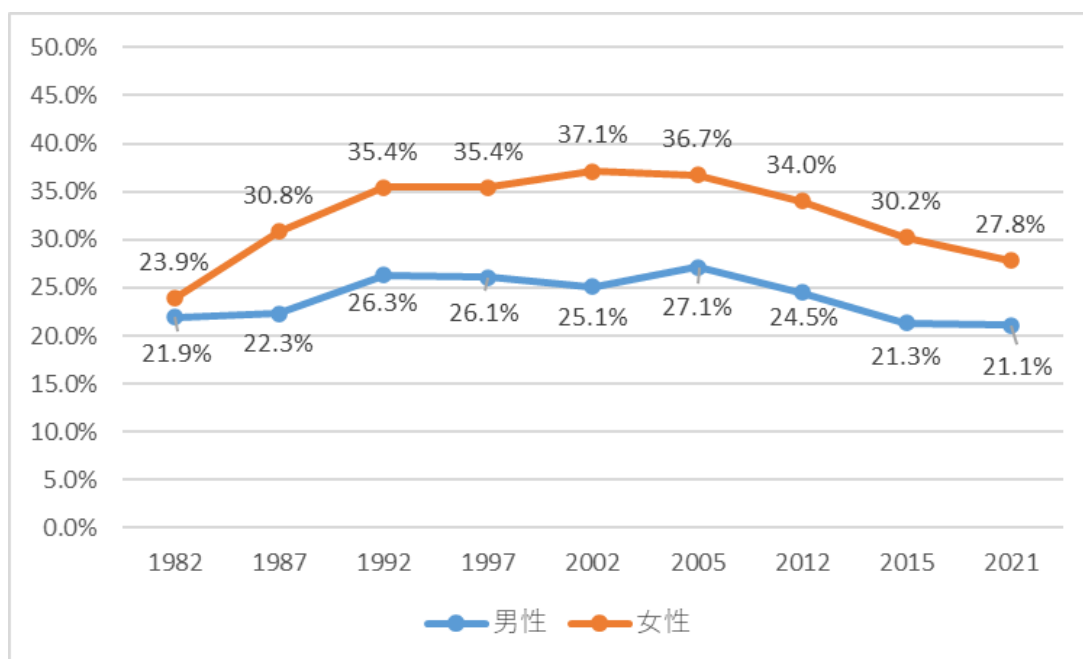
参照：第 2 章 P38 (11) 年の差婚がブーム！？ 実は…

第2章. 未婚者の恋愛・結婚状況

ここでは、皆さんが今後かかわることになる未婚者の方たちを取り巻く社会の変化をみた上で、社会とともに変化する結婚に関する意識・行動を理解し、未婚者の方の希望をかなえる結婚支援とは何かを考えていきます。

(1) 男女別にみる「交際相手がいる割合」の推移

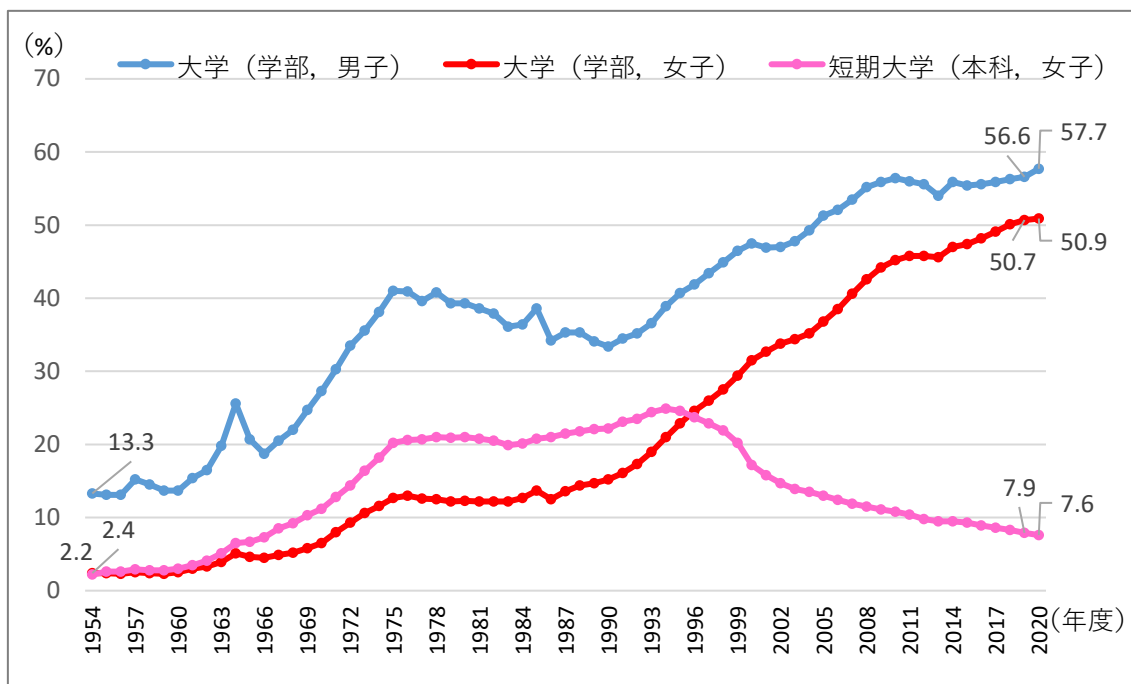
18歳から34歳の男女で、「恋人として交際している異性がいる」、または「婚約者がある」人の割合は、男性が約2割、女性が約3割。



国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」図表2-1-1 調査・年齢別にみた、未婚者の異性との交際の状況（恋人または婚約者がある割合）より作成

(2) 男女別進学率の推移

男女とも大学進学率が年を経るごとに大きく変化。4年制大学進学率について男性は58%、女性は51%。男女間の大学進学率の差が縮小している。



内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書 令和3年版』「I-5-1 図 学校種類別進学率の推移」より作成

研修時のポイント等

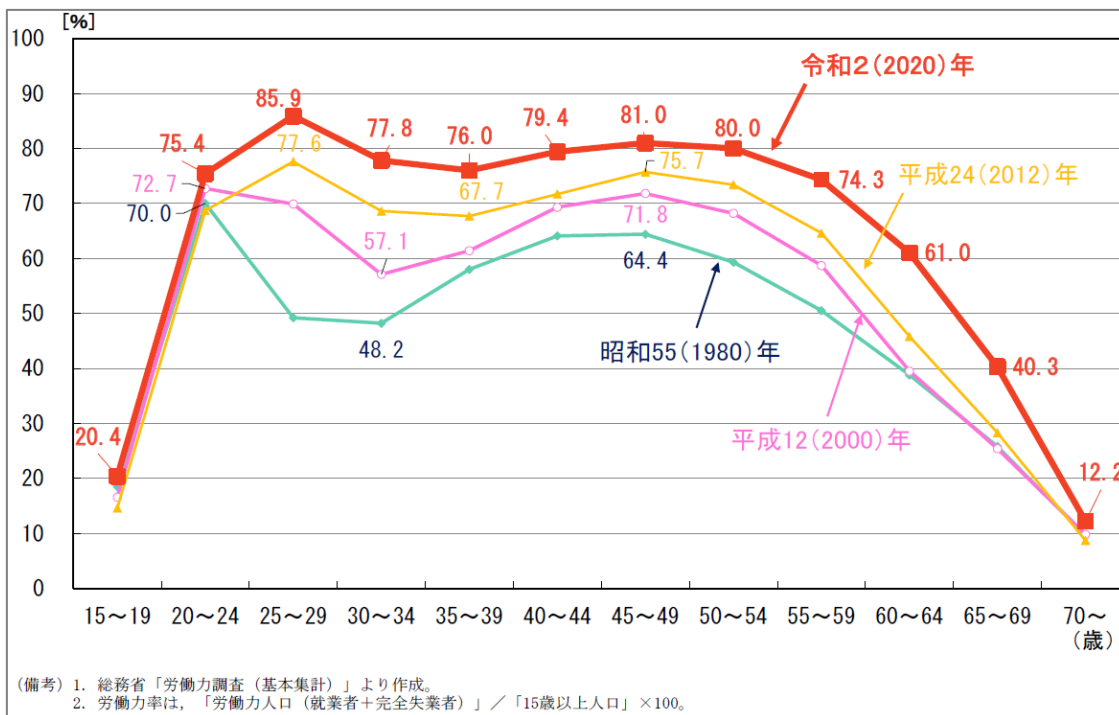
【重点説明ポイント】

- ・以前は、女性で高卒や短大卒が当たり前という時代があったが、近年、「女性の高学歴化」が進んでおり、今では男女ともに5割以上が4年制大学に進学。
- ・このような変化に伴い、近年、夫の学歴より妻の学歴の方が高いというケースも増加している（（参考）天野馨南子（2019）『データで読み解く「生涯独身」社会』「学歴上位妻の割合」P129）。
- ・大学・大学院への進学に伴い、学生時代が延長化することで、就職など社会に出るタイミングも遅くなることになる。

(3) 女性の年齢階級別労働力率の推移

25歳～29歳の女性の労働力率は、1980（昭和55）年では、5割を切っていたが、2020（令和2）年では8割を超えている。

20歳代後半が社会人としてのキャリア形成の時期と重なるようになった。



内閣府男女共同参画局『結婚と家族をめぐる基礎データ』「女性の年齢階級別労働力率の推移」（令和3年12月14日）

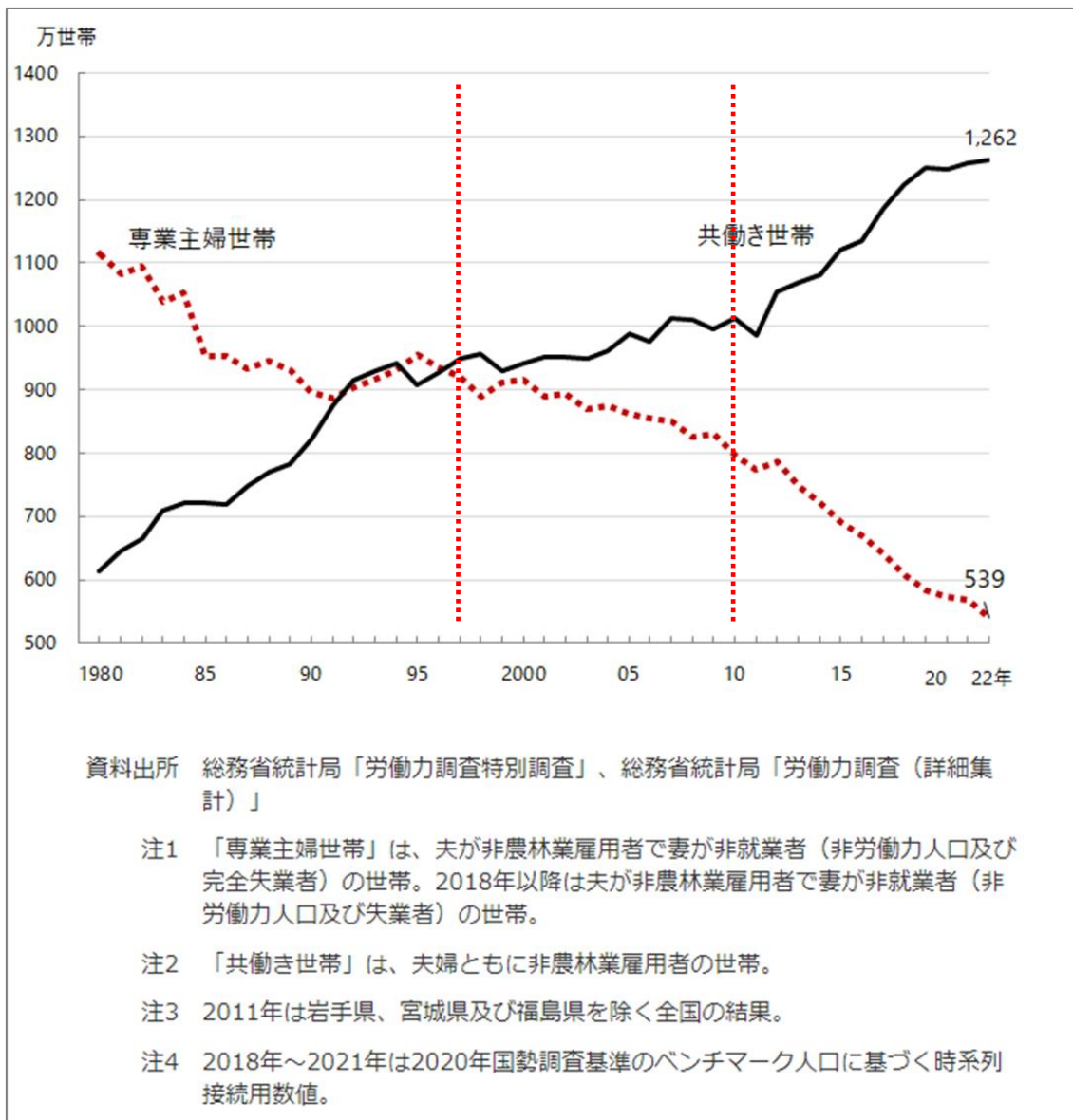
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・労働力率とは、15歳以上で働く意思のある（求職活動を行っている）人の中で、実際に働いている人の割合のこと。
- ・社会における女性の活躍度合いをみるデータとして、この労働力率を使った「年齢階層別女性労働力率のM字カーブ」がよく紹介される。
- ・女性の労働力率がM字カーブになる理由として「出産を機とした労働市場からの退出」がよく挙げられる。これは、こどもができることによって30代前半で出産・育児で一度、休職や退職するためである。
- ・日本では、M字カーブが解消されつつあり、1980年代では5割を切っていたが、2020年では8割を超え、20歳代後半の時期もキャリア形成の時期と重なるようになった。
- ・他方、女性の労働力率は上昇したものの、出産・育児のために一時離職し、再就職する30歳以上女性の中には非正規雇用となる女性も多い。こうした実態から、結婚によって、雇用が不安定化することに抵抗感のある女性も多いので、女性のキャリア形成・継続に配慮した結婚支援を行う必要がある。

(4) 共働き世帯と専業主婦世帯の推移

1980（昭和55）年以降、夫婦ともに雇用者の共働き世帯は増加し、1997（平成9）年以降は、共働き世帯が専業主婦世帯を上回っている。2010年以降は、共働き世帯が急激に増えている。男女ともに働きながら家事・育児を担うことが求められる時代に。



労働政策研究・研修機構『早わかり グラフでみる長期労働統計』「図12 専業主婦世帯と共働き世帯 1980～2022年」

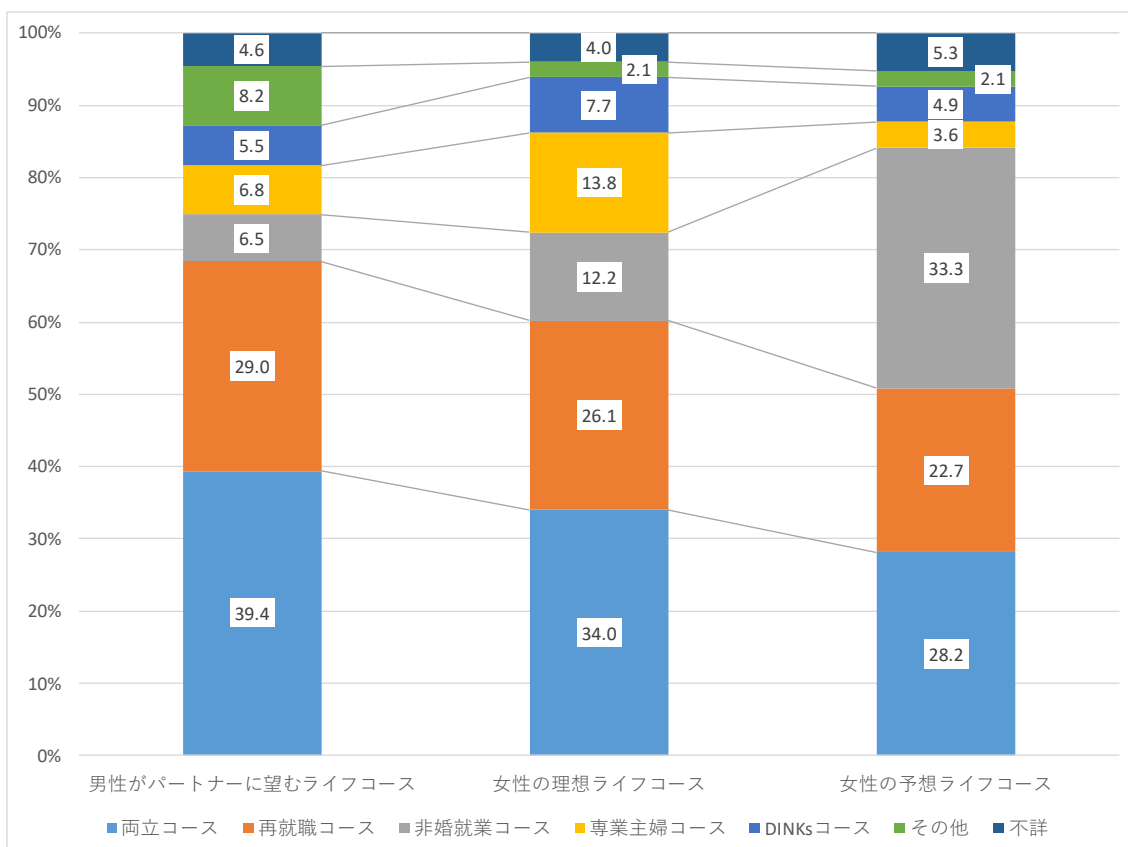
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・1980 年前半から半ばまでは、ほとんどが専業主婦世帯であった。
- ・しかし、90 年代に入ると専業主婦世帯と共働き世帯が拮抗するようになった。つまり、半分の子どもたちが働く母親を日常として目にする社会へと変化している。
- ・2000 年以降、共働き世帯が急増をみせ、2017 年の直近では専業主婦世帯は 36% にまで減少し、共働き世帯が一般的になっている。
- ・このような 1990 年以降の急激な「夫婦の働き方」の変化が、若い世代の結婚観や家族意識に影響を及ぼしている可能性もある。

(5) 女性の予想するライフコースと男性が望むライフコースの差異

今後の人生のライフコースについて、女性は「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける（両立コース）」を理想とする割合が34.0%で最多であり、男性がパートナーに望むライフコースも「両立コース」が最多である。しかし、女性が実際になりそうだと考える予想ライフコースでは、「結婚せず、仕事を続ける（非婚就業コース）」が33.3%で最多であり、本当は仕事と子育てを両立したいにもかかわらずそれを諦めざるを得ないと感じている女性が多いことが伺える。



国立社会保障・人口問題研究所『第16回出生動向基本調査』「図表3-1-1 調査別にみた、女性の理想・予想のライフコース、男性がパートナーに望むライフコース」を基に作成

※DINKSとは、Double Income No Kidsの略であり、子どもを持たない共働き夫婦のことである。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・女性が理想とするライフコースと現実にとらざるを得ないと感じているライフコースにギャップが存在する。
- ・男性がパートナーに望むライフコースも「結婚し、子どもを持ち、仕事も続ける（両立コース）」を望む人が 39.0%で最大となっている。
- ・婚活の段階から結婚生活を具体的にイメージして擦り合わせることで、成婚に結び付きやすくなる。

(6) 恋愛や婚活に受け身になりがち

「恋愛は面倒」、「自信がない」との回答も一定割合あり。恋愛に対して、相手からアプローチがあれば考えるが4割。

(複数回答) (%)

	2020年							
	日本		フランス		ドイツ		スウェーデン	
	男性 (n=648)	女性 (n=724)	男性 (n=493)	女性 (n=507)	男性 (n=520)	女性 (n=502)	男性 (n=505)	女性 (n=495)
恋愛よりも勉強や仕事を優先したい	14.5	10.5	16.2	14.0	16.5	11.8	14.1	11.7
恋愛よりも趣味を優先したい	22.4	14.5	17.0	9.3	7.9	7.2	10.1	8.3
交際すると相手との結婚を考える	34.0	39.6	17.6	26.2	36.2	40.8	29.1	32.5
いつも恋愛をしていたい	8.8	9.0	21.1	28.0	29.4	30.3	22.6	16.6
気になる相手には自分から積極的にアプローチをする	22.7	16.6	21.9	13.0	41.3	35.1	36.0	32.7
相手からのアプローチがあれば考える	34.6	45.6	11.2	9.7	16.9	17.1	31.7	19.2
恋愛することで人生は豊かになる	43.1	52.2	52.1	55.8	58.1	66.7	87.1	88.1
恋愛は面倒だと感じる	19.1	19.6	2.0	1.0	5.0	5.4	15.6	13.1
恋愛することに自信がない	14.7	13.7	6.1	6.7	6.9	7.0	2.2	1.2
恋愛はしたいがお金がかかる	15.7	7.9	6.9	3.0	10.0	3.6	4.0	3.4

内閣府子ども・子育て本部『令和2年度少子化社会に関する国際意識調査』
「問1 恋愛に関する考え方」から抜粋

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・このデータが示す通り、恋愛・婚活に受け身になりがちの方も多し。相手へのアプローチを遠慮しがちな利用者に対して受講者の皆さんが、ほんの少し背中を押して、利用者がときには積極的になれるようなサポートをお願いしたい。

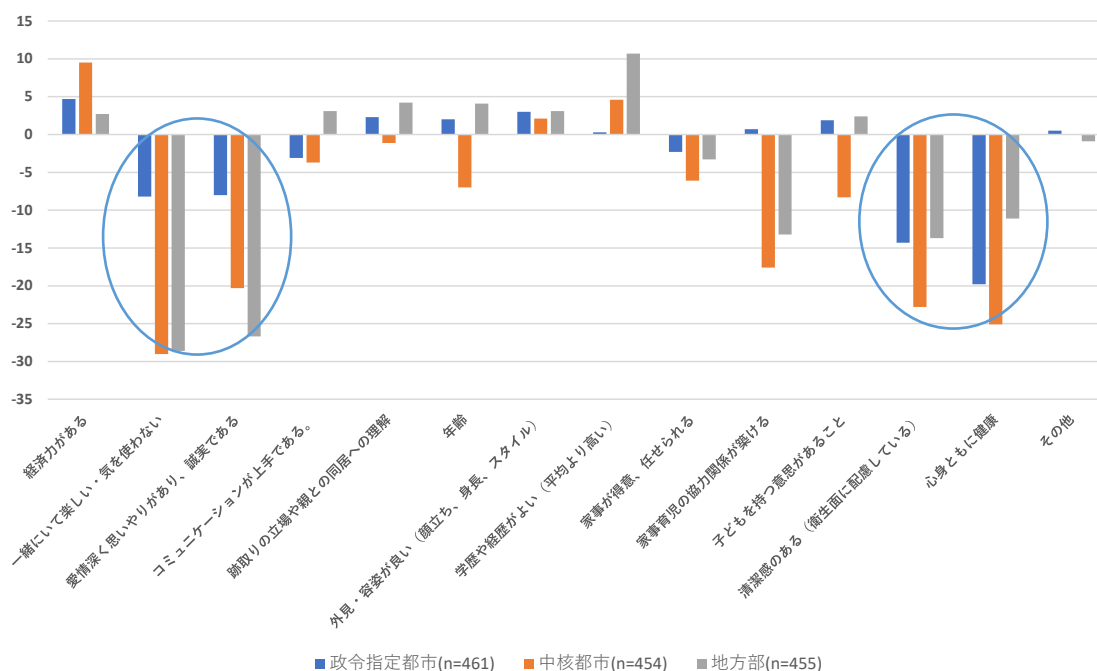
【講義展開例】

- ・このデータと、受講者の恋愛観と比較させ、「ご自身が恋愛されていた頃、結婚される前を思い出してみ違いなどありますか」など意見を求める。

(7) 都市規模別にみる未婚男性の「結婚条件ミスマッチ」

男性は「居心地の良さ」「愛情深さ・誠実さ」「健康」「清潔感」を過小評価。中核都市・地方部在住の男性は、政令指定都市在住の男性と比べて「居心地の良さ」「愛情深さ・誠実さ」という条件を過小評価する傾向。

複数回答 (%)



内閣府子ども・子育て本部『結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』(ミスマッチ=結婚相手から求められていると思う条件(男性回答率)ー結婚相手に求める条件(女性回答率))

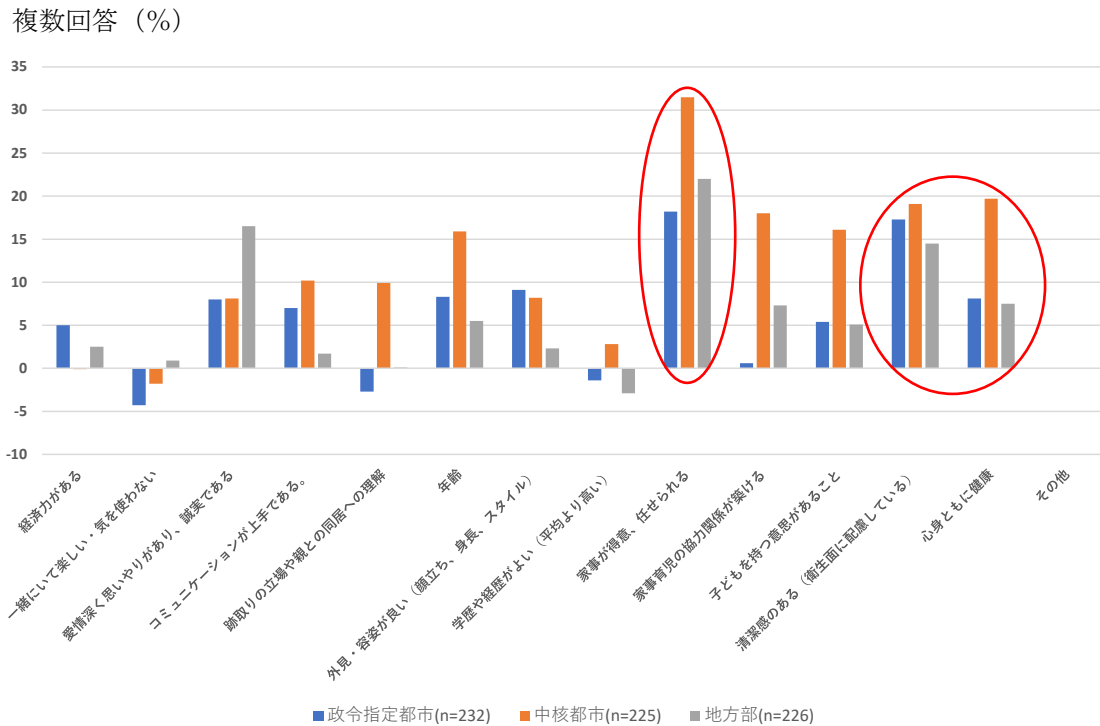
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・婚活を行う上で「結婚相手から求められる条件」は重要な要因の一つとなる。利用者自身が「相手に求める条件」と相手が「利用者に求める条件」が一致しない(ミスマッチがある)場合、成婚まで至らない可能性が高くなると考えられる。
- ・未婚女性は「居心地の良さ」「愛情深さ・誠実さ」「健康」「清潔感」といった条件を求めているが、未婚男性は「年収」「学歴」等を重視されていると思いがちで、利用者にもこの点を意識してもらえれば、成婚に結び付きやすくなると思われる。
- ・特に、地方部では「居心地の良さ」「愛情深さ・誠実さ」といった条件を未婚男性が重要視していない傾向がある点に留意が必要。

(8) 都市規模別にみる未婚女性の「結婚条件ミスマッチ」

女性は「家事が得意」という条件について、男性側が相手に求める条件との間に、認識のギャップがある。



内閣府子ども・子育て本部『結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』（ミスマッチ＝結婚相手から求められていると思う条件（女性回答率）－結婚相手に求める条件（男性回答率））

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・「結婚条件のミスマッチ」について、未婚女性は「家事が得意」「清潔感」「健康」といった条件を重要だと考えているが、未婚男性はそれほど重要とは認識していない。両者の評価の間にギャップがある。
- ・こういった調査結果もあるので、もし利用者の女性が「家事が苦手だ」と自分で思っている場合、そういった面だけで消極的にならないようにアドバイスしてほしい。

(9) 結婚には経済力が必要という思い込み

未婚者と既婚者の双方の金額に関する意識がわかるデータによると、未婚者は実際よりも過大に「結婚生活にはお金がかかる」と思いがち。

未婚者			既婚者		
1位	400万～500万	23.6%	1位	400万～500万	23.5%
2位	500万～600万	20.1%	2位	300万～400万	21.1%
3位	300万～400万	15.2%	3位	500万～600万	18.1%
4位	700万～1,000万	12.4%	4位	200万～300万	11.1%
5位	600万～700万	10.0%	5位	700万～1,000万	7.0%

資料：明治安田総合研究所「20代～40代の恋愛と結婚―第9回結婚・出産に関する調査より―」
(2016年)より作成 ※〔全国の20歳～49歳の男女3,595人対象〕

天野馨南子 (2021) 『未婚化する日本』「結婚後に期待する相手の年収は？」
(未婚者 vs 既婚者) P142

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・自身の収入を気にしすぎることや、相手の収入水準に強いこだわりを持つことは、婚活を進めていく上で、結婚を妨げる要因の一つになる。
- ・結婚生活のために収入がどれくらい必要かは家庭の事情や住む地域によって異なる。また、このデータは、実際に結婚した夫婦が「思っていたほど収入がなくても、やっていける」と感じていることを示している。
- ・受講者の皆さんには、利用者が婚活において自身や相手の収入等を過度に意識しすぎることがないように、利用者にはアドバイスしてほしい。

(10) 未婚男女の「年齢危機感ミスマッチ」

- ① 18歳から34歳までの未婚女性の約8割が、おなじ歳～4歳年上までの男性との結婚を希望。また、未婚男性の約7割がおなじ歳～4歳年下までの女性との結婚を希望。

女性の希望

	男性との歳の差	割合	累計割合
1位	1～2歳年上	29.6%	29.6%
2位	おなじ歳	28.4%	58.0%
3位	3～4歳年上	20.6%	78.6%
4位	5～6歳年上	12.0%	90.6%
5位	7歳以上年上	5.6%	
6位	年下	3.9%	

男性の希望

	女性との歳の差	割合	累計割合
1位	おなじ歳	41.8%	41.8%
2位	1～2歳年下	14.9%	56.7%
3位	5～6歳年下	14.5%	—
4位	3～4歳年下	12.0%	68.7%
5位	7歳以上年下	8.5%	
6位	年上	6.7%	

資料：国立社会保障・人口問題研究所（2015年）「第15回出生動向基本調査（独身者調査）」より作成

※〔2015年の独身者調査の有効票数は8,752票、夫婦調査の有効票数は6,598票〕

天野馨南子（2019）『データで読み解く「生涯独身」社会』「18歳～34歳の未婚男女の希望する「結婚相手との年齢差」ランキング」P67

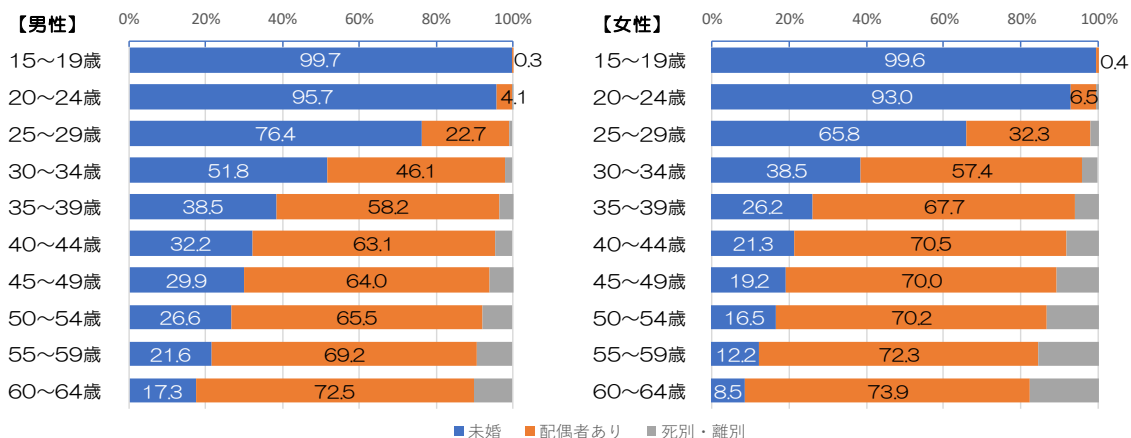
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・このデータからは、男女ともに同い年～4歳差までの異性との結婚を望んでいる傾向がみられる。
- ・なお、女性は男性と比較して初婚年齢が低く、いわば早く結婚していく傾向があるため、男性は結婚を先延ばしにするほど、同年代女性とは結婚しにくくなっていくこととなる。

② 男性が30代前半にもなると、すでに希望している同年齢ゾーンの女性の約6割は既婚。その一方で、男性は約半数が未婚のまま。

男性が30代前半になってから同年齢ゾーンの女性と結婚を希望しても、同年齢ゾーンの未婚女性は少なくなっている。



資料：令和2年国勢調査より作成

天野馨南子（2019）『データで読み解く「生涯独身」社会』「年齢ゾーン別の未婚者の割合」P46 を基に更新

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・一般的に、女性は妊娠・出産との兼ね合いから、早い時期から結婚を意識するのに対して、男性はそういったことがないため、結婚を先延ばしにしがち。
- ・そのため、男性から見ると、結婚したい同世代女性は既婚割合が高く、また自分より若い世代の女性は未婚であっても自分と年齢の近い男性を選択する傾向が強いため、結婚希望が叶いにくい状況は年齢を重ねるごとに加速することになる。「結婚先延ばし」はむしろ男性にこそ大きなリスクがあるとも言える。

(11) 年の差婚がブーム！？ 実は…

芸能人カップルの、年の差婚が報道されて目立つ傾向があるが、実は、統計上、年の差婚はかなりレアケース。

若い相手との結婚を望むのならば、自分も若いうちから婚活を始めないと、希望をかなえるのは難しい。

	年齢差	婚姻数	割合	割合累計
1位	同年齢	59,596	22.4%	22.4%
2位	夫1歳上	37,357	14.0%	36.4%
3位	妻1歳上	27,157	10.2%	46.6%
4位	夫2歳上	24,702	9.3%	55.9%
5位	夫3歳上	19,069	7.2%	63.1%
6位	夫4歳上	14,789	5.6%	73.6%
7位	妻2歳上	13,174	4.9%	77.7%

厚生労働省『人口動態統計』「初婚夫妻の年齢差別にみた年次別婚姻件数及び百分率（各届出年に結婚生活に入り届け出たもの）」より作成

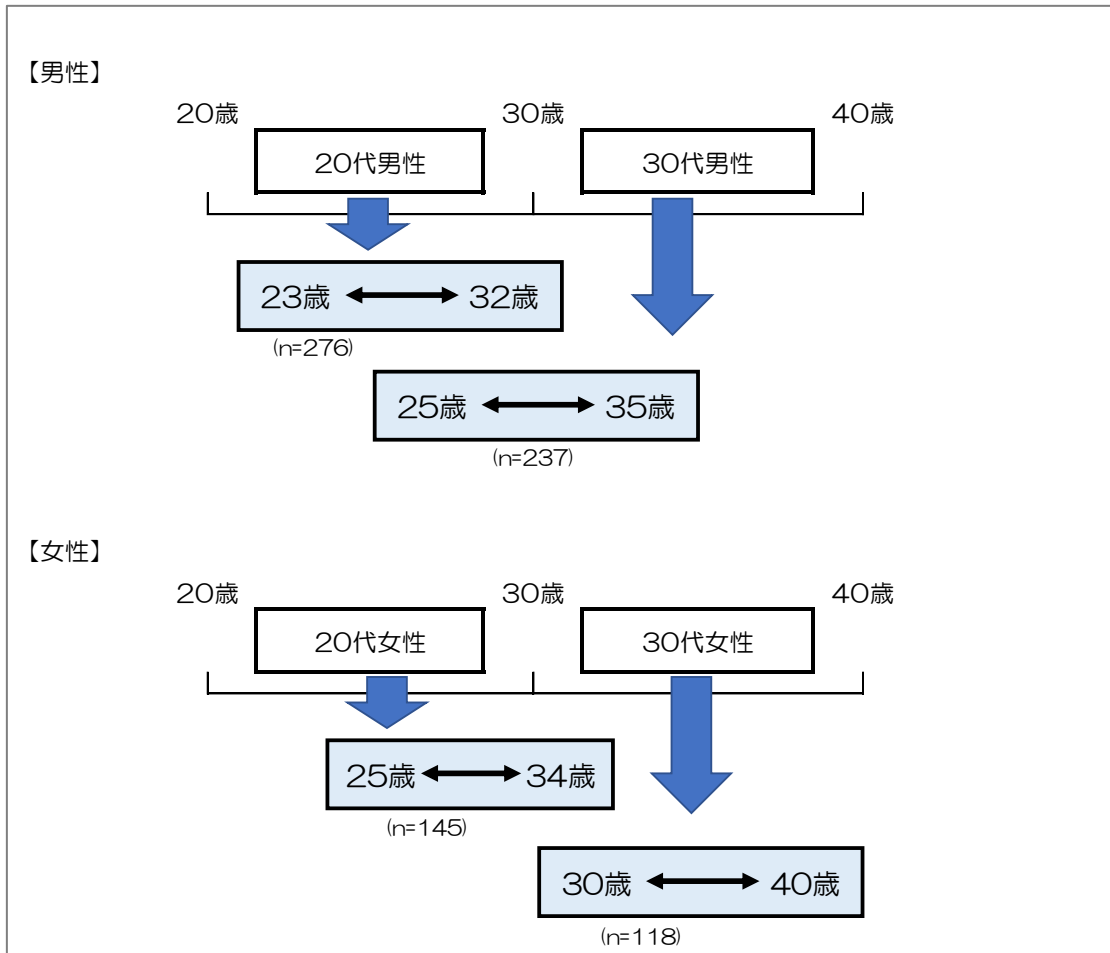
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・例えば30代後半以上で婚活を始めた男性だと、10歳以上年下女性と結婚したいと希望することも多いかもしれない。しかし、このデータでみると、妻2歳上から夫4歳上までに7割超の結婚が集中しており、これに年齢差が当てはまらない（離れた）結婚は統計的にはかなりレアなケースといえる。

(12) 求める相手の年齢のギャップ

未婚女性に比べて未婚男性は自己年齢が高くなるにつれて自分よりも年上拒否、年下選好の傾向が高まる。



天野馨南子 (2021) 『未婚化する日本』「求める相手の年齢ギャップ」P109

研修時のポイント等

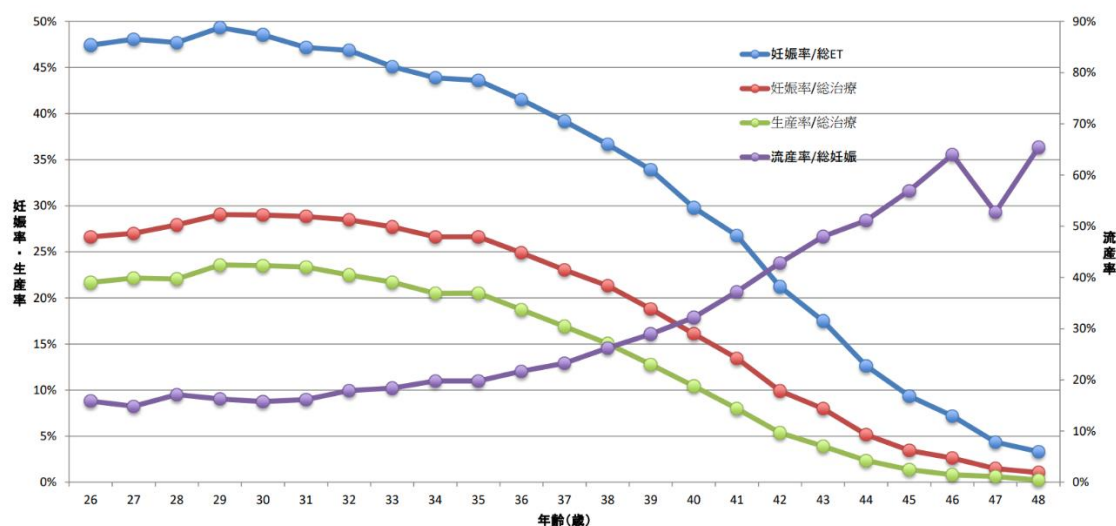
【重点説明ポイント】

- ・未婚男性は年齢上昇に従い年下選好が強まるが、そのことで一層結婚が難しくなることを伝える必要がある。

(13) 年齢と妊娠の関係

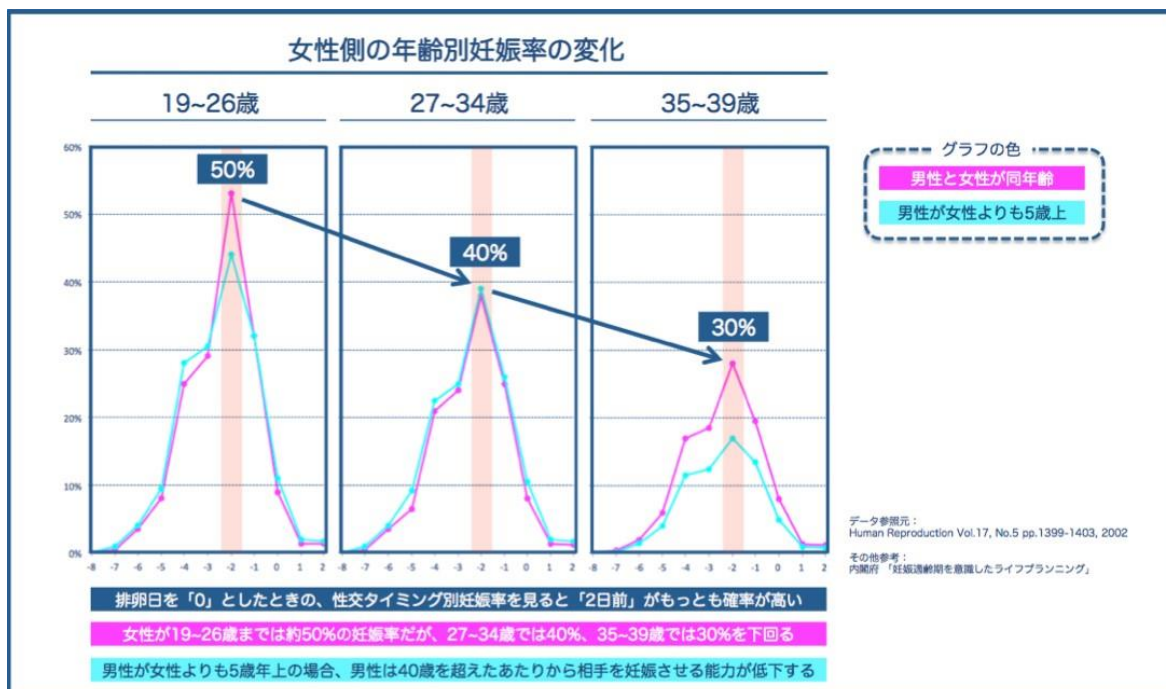
女性の年齢が高くなるほど妊娠する確率は下がり、流産する確率は高まる傾向にある。

ART妊娠率・生産率・流産率 2021



公益社団法人日本産科婦人科学会『2021年 体外受精・胚移植等の臨床実施成績』「ART 妊娠率・生産率・流産率 2021」

男性についても、40歳を超えたあたりから相手を妊娠させる能力が低下することがデータから示唆されている。



三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」ウェブサイト

(データ提供元：Human Reproduction Vol.17, No.5 pp.1399-1403, 2002)

(その他参考：内閣府「妊娠適齢期を意識したライフプランニング」)

※ARTとは、生殖補助医療 (assisted reproductive technology:ART) のことであり、「妊娠を成立させるためにヒト卵子と精子、あるいは胚を取り扱うことを含むすべての治療あるいは方法」である。一般的には体外受精・胚移植 (IVF-ET)、卵細胞質内精子注入・胚移植 (ICSI-ET)、および凍結・融解胚移植等の不妊症治療法の総称である。配偶者間人工授精 (AIH: artificial insemination with husband' s semen) や非配偶者間人工授精 (AID: artificial insemination with donar' s semen) は除外する。(公益社団法人「日本産婦人科医会」公式 HP より引用)

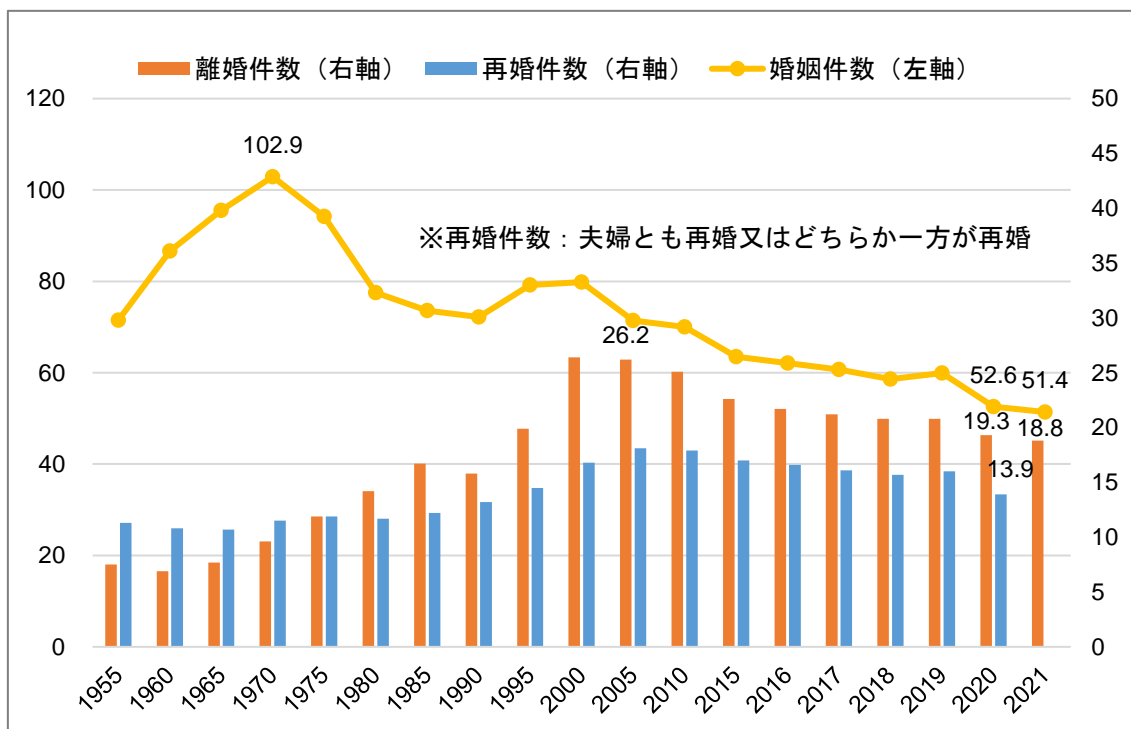
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・結婚支援ボランティアをする上では、女性の年齢が上がるほど流産率は上がり、妊娠率が下がるという事実を知っておき、利用者が困っているときは適切な情報に基づいて助言することが重要である。
- ・加えて、妊娠に関しては女性の問題と思われがちだが、男性についても同様に年齢が上がるほど妊娠させる能力が低下する、ということ把握しておくことが重要である。

(14) 離婚・再婚の動向

離婚件数は、1960年代と比較して大幅に増加。2021年は、年間51万
 件の婚姻件数に対し、離婚件数は年間19万件である。再婚件数は2020
 年時点で年間14万件。



内閣府男女共同参画局『令和4年版 男女共同参画白書』「特 - 1 図 婚姻・離婚・再婚件数の年次推移」より作成『結婚と家族をめぐる基礎データ』「結婚・離婚・再婚件数の年次推移」(令和3年7月26日)

※2021年は離婚件数と婚姻件数のみ記載。

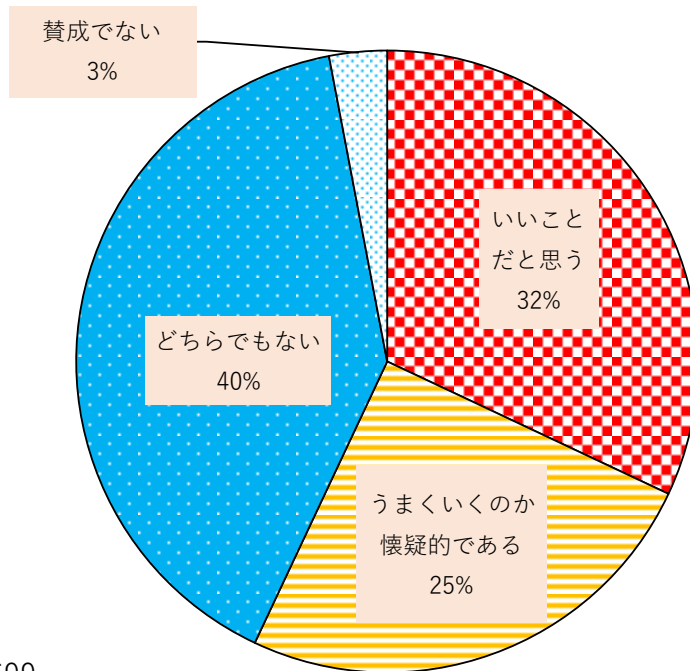
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・結婚支援現場には、一度も結婚したことがない未婚者の方だけでなく、結婚したものの、様々な事情で独身に戻り、再婚を目指している方もいる。
- ・婚姻件数全体のうちで、実は再婚が約4分の1を占めるようになっている。
- ・センターの利用者には初婚だけでなく再婚を目指す方もいることを念頭において活動してほしい。

(15) ステップファミリーに対する認識

どちらかに子どもがいる場合の再婚ケースの家族「ステップファミリー」に対する肯定的意見は32%。



n = 699

日本法規情報株式会社（2018）『ステップファミリーに関するアンケート調査』「ステップファミリーについての意見」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

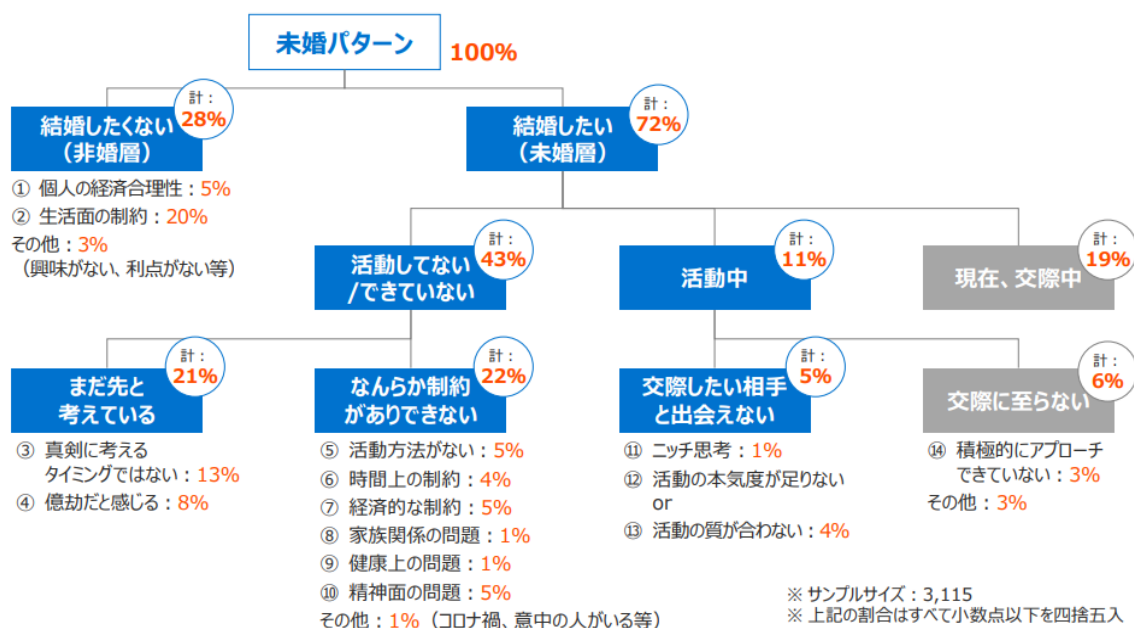
- ステップファミリーとは、再婚や事実婚により、血縁のない親子関係や兄弟姉妹関係を含んだ家族のことをいう。
- 再婚された方々の家族の中には、新たな親子の関係に不安を持つ人も多い。
- ステップファミリーは、無理に「親子関係」「新たな家族」になろうというより、新しい「チーム」をつくるという視点で生まれた言葉で、日本では欧米に比べこの言葉はあまり浸透していない。
- また、受講生には、この言葉の意味も含めた新たな家庭の在り方の理解を深めるために、支援団体や専門家から学ぶ機会をつくってほしい。
- かつては、子連れ再婚は良いイメージがなかったかもしれないが、このグラフの通り、今はネガティブなイメージを抱く人は3割弱しかいない。受講生の皆さんも先入観を持たず、結婚支援にあたって頂きたい。

これまでは未婚者の意識についてみてきましたが、ここからは、未婚者の婚活などの結婚行動について見ていきたいと思えます。

<行動>

(16) 未婚者のパターン

未婚者の未婚パターンを整理した調査によると、調査対象の未婚者のうち72%は「結婚したい」と考えているが、うち43%はまだ結婚に向けた活動に踏み出せていない層である。



日本総合研究所・エウレカ『アフターコロナを見据えた少子化対策等のための未婚者の実態調査』「未婚パターンの分析結果1」未婚者全体」

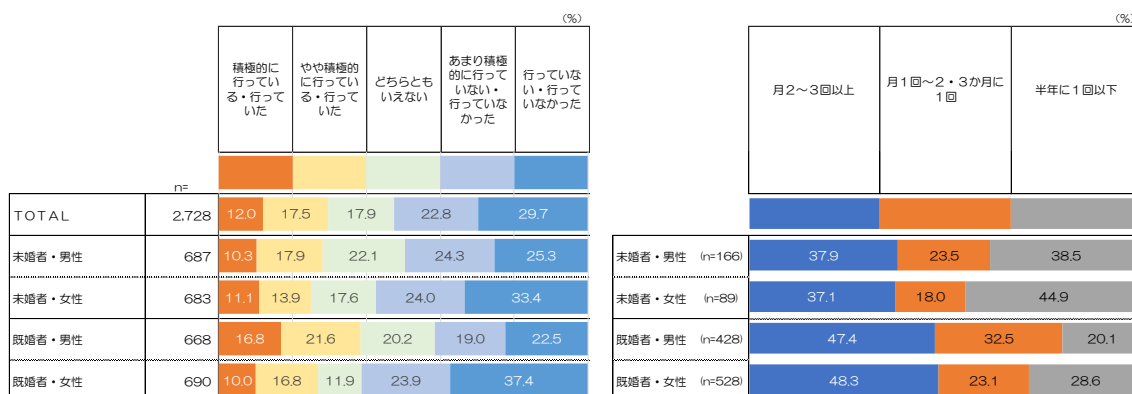
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・未婚者のうちの多数が、結婚はしたいがまだ行動に起こせていない層である。
- ・一方で、結婚支援事業を利用してくれた段階で、登録者は色々な制約を乗り越えてきてくださった方ということでもありますので、その想いを大切にしましょう

(17) 未婚者・既婚者の活動の積極性のギャップ

既婚者は未婚者より総じて、独身時代の婚活・恋人探し活動が積極的。



左図：内閣府子ども・子育て本部『令和3年度結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』「婚活・恋人探しの実施状況」より抜粋

右図：株式会社エウレカ（2020）『日本の未婚化の要因に関する仮説検証調査』「Q8 活動頻度 未婚者/既婚者（20～40代）」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

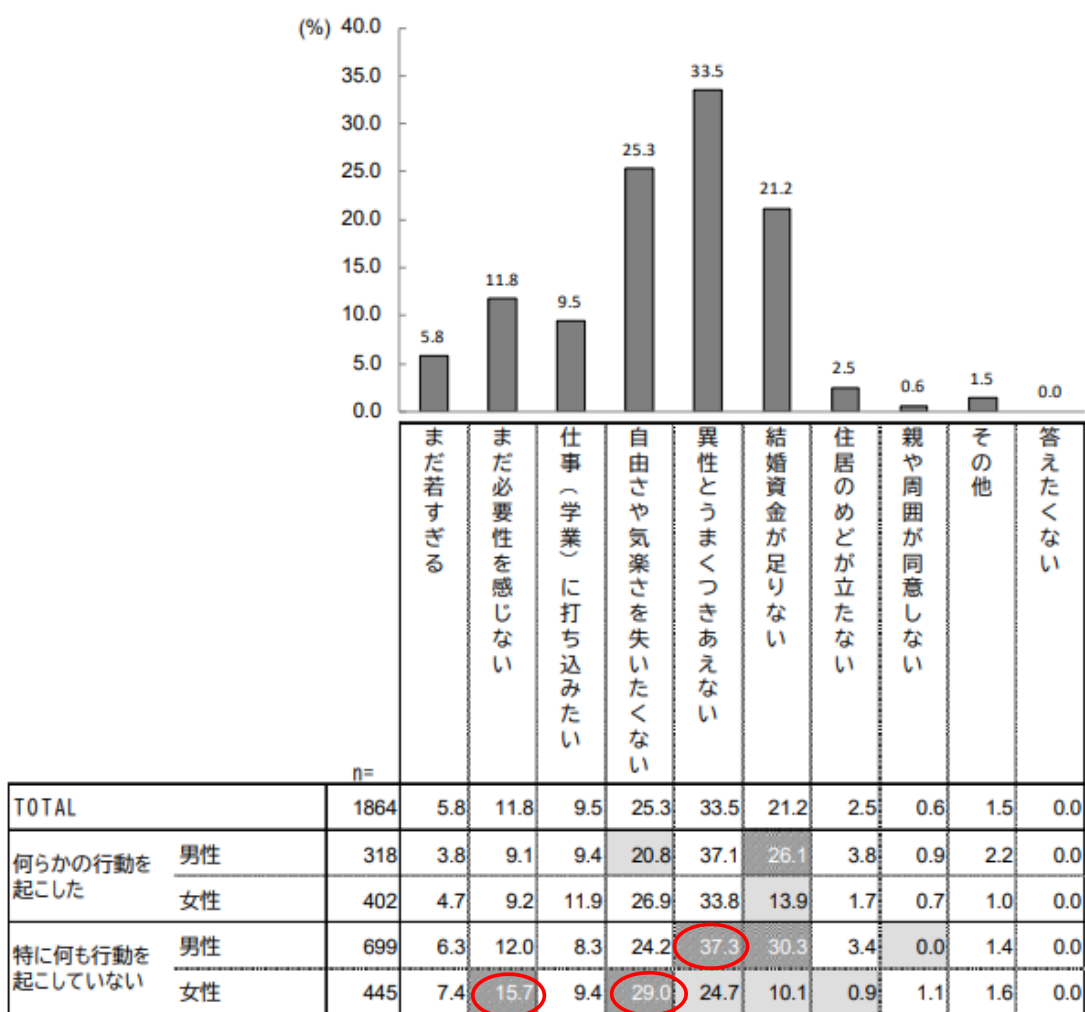
- ・第2章（5）で日本人は恋愛・結婚に受け身になりがちであることを説明したが、そのような状況で、実際に結婚できている人（既婚者）には積極的な姿勢がある。

【講義展開例】

- ・積極的に成れない利用者に対してどのようにサポートすればよいか、受講者同士で話し合ってもらおう。

(18) 「特に行動を起こしていない」未婚者の、結婚しない理由

20歳から49歳の未婚男女のうち行動を起こしていない男性では、「異性とうまくつきあえない」、行動を起こしていない女性では、他に「自由さや気楽さを失いたくない」「まだ必要性を感じない」との回答が多い。

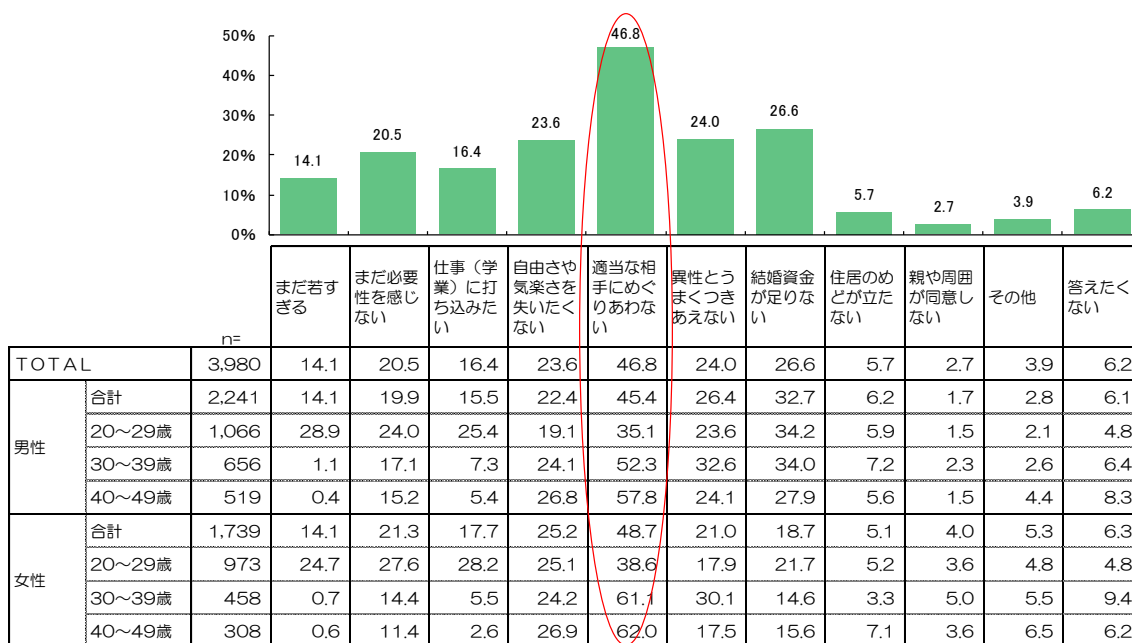


※何らかの行動を起こした：問26において、「特に何も行動を起こしていない」以外を選択した男女
 ※特に何も行動を起こしていない：問26において、「特に何も行動を起こしていない」を選択した男女
 ※「適当な相手にめぐりあわない」が100%のため、省略している。

内閣府子ども・子育て本部『平成30年度少子化社会対策に関する意識調査』
 “適当な相手にめぐりあわない”と回答した者のうち、「具体的な相手を探すための行動の有無別・性別で見た結婚していない理由」（複数回答）

(19) 年齢が上がるにつれ見つかりにくい「理想の相手」

結婚に至らない理由について、年齢が上がるにつれ「適当な相手にめぐりあわない」の回答割合が大きくなる。



内閣府子ども・子育て本部『平成30年度少子化社会対策に関する意識調査』
「結婚していない理由」(複数回答)

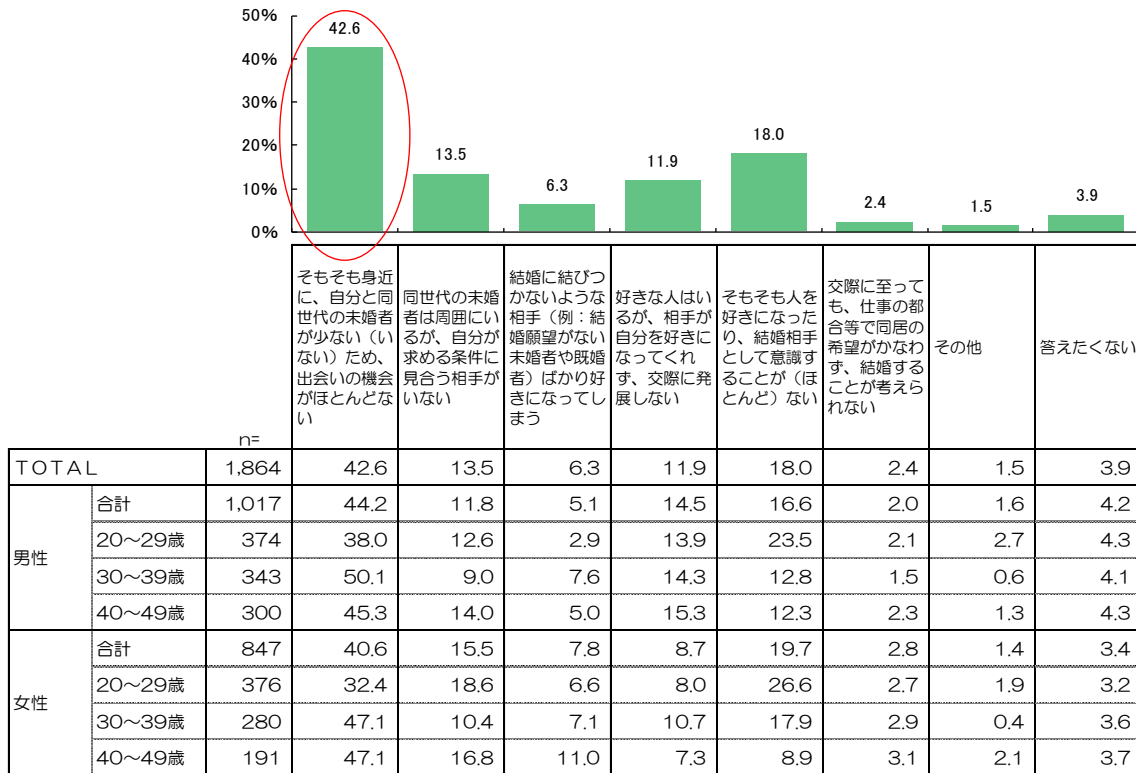
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・結婚のタイミングを決めるのは個人の自由であるが、データ上では、年齢の上昇に従い、「適当な相手にめぐりあわない」割合が大きくなっている。
- ・男女ともに30歳以上になると、「適当な相手にめぐりあわない」の回答割合が特に大きくなる。このことは20歳代後半が一つのターニングポイントになっていることを示唆している。
- ・なお、一方で年齢の高い方の婚活をマイナスに捉えることも控える必要がある。
- ・老後の生活のことも含めたライフプランニングの一環として、婚活・結婚を考えることも重要。

(20) 適当な相手とめぐりあわない理由

男女とも「そもそも身近に、自分と同世代の未婚者が少ない（いない）ため、出会いの機会がほとんどない」が最も高くなっている。



内閣府子ども・子育て本部『平成30年度少子化社会対策に関する意識調査』
「適当な相手とめぐりあわない理由」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・データ上では、「30～39歳」、「40～49歳」の男女ともに半数程度の人が、身近に同世代の結婚していない人が少なく、出会いの機会がほとんどないという状況になっている。

(21) 政令都市在住以外の男性の結婚難要因となっている「不安定雇用」

都市規模別に結婚に至らない理由をみると、政令都市と比べて、中核都市・地方部在住の男性で「雇用が安定しないから」の回答割合が大きい。

(複数回答) (%)

		n=	自分に合った相手となかなか出会えない	異性とのコミュニケーションに対する苦手意識がある	自由さや気楽さを失いたくないから	仕事や趣味・プライベートに打ち込みたい・集中したい	結婚後の生活費不足が不安だから	雇用が安定しないから	出会いはあるが、恋人以上に発展しない	理想が高い	親や周囲が同意しないから	子どもが嫌いだから	長男長女で避けられることが多いから	その他
未婚者 TOTAL	合計	1370	40.5	24.0	23.7	23.6	22.0	16.7	15.5	13.6	4.0	4.0	3.1	6.4
	政令都市在住	461	39.0	24.1	23.0	23.6	19.3	12.4	14.5	16.7	2.4	3.9	2.6	6.9
	中核都市在住	454	40.3	25.3	25.6	24.4	22.7	18.3	16.7	11.2	4.8	5.1	2.4	6.8
	地方部在住	455	42.2	22.6	22.6	22.9	24.2	19.6	15.4	13.0	4.8	3.1	4.2	5.5
未婚者・ 男性	合計	687	38.7	27.9	22.0	26.2	26.5	19.7	17.8	9.9	3.8	3.1	3.8	4.1
	政令都市在住	229	34.1	27.5	24.0	27.5	25.8	14.4	17.0	10.5	2.2	3.1	4.4	5.2
	中核都市在住	229	39.3	31.9	22.3	26.6	24.5	20.1	19.7	9.6	4.8	3.1	3.1	3.9
	地方部在住	229	42.8	24.5	19.7	24.5	29.3	24.5	16.6	9.6	4.4	3.1	3.9	3.1
未婚者・ 女性	合計	683	42.3	20.1	25.5	21.1	17.6	13.8	13.3	17.4	4.2	5.0	2.3	8.8
	政令都市在住	232	44.0	20.7	22.0	19.8	12.9	10.3	12.1	22.8	2.6	4.7	0.9	8.6
	中核都市在住	225	41.3	18.7	28.9	22.2	20.9	16.4	13.8	12.9	4.9	7.1	1.8	9.8
	地方部在住	226	41.6	20.8	25.7	21.2	19.0	14.6	14.2	16.4	5.3	3.1	4.4	8.0

内閣府子ども・子育て本部『令和3年度結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』「あなたが結婚に至らない理由」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・収入等については、未婚者の方が高く見積もって不安になっているが、既婚者は、それよりは少ない収入でもなんとかなっていると感じている。雇用の面を不安視する方には、そういったデータを示しながら、後押しすることも考えられる。
- ・住んでいる市町村規模が小さくなればなるほど、「不安定雇用」の回答割合が高くなっており、地方部在住男性については、「雇用の安定性」が結婚の壁になりやすい傾向がみられる。
- ・なお、特に地方部では親と同居割合が高いこともあり、何とか生活していけることから非正規雇用のまま年齢を重ねるケースもある。
- ・一方、今の若い女性は、自分も働きながら、夫婦で支え合える関係を希望する人も多い。非正規雇用でもいいやという認識のままの男性については、正規雇用に向けて努力することが婚活の成功にもつながるかもしれない旨を(様子を見つつ)伝えるのも一つの方法である。

(22) 婚活、結婚に関するアドバイスへのニーズ

婚活、結婚に関するアドバイスを第三者から受けたいと思うかというニーズについて、「受けたい」、「とても受けたい」ともに、男女年代問わず、ある程度の割合を占める。

(%)

		n=	とても受けたい	受けたい	どちらともいえない	受けたくない	全く受けたくない
TOTAL		1,370	9.1	22.1	35.5	17.4	16.0
男性	合計	687	10.5	25.8	37.0	14.8	11.9
	20~29歳	244	7.0	27.0	34.4	16.4	15.2
	30~39歳	223	16.6	29.1	37.2	9.9	7.2
	40~49歳	220	8.2	20.9	39.5	18.2	13.2
女性	合計	683	7.6	18.4	34.0	19.9	20.1
	20~29歳	244	5.7	18.9	34.8	21.3	19.3
	30~39歳	219	10.5	18.7	35.2	16.4	19.2
	40~49歳	220	6.8	17.7	31.8	21.8	21.8

内閣府子ども・子育て本部『令和3年度結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』「婚活、結婚に関するアドバイスを第三者から受けたいか」

＜未婚者が求める支援＞

(23) 婚活、結婚に関して受けたいと思う支援の男女ギャップ

「良い人の紹介」以外では、女性と比べて男性では「デートスポット」「ファッション」などの要望が強い。一方、女性では、「結婚の決め手や壁を乗り越えるための考え方」の要望が強い。

(複数回答) (%)

		n=	良い人の紹介	結婚の決め手や壁を乗り越えるための考え方	交際術やコミュニケーションのとりかた	デートスポットのアドバイス	ファッションなどのアドバイス	その他
未婚者 TOTAL	合計	427	76.3	46.8	46.4	28.6	28.1	0.7
	政令都市在住	147	74.8	49.0	50.3	25.9	27.9	0.7
	中核都市在住	135	79.3	48.9	47.4	34.1	30.4	1.5
	地方部在住	145	75.2	42.8	41.4	26.2	26.2	0.0
未婚者・ 男性	合計	249	75.9	41.4	51.4	40.2	36.1	0.0
	政令都市在住	90	74.4	42.2	53.3	35.6	34.4	0.0
	中核都市在住	79	78.5	45.6	51.9	46.8	36.7	0.0
	地方部在住	80	75.0	36.3	48.8	38.8	37.5	0.0
未婚者・ 女性	合計	178	77.0	54.5	39.3	12.4	16.9	1.7
	政令都市在住	57	75.4	59.6	45.6	10.5	17.5	1.8
	中核都市在住	56	80.4	53.6	41.1	16.1	21.4	3.6
	地方部在住	65	75.4	50.8	32.3	10.8	12.3	0.0

内閣府子ども・子育て本部『令和3年度結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』「婚活、結婚に関して受けたいと思う支援の内容」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・利用者が求めているアドバイスとしては、男性は具体的「HOW TO (ハウツー)」を求める傾向が強い。女性は婚活に向かうにあたり、自分の人生をどうするか、どう整理するのかを整理するための「考え方」を求める傾向が強い。結婚後の暮らしや二人の関係に関するイメージに男女差がある点を認識した上で、結婚後のカップルの生き方のケースを把握した支援を想定したアドバイスができるとうい。

【講義展開例】

- ・結婚の決め手や壁の乗り越え方について、先輩のボランティアさんなどから経験談を聞く機会を多く作る。ただし、結婚観などは世代によって様々な考え方があるので、話し手となるボランティアさんについては受講者と近い年齢の方を選ぶなど世代の違いに配慮する。

【コラム：世代の違い】

人は、自身が経験した出来事や生きてきた社会環境によって価値観を形成していきます。同じ時代に生まれた人々は多くの共通する出来事を経験し、共通する社会環境の中で生きてきたため、近い価値観を持つ傾向にあると言えます。（もちろん、同じ世代の中でも人により価値観は千差万別ですので、世代だけを見て、「こういう考え方に違いない」と決めつけられないようにする必要があります）

本コラムでは、世代の違いに着目したデータをいくつか見ていきます。

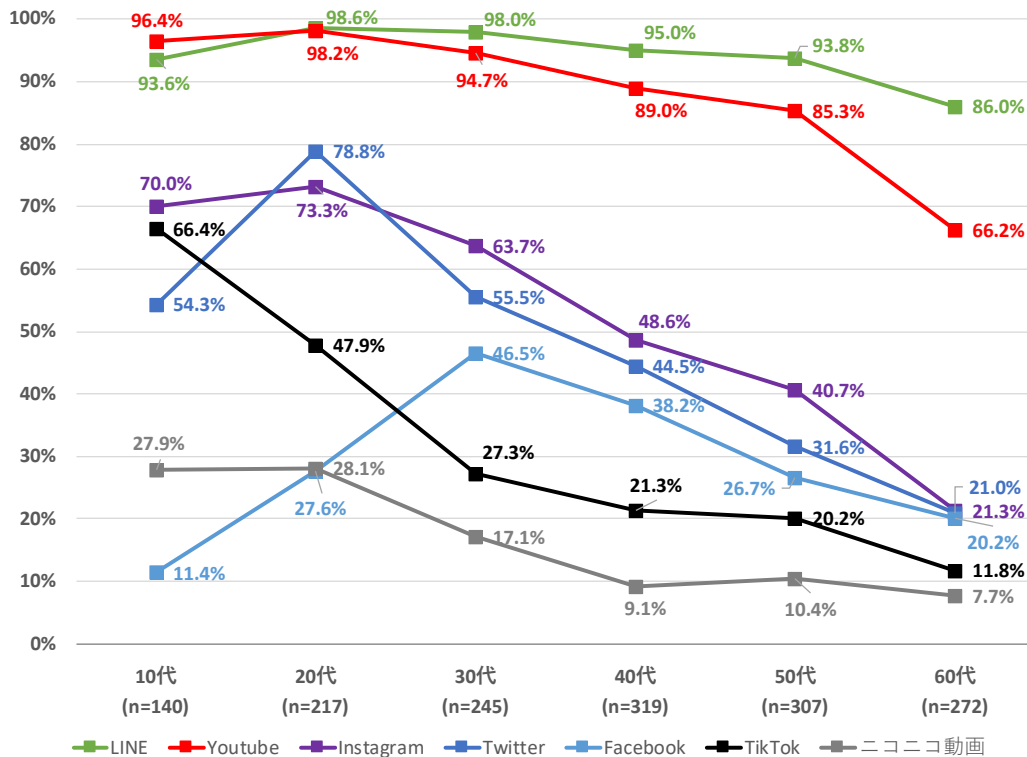
1. 数多の呼び方がある「〇〇世代」

- ・ 特定の時代に生まれた人々を表す「〇〇世代」という言葉については、色々な観点から数多の呼び方が作られています。定まった共通の定義があるものは少ないですが、以下に多く見られるものを紹介します。
- ・ 世代によって、生まれ育った時代背景が異なることを理解することが重要です。

世代	年代（目安）	時代背景
団塊世代	1947年頃～1949年頃生まれ (2024年時点 75～77歳頃)	✓ 第二次世界大戦直後に生まれた第一次ベビーブームの世代 ✓ 高度経済成長期～オイルショックの時代に育つ
新人類	1955年頃～1964年頃生まれ (2024年時点 60～69歳頃)	✓ 高度経済成長期生まれ ✓ 当時の若者の価値観の違いを表現した言葉
団塊ジュニア世代	1971年頃～1974年頃生まれ (2024年時点 50～53歳頃)	✓ 団塊世代を親に持つ、第二次ベビーブームの世代 ✓ 就職氷河期や受験戦争を経験
Y世代（ミレニアル世代）	1980年頃～1995年頃生まれ (2024年時点 29～44歳頃)	✓ 2000年以降に社会に出る世代 ✓ 幼少期にインターネット黎明期を経験
ゆとり世代	1987年頃～2004年頃生まれ (2024年時点 20～37歳頃)	✓ 義務教育の方針転換（ゆとり教育）を受けて命名
Z世代	1996年頃～2010年頃生まれ (2024年時点 14～28歳頃)	✓ 生まれた頃からインターネットが普及

2. 世代による SNS 利用率の違い

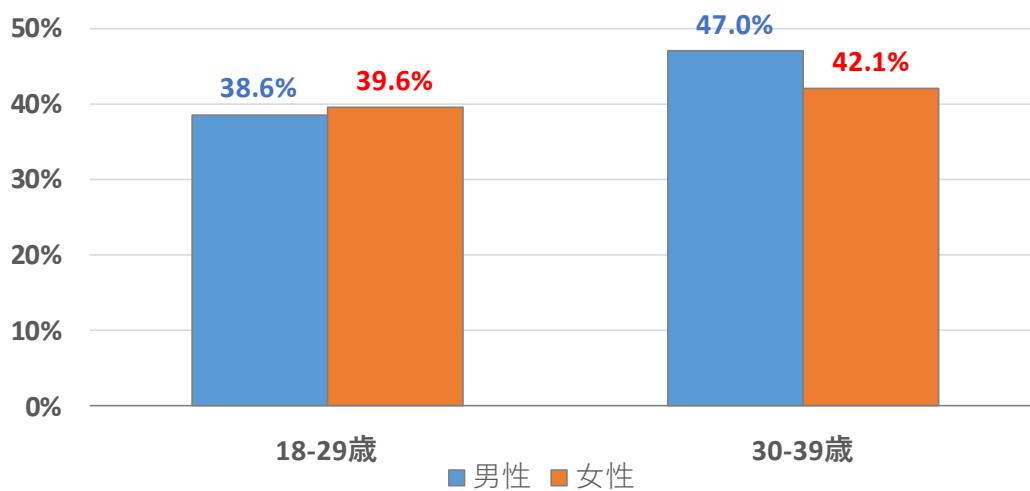
- ・ 世代による各種 SNS 利用率の違いを以下に示します。
大きく離れた世代だけでなく、隣接する世代においても TikTok や Facebook 等の一部 SNS では利用率が大きく異なっています。



総務省情報通信政策研究所『令和4年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査 報告書』「表5-1-1【令和4年度】【令和4年度】主なソーシャルメディア系サービス/アプリ等の利用率（全年代・年代別）」

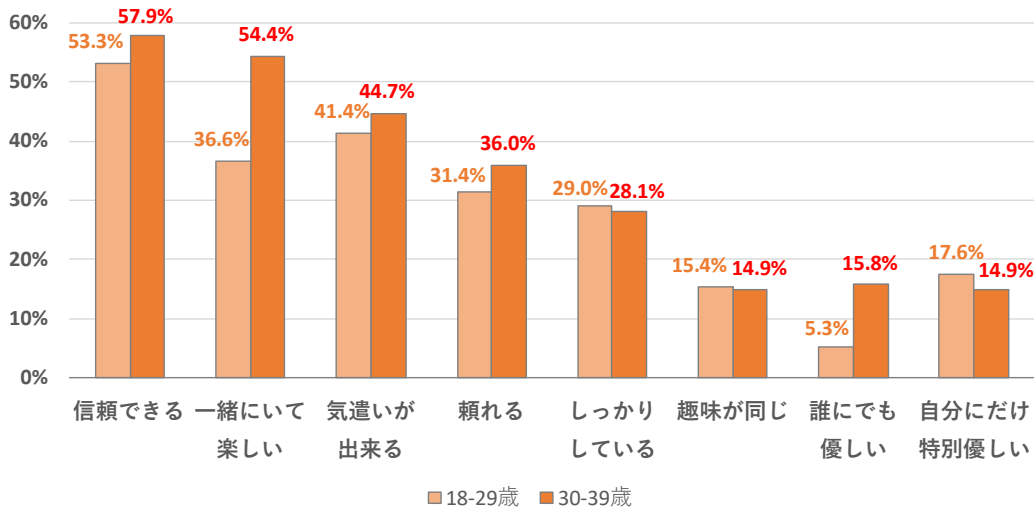
3. 世代による結婚観の違い

- ・ 世代による結婚観の違いとして、以下に「理想の出会い方は？」という設問に「出会い方にはこだわらない」と回答した割合を男女・世代別に示しています。
- ・ 男女とも18-29歳の方が30-39歳に比べて、出会い方にこだわらない割合がやや低い結果となっており、特に男性においてその差が大きくなっています。

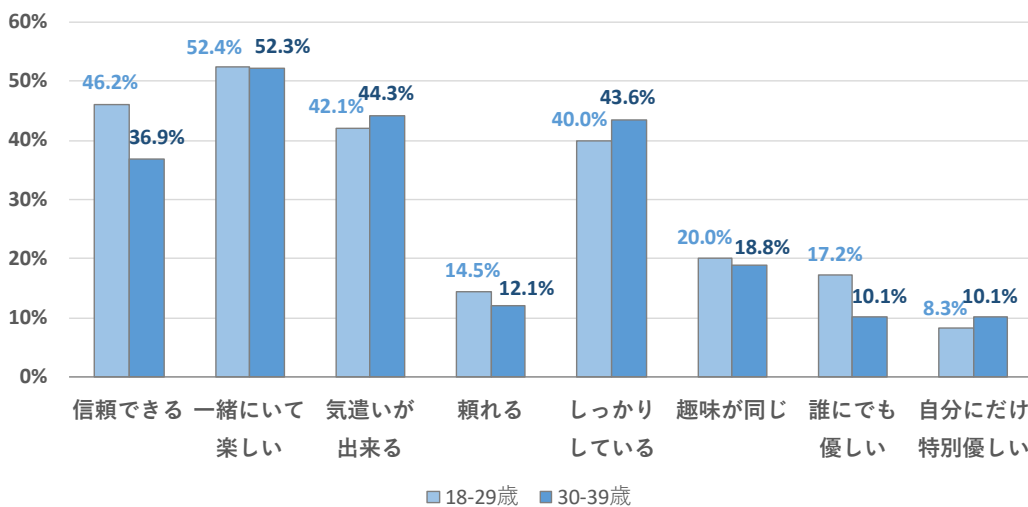


株式会社ネクストレベル『理想の恋愛と結婚についての調査（2023年）』
「理想の出会い方は？」

- ・ 同じく以下に「理想の相手に求める条件3つ」の回答割合を男女・世代別に示しています。男女とも世代別に多少の差異が見られます。



株式会社ネクストレベル『理想の恋愛と結婚についての調査（2023年）』
「理想の相手に求める条件3つ」（女性）



株式会社ネクストレベル『理想の恋愛と結婚についての調査（2023年）』
「理想の相手に求める条件3つ」（男性）

- ・ これまで見てきたように、世代によって生まれ育った時代背景が異なり、多く利用しているSNSから結婚観の回答割合まで、さまざまな点で違いが見られました。特に隣接する世代、すなわち数歳違いの年齢であっても色々な違いが見られることには留意が必要です。

第3章. 婚活・結婚支援サービス業界の現状

かつては、世話好きな親戚や知人からの紹介によるお見合いや、職場内恋愛などが主要な出会いとなっていました。しかし最近では、こうした出会いの機会が減少し、一方でマッチングアプリの利用が増加するなど、新たな出会いの機会も生まれています。

ここでは、結婚相談所やマッチングアプリなどを含む、最近の結婚支援サービス業界全体の動向を見た上で、個別の婚活・結婚支援サービス事業者の状況および近年の婚活サービスに対するイメージの変化について見ていきたいと思います。

(1) 婚活・結婚支援サービス業界の動向

- ① 男女ともに20代と30代において利用経験者が多い(20代男性24.9%、30代男性24.4%、20代女性26.5%、30代女性33.7%)。また、新型コロナウイルス流行前と比べて婚活サービスへのイメージが高まったと回答した割合は45.4%、婚活サービスを利用する機会が増えたとする割合は34.3%であり、婚活サービスのイメージ向上や婚活へのモチベーションの高まりが伺える。

■ 婚活サービスの利用経験割合【全体・性年代別】（1次調査/恋愛もしくは結婚意向がある恋人のいない独身者/単一回答）

※婚活サービス：結婚相談所、ネット系婚活サービス、婚活パーティ・イベントの3サービス

※独身者：結婚経験のない未婚者および結婚経験のある（死別・離別の）現在独身者



リクルートブライダル総研『婚活実態調査 2023』

■ 「婚活（恋活）サービス」に関する内容について、新型コロナウイルス流行前（2020年3月以前）と比べた際の意識や状況の変化（2次調査/恋愛もしくは結婚意向のある婚活サービス利用中の独身者/それぞれ単一回答）

※婚活サービス：結婚相談所、ネット系婚活サービス、婚活パーティ・イベントの3サービス

※婚活サービス利用者：本調査タイミングで何らかしらの婚活サービスを利用

※小数第2位を四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある



リクルートブライダル総研『婚活実態調査 2022』

研修時のポイント等

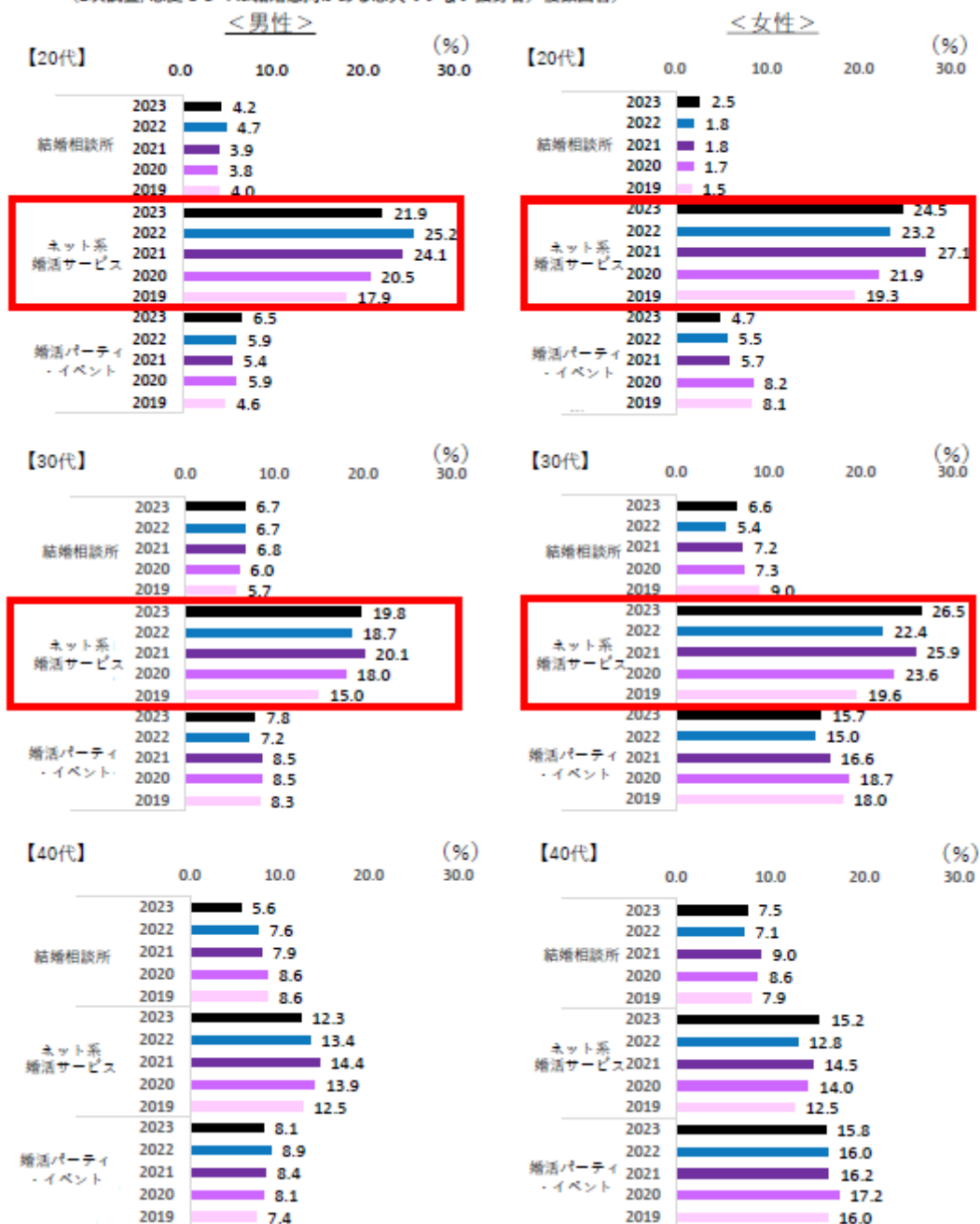
【重点説明ポイント】

- ・若い世代で婚活サービス利用者およびサービス利用意向者が多くなって来ている。

② 利用経験のある婚活サービスは、20代・30代においてはネット系婚活サービスの割合が男女ともに高くなっている。(複数回答)

■ 各婚活サービスの利用経験割合【性年代別】

(1次調査/恋愛もしくは結婚意向がある恋人のいない独身者/複数回答)



リクルートブライダル総研『婚活実態調査 2023』

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・利用者には様々な婚活サービスを活用する選択肢があり、その中から、公共的な婚活支援を選ぶ人もいれば、民間のサービスを選ぶ人もおり、様々である。
- ・各サービスにはそれぞれの特徴があり、どれを選ぶかは利用者本人の自由である。受講者の皆さんも、民間の色々なサービスを知識として把握しておいていただきたい。

【講義展開例】

- ・受講生の身の回りの方で婚活している家族・親族・知人の活動状況について、質問する。

- ③ 婚活・恋人探しの活動内容をみると、都市規模に関わらず、「友人・知人の紹介」や「婚活イベント」などのほか、「マッチングアプリ」の利用も活発。

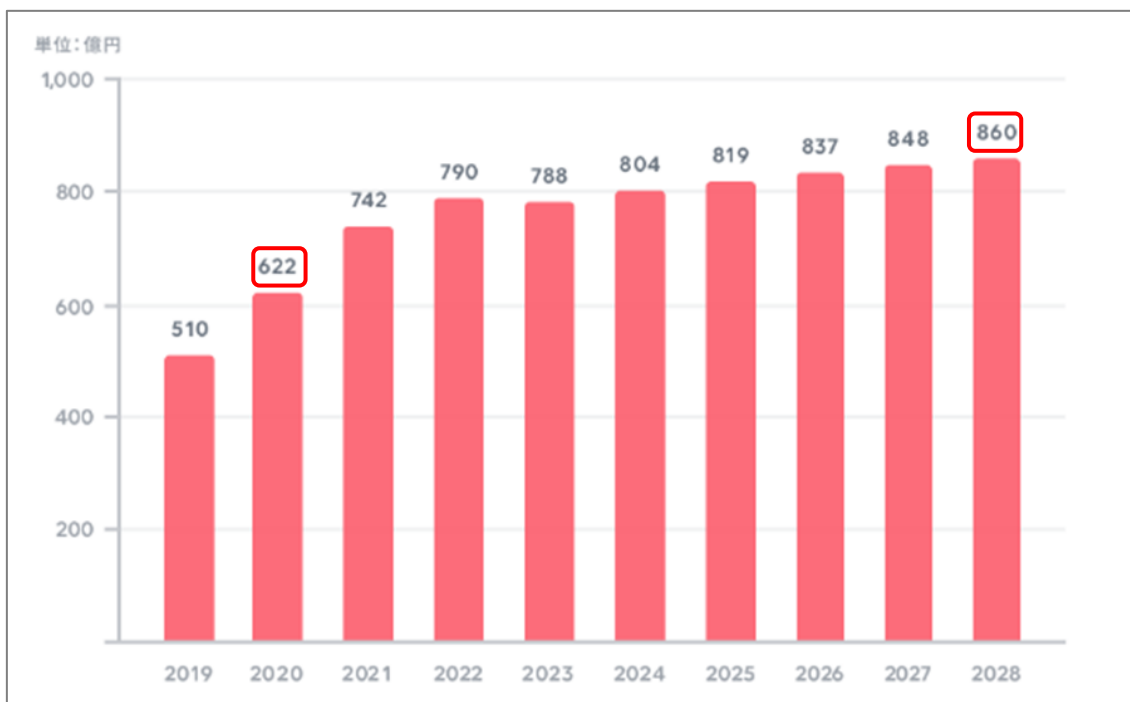
(複数回答) (%)

n=		友人・知人に紹介を頼む	マッチングアプリ	合コン、街コン、婚活パーティーなどの出会いを目的としたイベント	職場の同僚や先輩に紹介を頼む	サークル活動、習い事、資格取得のための学校	SNSやオンラインサービス	家族や親戚の紹介/お見合い	民間の結婚支援事業を利用する	地方自治体やNPOなどの団体の結婚支援事業を利用する	その他	行っていない	
未婚者 TOTAL	合計	1370	25.1	24.7	17.6	10.5	6.2	5.8	5.3	4.2	2.9	0.2	52.3
	政令都市在住	461	24.3	24.1	17.6	10.8	5.6	7.2	4.1	4.3	1.5	0.2	52.7
	中核都市在住	454	25.8	24.7	18.7	10.6	5.7	5.9	7.3	3.3	3.7	0.4	54.0
	地方部在住	455	25.3	25.3	16.5	10.1	7.3	4.4	4.4	4.8	3.5	0.0	50.1
未婚者・ 男性	合計	687	29.5	29.4	21.4	14.0	7.9	7.9	6.4	5.5	3.8	0.1	46.0
	政令都市在住	229	29.3	31.9	21.0	15.7	7.9	10.9	4.4	5.2	2.6	0.0	43.7
	中核都市在住	229	30.6	28.4	24.0	14.8	7.4	6.1	9.2	5.7	5.7	0.4	47.6
	地方部在住	229	28.8	27.9	19.2	11.4	8.3	6.6	5.7	5.7	3.1	0.0	46.7
未婚者・ 女性	合計	683	20.6	19.9	13.8	7.0	4.5	3.8	4.1	2.8	2.0	0.3	58.6
	政令都市在住	232	19.4	16.4	14.2	6.0	3.4	3.4	3.9	3.4	0.4	0.4	61.6
	中核都市在住	225	20.9	20.9	13.3	6.2	4.0	5.8	5.3	0.9	1.8	0.4	60.4
	地方部在住	226	21.7	22.6	13.7	8.8	6.2	2.2	3.1	4.0	4.0	0.0	53.5

内閣府子ども・子育て本部『令和3年度結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』「現在の婚活・恋人探しの活動内容」

(2) マッチングアプリ業界の市場拡大

2020年のオンライン恋活・婚活マッチングサービス市場は、前年比約2割増の622億円。2028年には2020年比1.38倍の860億円に達する見込み。



『2023 オンライン恋活・婚活マッチングサービスの国内市場調査』

国内オンライン恋活・婚活マッチングサービス市場規模予測（2019－2028年）（株式会社タプル／デジタルインファクト調べ）

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・マッチングアプリとは、スマートフォンに入るアプリで、簡単な手続きで恋人や結婚相手探しをできるように、検索や、プロフィール閲覧、相手とのコミュニケーションなどを図る機能があるもの。
- ・自分の好みの相手を、自分で探し、自分で交渉することになるが、スマホだけで手軽に始められることなどから、利用が年々増えているとみられる。

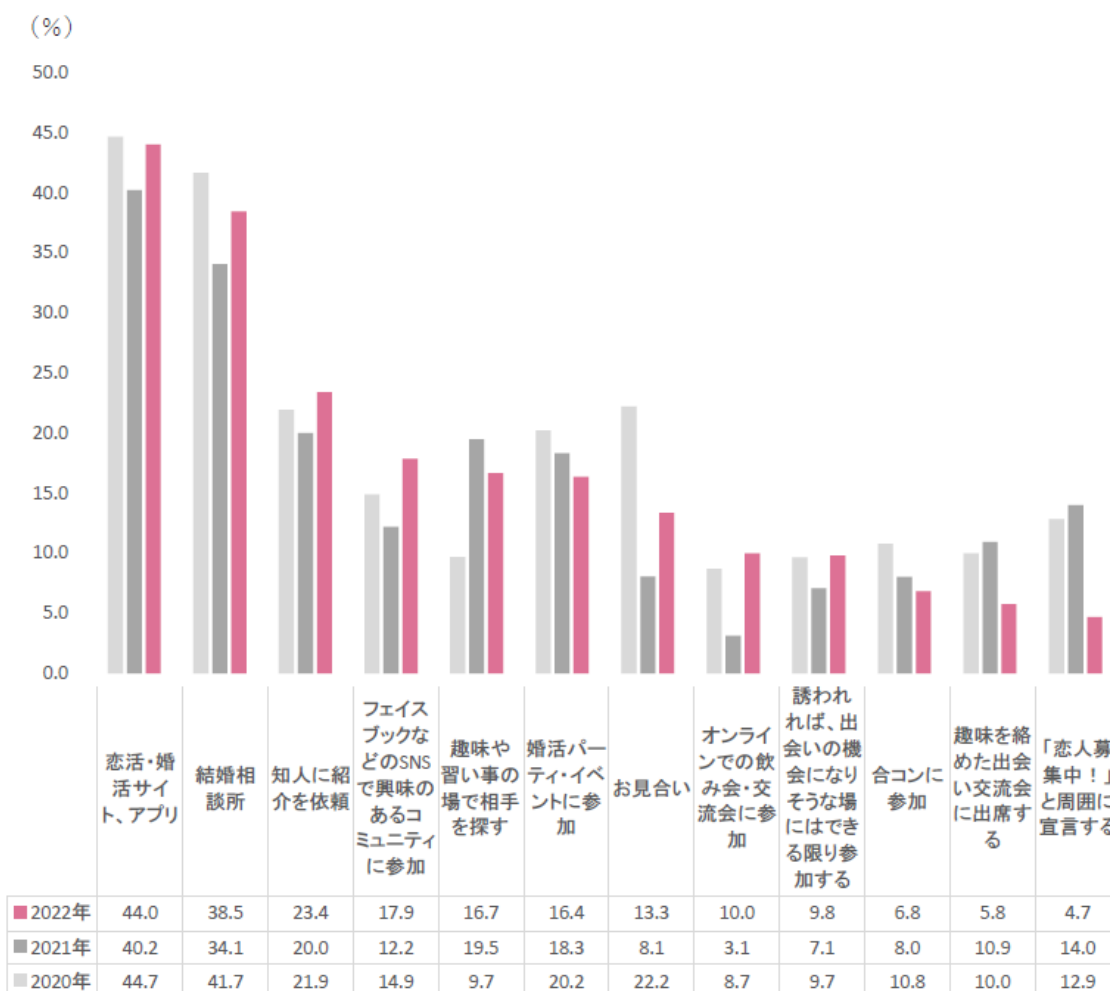
【講義展開例】

- ・受講者自身が持っているマッチングアプリのイメージについて、質問する。

(3) 民間の婚活支援サービスの状況

広義の婚活により結婚した人のうち、婚活サイト・アプリを利用して
いた人の割合が最も多い。具体的な割合は、婚活サイト・アプリ
(44.0%)、相談所 (38.5%)、お見合い (13.3%)、知人に紹介を依頼
(23.4%)、婚活パーティ・イベント (16.4%)。

■ 実施 (利用) した婚活によって、結婚した人の割合
(1次調査/各年に結婚した人のうち、各婚活を実施 (利用) した既婚者/各項目単一回答)



(婚姻年)

リクルートブライダル総研『婚活実態調査 2023』「実施 (利用) した婚活によ
って、結婚した人の割合 (1次調査/各年に結婚した人のうち、各婚活を実施
(利用) した既婚者/各項目単一回答)」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・結婚した人に調査してみると、婚活サイトやマッチングアプリ、結婚相談所の利用が大変多い。

【講義展開例】

- ・婚活サイトや結婚相談所の利用が大変高くなった理由はなぜだと思うか、受講者に質問する。

(4) 婚活・結婚支援サービス別の特徴

①結婚相談所

婚活・結婚支援サービスは、「利用までの流れ」、「サービス内容」、「料金」などで「店舗型相談所」、「オンライン型相談所」、「オンラインサービス」に大別される。それぞれに違った特徴があり、個人の希望にあったサービスをよく考えて選ぶことが重要。

結婚相談所は、結婚を希望する独身の会員に対して、結婚を前提とした出会いを支援するサービス。利用するには本人確認書類に加え、独身証明書や年収証明書などを求める事業者が多い。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・結婚相談所のサービス内容は事業者によって異なるが、自分の結婚観から具体的な希望条件などを引き出してもらえるなど、カウンセラーの手厚いサポートを受けながらの相手紹介や、自分で希望条件を入力して異性を検索できる点が特徴。
- ・カウンセラーのサポートにより、相手に自分から声をかけることが苦手な方でも相手探しを進めることができる。また、利用者に結婚を明確に希望している利用者が多いのが特徴。
- ・結婚相談所では、カウンセラーの手厚いサポートを受けられる一方で、利用料金は他のサービスと比べて高額になる傾向がある。その分、カウンセラーとの相性やカウンセラーがうまく機能しているかなどについて、慎重な検討を行った上で、結婚相談所を選択することが重要。

②オンラインサービス（婚活サイト・マッチングアプリ等）

オンラインサービスは20代～30代の利用者が多く、恋愛や結婚対象となるパートナーとの出会いを気軽に見つけられるサービス。

- ・利用料金が定額制のところが多く、比較的安価で気軽に始められる。
- ・最近では、オンラインサービスであっても、独身証明書の提出を求めたり、専用のカウンセラーが支援したりするなど、利用者の真剣度に応じて、様々なサービスを提供。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・オンラインサービスのツールとして、近年、利用が拡大しているのが、スマートフォン上でサービスが完結するマッチングアプリである。相手探しやコンタクト、メッセージのやりとりなどのサービスを、多くは月額制で気軽に利用できる。
- ・独身証明書の提出が求められないマッチングアプリサービスでは、男女で利用料金について価格差があるサービスもある。

③地域の結婚支援センターによる結婚支援サービス

研修時のポイント等

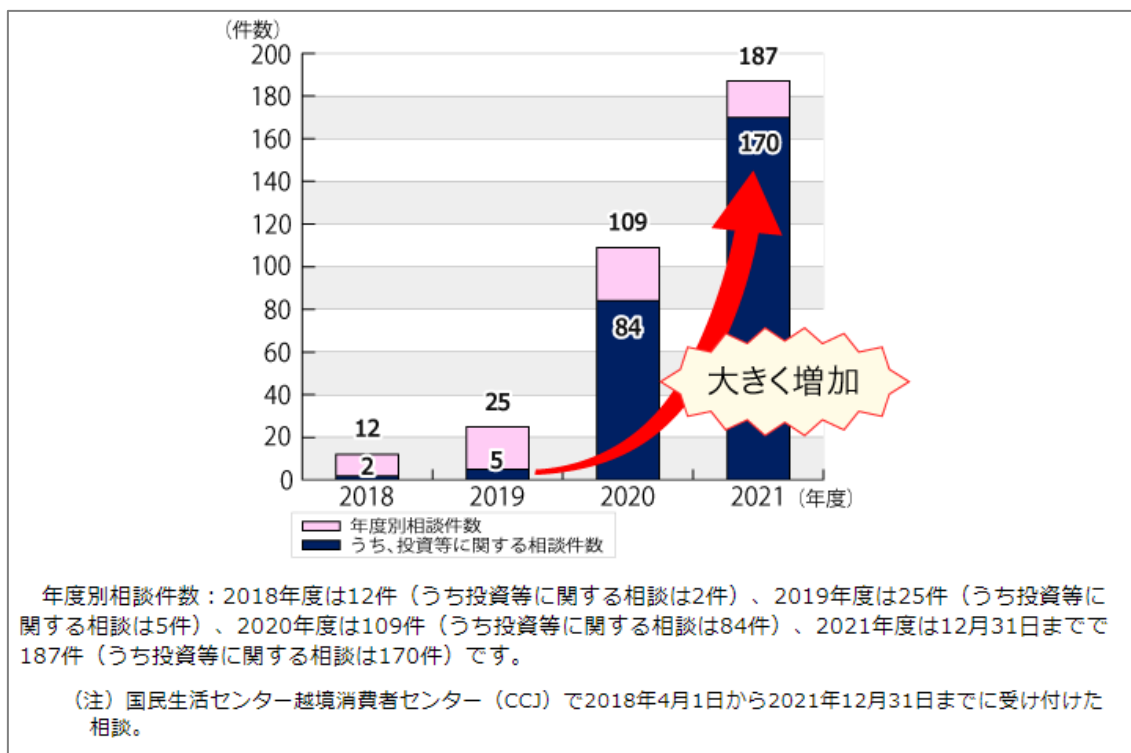
【重点説明ポイント】

- ・地域の結婚支援センター等が提供するサービス内容について説明する。

(5) オンラインサービス等の利用時の注意

パートナーを見つけるための活動をオンラインでサポートするサービスでは、オンラインで気軽にパートナーを探せる一方、本人確認の徹底が難しいことから、本来の利用方法ではない目的で近づいてくる人物とマッチングしてしまうこともある。

中でも、現在経済的に見通しの立ちにくい状況が続いているためか、詐欺的な賭け事や投資等の海外サイトに勧誘する手口が目立っている。



独立行政法人国民生活センター 2022年3月3日発表情報より「図. CCJにみる、出会い系サイトやマッチングアプリ等に関する年度別相談件数」

※CCJ：Cross-border Consumer center Japanの略。

従って、オンラインサービス等を利用するときは、下記のような事柄に注意する必要がある。

- サイトやアプリ等の規約をよく読んでから利用すること。
- 投資等の話でうまいもうけ話には安易に応じないこと。
- 個人情報や安易に提供しないこと。

なお、適正な事業を行っているオンラインサービスについては、NPO法人結婚相手紹介サービス業認証機構（IMS）が「マル適マーク」を付与しているため、オンラインサービス利用時の参考になる。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・「オンラインサービス」の中には、健全な交際目的以外の詐欺や投資勧誘など違法性が高い目的で利用する者もいて、それによる被害を受ける事例もある。
- ・こういった事例から、オンラインサービスは、かつて「出会い系サイト」と呼ばれるなどして、怪しいというイメージが先行してきた側面もある。
- ・現在も、そういった悪質な事例は続いており、国民生活センターへの相談件数も増加している。利用者においても注意が必要になっている。
- ・そのサービスが、悪質なものか、安心できるものなのか、普通の人が簡単に見分けられるとは限らないので、注意が必要。
- ・利用者がオンラインのマッチングサービスを利用するのはもちろん自由だが、もし利用者が、危険なサイトを利用していたり、マッチングサイトの出会いをきっかけに投資話やもうけ話に触れていたりする気配を感じたら、念のため注意を促してほしい。迷ったらセンターに相談してほしい。
- ・利用しているマッチングアプリサービスの規約等に「既婚者は入会不可」である旨、記載があれば、既婚者に騙された時に訴訟することも可能。

【講義展開例】

- ・受講者に、身の回りで実際に被害の話聞いたこと、相談を受けたことがあるか質問する。

第2回研修

第4章. 結婚支援ボランティアの活動内容

結婚支援ボランティアの皆さんは、結婚のことで助けを必要とする地域の方々に対して、様々な形で支援活動を行います。ここではまず、結婚支援ボランティアの方々の活動内容はどのようなものかを理解していただきます。

(1) 結婚支援ボランティアとは ①主な活動内容

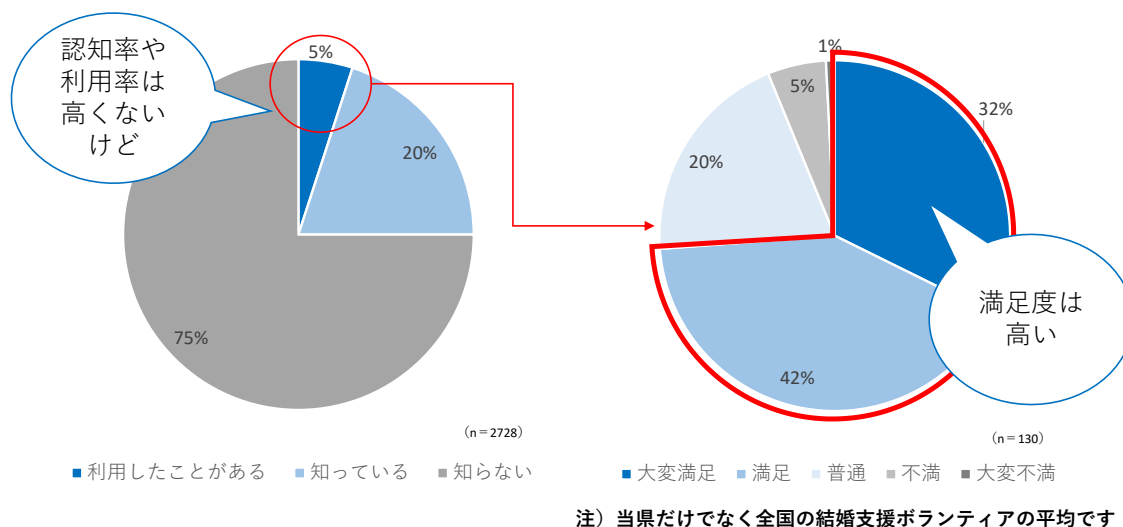
① 当県（当市町村）の結婚支援ボランティアの活動は、主に以下の5つ。

- ①1対1のお引き合わせ時の立ち合い・フォロー
- ②婚活イベントの運営サポート
- ③各取り組みでのカップリング後の交際フォロー
- ④地域における独身者への広報、出会いの応援
- ⑤結婚希望者を取り巻く関係者への啓発活動

第1回研修の時にデータでも示したように、本人たちの努力だけで婚活を進めるのが厳しい現状もある中、婚活支援するのが主な役割。

※上記 **グレー字斜体の①～⑤**については各地域で実施していないものは削除、独自の呼び名などがある場合は修正してください。

② 皆様のように活動するボランティアの利用実態や評価については、認知率や利用率は高くない一方で、満足度は高くなっている。



内閣府子ども・子育て本部『結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』「結婚支援ボランティアについて知っていますか」「結婚支援ボランティアの満足度を教えてください」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・結婚支援ボランティアは、知名度は低い（存在をあまり知られていない）が、4人に3人は満足しているというアンケート結果がある。
- ・利用者の方々が、皆さんのサポートを非常に頼りにしていることがうかがえる。

【講義展開例】

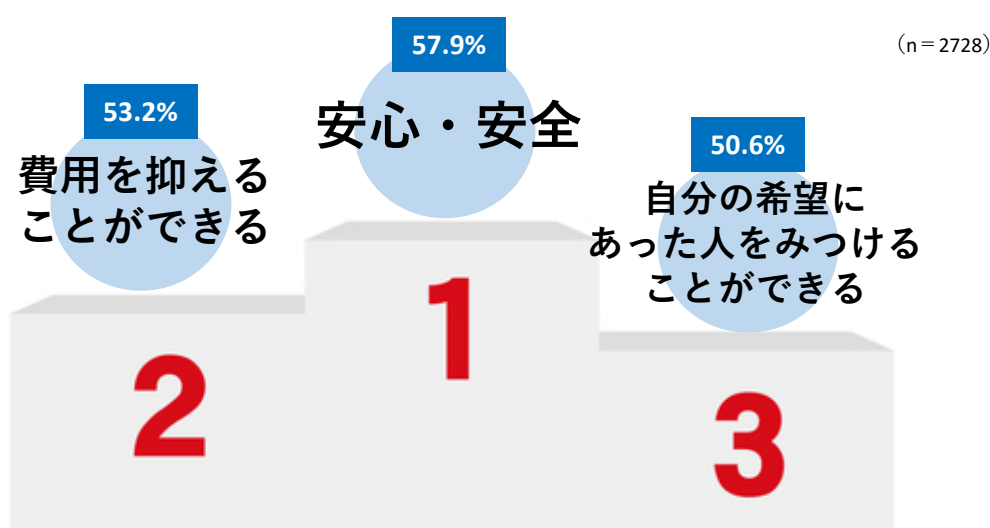
- ・先輩のボランティアなどから、ボランティア活動の楽しさを話してもらう。

③ 行政主体の結婚支援ボランティア（結婚相談サポーター、結婚相談支援員含む）でサービスを利用する・利用した際に期待する/期待したことは何ですか？と、利用者に質問すると、特に多い回答としては

1. 「安全・安心」(57.9%)
2. 「費用を抑えることができる」(53.2%)
3. 「自分の希望にあった人を見つけることができる」(50.6%)

という結果となっている。

利用者の期待に応えるためにも、センター所属のボランティアとして、責任ある活動を心がけていただくことが重要。



内閣府子ども・子育て本部『結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』「結婚支援ボランティアのサービス重視度」（複数回答）

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

・行政主体の結婚支援センターに対する利用者からの期待は「安心」「安い」「希望の相手探し」がベスト3である。

※第3章での、民間の結婚相談所やマッチングサイトのおさらいをすると、より、違いがわかりやすくなります。

【講義展開例】

・受講者に、結婚支援ボランティアのベスト3以外の強みは何か質問する。

※注意！！

これ以降、第4章については、すべて、

- ・各地域で実施していないものは削除
- ・実施の仕方や留意点などが異なる場合は修正
- ・独自の呼び名などがある場合は修正

するなどして、地域の実情に合った研修内容に編集してください。

(2) 結婚支援ボランティアの活動内容

当県（当市町村）の結婚支援ボランティアの活動は以下のとおり。

- ①1対1のお引き合わせ時の立会い・フォロー
（1対1での引き合わせの日程調整、当日の立ち合い）
- ②婚活イベントの運営サポート
（県・センター等主催のイベント時の運営フォロー）
- ③各取り組みでのカップリング後の交際フォロー
（カップリング後の意思確認、進捗確認、後押し）
- ④地域における独身者への広報、出会いの応援
（機縁などによる地域の独身者の出会いの応援、地域の登録システムへの登録促進）
- ⑤結婚希望者を取り巻く関係者への啓発活動
（センター主催の親セミナーでの個別相談）

①1対1のお引き合わせ時の立会い・フォロー

1対1のお引き合わせ時のボランティアの内容や役割、スケジュール例は以下のとおり

- お引き合わせ日の調整（会場の確認・利用者の情報確認）
- お引き合わせ当日の同席（ルールと留意事項の説明）
- お引き合わせ後の意思確認（終了後の連絡など）

<活動の内容>

・日程調整の連絡・情報の確認

センターよりマッチングしたお二人の情報が送られてくる。メールを使って連絡し、お会いする日程を決めていくこととなる。プロフィールを確認し共通点などを事前に把握しておくとうい。

・会場の確認

一度も行ったことがない会場は、可能なら下見しておくとうい。当日は〇〇分程度前に会場に向かい、席のレイアウトの確認やお茶菓子を持ってきてもらうタイミングをお店の方と打ち合わせしておくとうい。

・当日の同席・ルールと留意事項の説明

当日はまず会員証と本人確認書類で本人確認をし、留意事項について説明する。

- ・ お引き合わせ後の終了連絡・意思確認

お引き合わせ終了時と、その後の意思確認については必ず各々から連絡をもらっておくこと。

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・ お引き合わせ後に利用者からの連絡がない場合、こちらからの連絡の取り方について、受講者に話し合ってもらおう。

②婚活イベントの運営サポート

婚活イベントの運営サポート時のボランティアの内容や役割、スケジュール例は以下のとおり。

○イベントの企画（代表的なイベントの企画運営の流れ）

○イベント時のフロー（代表的なイベント全体の流れ）

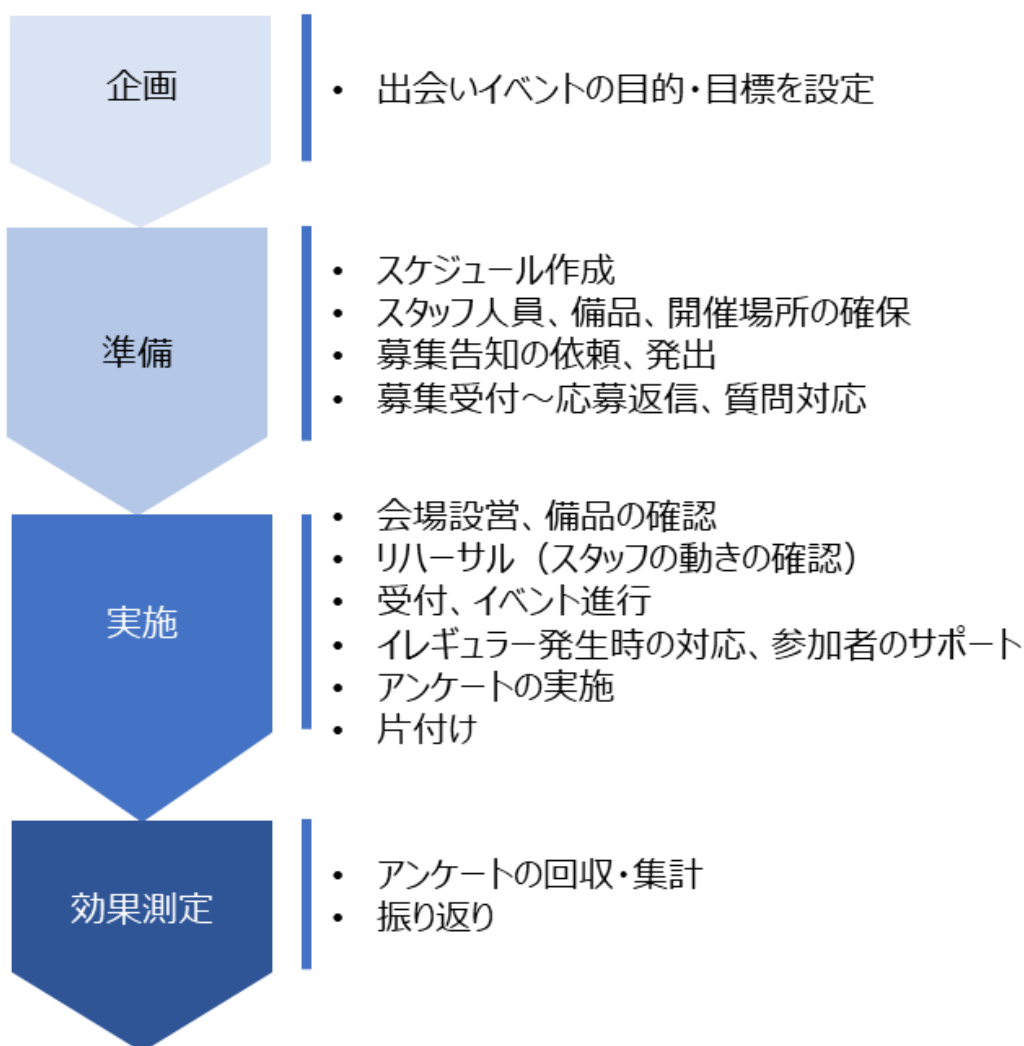
○イベント中のフォローアップ（受付・参加者のフォロー・成立カップルの引き合わせ）

<活動の内容>

・ イベント時の企画（代表的なイベントの企画運営の流れ）

婚活イベントの企画はおおまかに、企画、準備、当日運営、効果測定
の4つから構成される。例えば、下図のような流れが考えられる。

イベントの企画運営の流れと主な対応事項



秋田県提供資料を基に作成

・ イベント時のフロー（代表的なイベント全体の流れ）

イベント当日は円滑に進められるよう、あらかじめタイムスケジュールと、担当する役割分担、必要備品の管理等を決めておくことが望ましい。以下は、タイムスケジュールの例である。

タイムスケジュール	ラップ	内容
1時間前～15分前	45分	設営・準備・リハーサル
15分前～	15分	受付
開始時刻～30分後	30分	セミナー
30分後～60分後	30分	1対1でのトーク時間
60分後～90分後	30分	グループイベントタイム
90分後～120分後	30分	フリートーク時間・連絡先交換
イベント終了～終了後30分	30分	撤収作業

秋田県提供資料を基に作成

・ イベント中のフォローアップ（受付・参加者のフォロー・成立カップルの引き合わせ）

イベント中のフォローアップに関する詳細は、第5章の「結婚支援業に関する知識・技能」で紹介する。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・婚活イベントの基本的な流れ
- ・マッチングカードと判定シートの使用法
- ・イベント中は、ボランティアの皆さんに参加者のフォローをしていただくことになること
- ・イベントにおける初心者への対応方法・ケアすべきポイント

【講義展開例】

- ・受講者に、初対面の異性に話をするのが苦手なタイプの参加者への対応の仕方を、話し合ってもらおう。
- ・マッチングカードを配布、判定シートを掲示して、具体的に細かく解説する。

③各取り組みでのカップリング後の交際フォロー

各取り組みでのカップリング後の交際フォローの内容や役割、スケジュール例は以下のとおり

○カップリング後のフォローアップ（○週間後/○か月後）

1対1のお引き合わせ、婚活イベント終了後担当したお二人が双方「もう一度会いたい」となった場合は、交際がスタート。しっかりとお二人をサポートしていく。

○不成立時のフォロー

カップルが成立しても全てが成婚につながるわけではない。様々な理由で不成立になることもある。参加者の心が折れそうになる場合もあるかもしれないが、励ましながら婚活の継続を支援することも重要。

カップリング後のフォローアップに関する詳細は、第5章の「結婚支援業に関する知識・技能」で紹介します。

④地域における独身者への広報、出会いの応援

○利用者との顔合わせ（相談申込/機縁紹介）

身近な知り合いやよく行くお店などに「婚活ボランティア」として活動していることをアピールしておく、情報が入りやすくなる場合も。

結婚を希望する独身者やその家族から相談があった場合は、本人と面談をし、支援内容の説明や希望条件のヒアリングを行う。

○本人および独身者であることの確認

本人に結婚の意思があることを必ず確認する。

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・独身者の情報収集の重要性を（可能なら事例も交えつつ）伝える。

○初回面会時の説明事項

初回面会時に、結婚支援サービスの制度や決まり事、注意事項についてきちんと説明する。（以後のトラブルを防止のため）

○利用者情報および相手についての希望の登録

当県では所定の様式に、利用者の情報と希望条件を記入してもらうことになっている。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・「利用者情報登録書」の重要性、内容のポイント

【講義展開例】

- ・受講者に、「利用者情報登録書」を渡し、自分の独身時を想定して記入してもらう。

⑤結婚希望者を取りまく関係者への啓発活動

○センター主催の親セミナーでの個別相談

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・地方部での親セミナーの開催は効果が大きいこともある旨を伝える。

(3) 結婚支援ボランティアの制度

① 結婚支援ボランティア制度の仕組み

自地域で実施しているボランティア活動についてそれぞれの制度や登録方法等を紹介。

○1対1のお見合いフォローボランティアの認定手順

<例> 募集説明会に参加⇒面接選考⇒研修会参加⇒認定証授与

○イベントフォローボランティアの認定手順

<例> 募集説明会に参加⇒面接選考⇒研修会参加⇒認定証授与

○活動経費の支払い精算方法、センターが加入するボランティア保険等

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・結婚支援ボランティアの資格要件を、よく理解してもらう。
- ・既にボランティアとして認定されている方々への研修の場合は、簡潔な説明で可。

【活動展開例】

- ・活動経費の支払い方等を、事務局から解説してもらう。

② 結婚支援ボランティアの資格要件

自地域のボランティア登録の際の資格要件を紹介

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・「登録申込書」を渡し、内容をよく確認してもらう。

③ 結婚支援センターへの誓約書の提出

自地域の誓約書の順守事項の説明

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・「誓約書」を渡し、内容をよく確認してもらう。

④ 結婚支援ボランティアの登録期間

自地域の設定する期間、更新時の手続き等の説明

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・事務局から契約更新を続けるボランティアの方について、説明する。

(4) 結婚支援センターとのコミュニケーション

① センターとの連絡

各種連絡について説明。

連絡・相談内容ごとの窓口、活動時の連絡（報告）事項、婚活結果の連絡事項等。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・困ったときの結婚支援サポートセンターの役割について、よく理解してもらう。

【講義展開例】

- ・事務局から、どんなことがあったら連絡してほしいかなど、事例も交えて説明する。

② センター主催の情報交換会

センターが主催する情報交換会について説明。

開催テーマ、開催日時・時間、会場、参加者等。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・意見交換会の意義、交換する意見の例、参加者の声などを紹介・説明する。

【講義展開例】

- ・先輩ボランティアなどから、情報交換の具体的内容などを話してもらう。

(5) 先輩ボランティアの体験談

① 活躍中の先輩ボランティアさんへのインタビュー

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・先輩ボランティアなどに、体験談を話してもらう（失敗談の方が大切なケースも多いので、成功経験、失敗談、バランスよく）。難しい場合は、先輩ボランティアたちの声を事前にまとめて置いて紹介する。

【コラム：結婚支援に関するサポート 5つの基本】

全国地域結婚支援センター 代表 板本洋子

地域において、若い人たちの結婚支援を行うにあたっては、ボランティアの方々などが、若者を理解し、寄り添いながら、ほんの少し背中を押してあげることがとても大事です。私のこれまでの経験上、特に結婚支援ボランティアの方に、心がけていただくと、よりよい支援に繋がっていくなと思っていることが、いくつかあります。この場を借りて、紹介させていただきます。

1. 「支援する側、される側」が支援のルールやシステムについて理解し合い、共有する

- ・ 結婚支援ボランティアの支援活動は、その個人の裁量によって行われる部分が多いです。一方で、独身者は自分の個人情報が多数の人に知られてしまわないか、結婚を押し付けていないかという疑問や不安を感じたりします。“支援する側”である結婚支援ボランティア、“される側”である独身者双方が、結婚支援のルールやシステムを十分に理解し、距離感を意識し信頼関係を築くことが重要です。
- ・ 結婚支援のルールやシステムの中で、特に個人情報、人権に関する情報は独身者本人の同意なしで、詳細な話が第三者に伝えられるということが決してないことを明確にお伝えすることが大事です。

2. まずは、独身者側の思いや希望を肯定的に受け入れる

- ・ 独身者は、結婚に対して様々な考え方や悩みを抱えています。また世間体や規範にこだわる方もいます。ボランティアの皆さんの感覚からして、変だな、こだわり過ぎだなと感じたとしても、「そういう考え方はおかしい」といった方向性の指摘をするのではなく、独身者の言葉を受け入れて、本人がなぜそのような考え方をするに至ったのか、といった点を考えてみてください。本人の思いをいったん受け入れ、耳を傾けた上で、一緒に考えてみる姿勢が相談者と「向き合う」支援につながると思います。

3. 独身者の悩みや質問に「アドバイス」する前に「ファシリテーター」という立場の認識が大切

- ・ ボランティアは、独身者本人のかわりに物事を決める立場ではありません。あくまで独身者本人の意思を尊重しつつ、結婚に関わるさまざまなデータや事実、情報を提供し、本人が自ら行動をおこし前に進めるよう、力添えをしましょう。そのような姿勢が、ファシリテーターの姿勢です。

4. 「結婚の王道」「世間の常識」に左右されない姿勢での対応を

- ・ 時代によって“結婚”意識は変化をしています。その形も多様化しています。独身者は家族関係・仕事・人生観など、それぞれの状況に応じて、さまざまな悩みや課題を背負っています。それは、必ずしも「普通」、「世間」の常識、または無意識に持っている「結婚の王道」が通用しないこともあります。ボランティアさんの人生経験だけでは伝えられないことは、他者（本人を特定できない配慮をしたうえで）のケーススタディを伝えることが説得力をもつ場合もあります。
- ・ 地域社会は、「規範や常識」にこだわる場所もあります。でも実は地域を「守る」意志が、多様な選択肢や、学びの力を生み、問題解決を共有し共感をうみだしています。私もこれまで新たな「カップルの形」や「家族の関係」を観てきました。地域には、色々な考え方に寄り添って、柔軟な考えを持ちながら支援する力があると信じています。

5. 結婚支援の視点を広げる、結婚しやすい社会への問題意識を持つ

- ・ 結婚支援の究極的目的は“カップルの成婚”ですが、その視点だけで「結婚しなければならない」「結婚はしあわせ」という価値観で活動していくと「結婚の押しつけ」となり、活動は行き詰ります。「夫婦」「家庭」という枠を広げ、「パートナーと生きる」という考えをもつことで、自分の世界を豊かで、勇気を持って、楽し気に感じることができ、「相談する側」も「される側」も楽に活動をすすめることができるのではないのでしょうか。

- ・ 義務感、世間体、周囲のプレッシャーから目線をずらし、「パートナー」として変化している実績が、例えば農村社会にもあります。「農家の嫁」ではなく、「アグリカルチャーパートナー」として夫と共に「農業女性」として活躍する時代になりました。
- ・ こうした新たなカップルライフの実例にふれることで、結婚支援にも希望が持て、結婚の阻害要因となっている様々な垣根を乗り越えられるのではないのでしょうか。

【コラム：さまざまな結婚支援の形】

結婚支援ボランティアが課されている主な役割や業務の進め方、結婚支援ボランティアの制度は各地域によってさまざまです。本コラムでは、結婚支援ボランティアの役割や活動等について例を挙げてご紹介しますので、自身の地域との類似点や違いを確認し、自身の地域の特徴について理解を深める一助としてください。

1. 結婚支援ボランティアの主な役割

- 結婚支援ボランティアが課されている役割はさまざまですが、主なケースとしては以下の通り、ペアに対する伴走支援が主となるケース、個人に対する伴走支援が主となるケース、婚活イベントの企画・運営や広報が主となるケース等が挙げられます。
(それぞれの役割を複合的に担っているケースも多く存在します)

自身の地域における特徴を理解し、意識することが有用です。

主なケース	特徴
結婚支援センターのマッチングシステム等でマッチングしたペアに結婚支援ボランティアが担当として付き、ペアに対して伴走支援するケース	<ul style="list-style-type: none">✓ マッチングまではシステム等により行われるため、結婚支援ボランティアは引き合わせやその後のフォローに専念できる✓ 一方、ペアとなった男女登録者の実情や環境等については、結婚支援センターや以前マッチングした際の担当ボランティア等とも適宜連携して把握する必要がある
登録者一人一人に結婚支援ボランティアが担当として付き、個人に対して伴走支援するケース	<ul style="list-style-type: none">✓ 結婚支援ボランティアと登録者の距離が近く、登録者の実情や環境等を勘案した支援が可能✓ 一方で、各結婚支援ボランティアが抱え込み過ぎないように、結婚支援センターや周囲の結婚支援ボランティア等が適宜フォローすることが重要

主なケース	特徴
(前ページから続く)	
結婚支援ボランティアはペアや個人等の担当を持たず、婚活イベントの企画・運営や広報を専ら行っているケース	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 結婚支援ボランティアは婚活イベントの企画・運営や広報に専念できる ✓ 一方、婚活イベント参加者と接する機会・時間は少ないため、短期間で効果的・効率的にアプローチした上で、結婚支援センターにおいても適宜フォローする必要

2. 結婚支援ボランティアの報酬制度

- ・ 結婚支援ボランティアの報酬制度についても、各地域によってさまざまです。原則無償としているケースもあれば、引き合わせの立会1件ごとに立会報酬を設定しているケース、期間内の成婚件数に応じて成婚報酬を設定しているケース、結婚支援ボランティア同士のグループ活動に対して活動費補助が支払われるケース等もあります。
- ・ 自身の地域における制度を事前にしっかり確認しておきましょう。

3. 結婚支援ボランティア同士のグループ活動

- ・ 地域によっては、結婚支援ボランティア同士でグループを作り、さまざまなグループ活動を行っているケースが見られます。
- ・ 結婚支援ボランティアの活動は経験を多く積むことでノウハウが蓄積され、利用者の方の実情・環境等を踏まえた適切な支援をできるようになっていきますが、経験の浅い内は色々と戸惑うことも多いかと思えます。グループ活動を通じて、結婚支援ボランティア同士で自身の経験を共有することにより、経験の浅さを補ったり、「あの時どう対応すれば良かったか分からなかったけど、こうすれば良かったのか！」という気付きを得たり、というメリットが生じます。
- ・ 自身の地域でも、グループ活動やそれに類する活動が行われているか確認し、ノウハウ共有の場作りを意識してみましょう。

第5章. 結婚支援業務に関する知識・技能

第4章で紹介した結婚支援活動内容について、実際に活動する上で必要な知識や技能を紹介していきます。

実際にやってみないとわからない部分も多いと思いますが、先輩ボランティアの経験を踏まえたFAQなども紹介していますので参考にして活動のイメージを強めていってください。

※注意！！

これ以降、第5章については、すべて、

- ・各地域で実施していないものは削除
- ・実施の仕方や留意点などが異なる場合は修正
- ・独自の呼び名などがある場合は修正

するなどして、地域の実情に合った研修内容に編集してください。

(1) 利用者とのコミュニケーションの方法

利用者とのコミュニケーションの取り方について、それぞれの活動内容ごとに、ポイントを紹介していきます。

①1対1のお引き合わせ時の立会い・フォローのコミュニケーション

○自己紹介 お互いの呼び名を決めよう

初回お引き合わせ時では名前などの個人情報には明かさないう決まりになっている。お互いの趣味なども絡めて呼び名を決めるとそのあとのコミュニケーションもスムーズになりやすい。

呼び名決めにかかる時間が長すぎるともったいないので、あらかじめ決まらなかったときの案を準備しておくとうい。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・お引きあわせ時の自己紹介時は、まだ本名を名乗らせないこと。
- ・本名については、いったん両者の信頼関係ができてから伝えることで、無用なトラブルを避け、利用者のセンターに対する信頼感が高まる。

【講義展開例】

- ・実際に先輩ボランティアが使ったことのある、名前の例を紹介する。
- ・相手の心にアピールできる呼び名について、話し合う。

○話しやすい雰囲気づくり

このあと二人きりになった時の会話がはずみやすいように場を和ませるよう努める。緊張をほぐしてあげながら二人で会話するウォーミングアップを進める。

○話題の事前準備

趣味やお仕事など、各々のプロフィールから共通点を見つけておくと当日話題の振りに役立つ。

当日会話が弾まなかった時の備えとして、事前に話題の準備をしておくことと安心できる。必ずしも共通の話題でなくても良いので、きっかけとなる引き出しをなるべく多く準備しておくこととよい。それに加えて当日の会話の中からも、随時探していきましょう。

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・先輩ボランティアなどに、話しやすい雰囲気への工夫、話題に困ったときに振りやすい話題などについて話してもらう。

○退席のタイミング

開始後およそ〇〇分を目安に退室する。会話が弾んでいない場合は心残りかもしれないが、ずっと同席するわけにもいかないため、緊張や沈黙を肯定してあげることで、二人の気を楽しませてあげることが大事。

できる限り場を温めて退席できると理想的。二人になったら逆に会話が弾む可能性もあるので、最後は心配しすぎず、二人を信じて退席すること。

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・受講者に、退席時の声掛けのセリフを考えてもらう。

※よくある質問を事前にまとめて受講者に紹介するのもよい。

よくある質問FAQ

Q. お引き合わせ日時の段取りをしてもスケジュールがなかなかあいません。その間に会員からお付き合いをしてもなかなか会う事ができないのではないかと心配される声がありました。

A. いろいろな職業、勤務体制の方がいらっしゃいます。お会いしたいという気持ちを大事にして大切に、職場の有給や早退の利用、どちらかが歩み寄りのお気持ち、時間のすき間を探してみましょう。大事なのは「会う」ということ、それなくして、次の進展はありません。

Q. お引き合わせ当日に時間になっても会員が到着しない時、会員が遅刻などでして時間が大幅に遅れる場合はどうしたらよいでしょうか？

A. 約束時間においでにならないときは、緊急事態の発生かもしれません。会員の安否確認も応援の1つです。遅刻して来られる場合は、「お相手がお待ちなのでお会いした時に、お詫びを添えて」とアドバイスしておきましょう。またお相手には「不信」を抱かない程度にお伝えすれば、安心してお待ちいただく事ができます。また、やむを得ず、当日キャンセルになった場合は会場のスタッフに「お引き合わせ延期」を説明し、そのまま退席します。

Q. お引き合わせ費用をいただくタイミングはいつですか？

A. まずお越しになった方から、会員証で本人確認をし、費用の〇,〇〇〇円をお預かりします。事務的な事を最初に済ますことで、あとの会話に集中できます。

Q. 緊張が解けず、会話は途切れがち、サポーターの私の責任でしょうか？

A. 最初は誰でも緊張するもので、沈黙は自分と向かい合う時間でもあり大切な経験です。お話が弾まなかったとしてもサポーターさんが気落ちすることはありません。

②婚活イベントの運営サポートでのコミュニケーション

○フリートーク時の立ち回り

受付やプロフィールトークで各参加者のキャラクター（社交的・引っ込み思案など）の把握に努める。

ファーストインプレッションの集計結果も参考に、フォローをする方針を決めておくと動きやすい。

フリートーク時にどう立ち回るかを考えて進めると、より効果的にフォローできる。

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・受講者に、ファーストインプレッションをもらえない人へのアドバイスを、考えてもらう。

○スロースターターのフォロー

フリートーク時に会話の輪に入るタイミングを逃しているスロースターターさんを見つけてフォローしていく。

引っ込み思案の参加者ほどフォローを必要としているので、背中をポンッと押してあげるような励ましの言葉をかけることが望ましい。

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・受講者に、スロースターターへの声掛けのアイデアを考えさせ、発表してもらう。
- ・先輩ボランティアから、実際の例を話してもらう。

○話が長引く際の対応

ファーストインプレッションで、人気が集中した方がいる場合は注意が必要。参加者が自分から割って入るのは難しいので、ボランティアがバランスをとって間を取り持ってあげる必要がある。

出会いのチャンスが参加者全体に行くよう心がけ、コーディネートしていく。

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・受講者に、話が長引いているペアへの介入の話し方を考えてもらい、発表させる。
- ・先輩ボランティアから、実際の例を話してもらう。

○カップリング後のフォロー

イベントでのカップリングは＝（イコール）交際ではない。ボランティアの皆さん立会いの下、お互いの連絡先などを交換するところから始まる。

“縁”を最大限活かせるようにフォローしていきましょう！

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・先輩ボランティアなどに、カップリング後のうまいフォローの仕方を、話してもらう。
- ・よくある質問を事前にまとめて受講者に照会するのもよい。（モデルプログラム附録にサンプル記載あり）

③各取り組みでのカップリング後の交際フォローでのコミュニケーション

○フォローアップのタイミングとメール

カップリング後、担当ボランティアから、お二人の交際状況の確認（フォローアップ）を行う。

状況がどうなっているかはわからないので、二人の気持ちに水を差したり、傷つけたりしないように気をつけながらも、困っていることがないか、積極的にアプローチして、アドバイス・応援していくことが求められる。

状況確認したところ、交際が終了していたという場合もあるので、その場合も、次につながるような励ましの言葉をかけることが重要。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・○週間後、○カ月後など、一定の期間をあけつつも、フォローが大切。
- ・メール等の文面にも注意。（文例を紹介すると参考になる）

【講義展開例】

- ・先輩ボランティアなどから、フォローのポイントを聞く。

○迷っている利用者への対応

お引き合わせや婚活イベントで数時間話ただけで、お相手のことがよくわからないのは当然。

「もう一度会って話をしてみたいかどうか？」を基準にしてもらうのも一つの方法。本人が、もう一度会って話をしてみたいと思うようならば、その方向で薦めてみる。なお、ボランティアの皆さんが、相手がどんなにいい人だと感じたとしても、本人がそう感じるかどうかは本人次第なので、無理強い禁物。

○相手の気持ちを確認する際の注意

お相手の気持ちは当事者であるご自身が確認されるのが原則。ボランティアは、お気持ちを察しつつ、背中を押してあげるような声かけをする。

ボランティアの皆さんが、あまりお二人の間でお互いの気持ちを伝達していると、誤解を招いたり、伝え方によっては相手を傷つけたり、個

人情報を漏らしたりすることにもなりかねない。

ボランティアの皆さんは、結果に寄り添い前進のフォローをしてあげること。

※ただし、お相手と連絡がうまく取れないなど困っているときは、ボランティアが間に入って、連絡が取れないのはなぜか等、調整・仲介することも考えられる。

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・先輩ボランティアなどに、利用者への対応の在り方を、話してもらう。
- ・よくある質問を事前にまとめて受講者に照会するのもよい。(モデルプログラム附録にサンプル記載あり)

④地域における独身者への広報、出会いの応援でのコミュニケーション

○利用者と初対面の際の自己紹介

利用者との初対面の際は、利用者には少なからず緊張や警戒がある。心を開いて本音で相談してもらうことが重要。

まずはボランティアご自身のことについて話すのも一つの方法。

初対面の人に対するコミュニケーションの取り方として「自己開示」は有効であり、自分がどんな人間か話すことで警戒心を和らげる。

また、「こんなにさらけ出してくれたのだから、自分の話もしなきゃ」といった「返報性」の効果も期待できる。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・利用者と初対面での自己紹介での技法の「自己開示」とは、必ずしも「自分のプライベート情報を話す」ということではない。「私は、今日あなたに会うのをとても楽しみにしていたんです」「今日はちょっと冷えるかなと思って、厚手のジャケットを着てきたんですけど、意外とこの部屋は暑いですね」など、自分の思い、気分、その場で自分が気付いたこと等を話せばよい。
- ・「自己開示」といっても、自分が若い時の恋愛や結婚の話などを、無理にする必要はない。

【講義展開例】

- ・先輩ボランティアに、自己紹介で失敗した経験など語ってもらう。

○希望条件のヒアリング

相手に求める条件などを聞いていくと、ときに、利用者の理想が高すぎて、マッチングが難しそうな条件を提示されることがある。

そんな時は、まずは、利用者の気持ちをしっかりと受け止めることが重要である。

（ボランティアは、結婚相手を探してあげる・結婚確率を上げるのが直接の役割ではなく、利用者に寄り添い、利用者の婚活を後押ししてあげるのが役割。利用者本人の意思がまずは重要。）

その中で、利用者の性格や状況も見つつ、第一回研修で示した統計的な知識を活用しながら希望条件の緩和などを提案していくことも重要。

（難しい条件であると理解しているかが重要で、難しい条件にこだわりすぎて時間が過ぎていくのは、利用者にとってもマイナス。）

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・先輩ボランティアなどに、理想が高すぎる利用者への対応法を話してもらう。

○結婚についてのモチベーション

両親などにすすめられて、本人は乗り気でない利用者もいる。そのような場合、利用者本人は、まだ結婚を焦らなくてもよいのではと考えるケースも多い。

ここでも、第一回研修で得た統計的な知識を活用しながら、利用者自身が結婚に対してどう考えているかなど、自身の考えを深めてもらえるよう促していくことが重要。

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・受講者に、結婚は早いと考える 30 代後半の利用者への、話し方を考えてもらう。

○自己 PR の記載例

登録シートの自己 PR 欄はお相手から選んでもらうために重要なポイントとなる。

記入例を参考にしながらしっかり記入できるようフォローすることが必要。

研修時のポイント等

【注意点】

- ・センターとして、良い記入例を、過去の事例等も参考にしながら作成しておくこと。(附録第 5 章のスライドにもサンプルがあるので参考にしてください)

(2) 利用者・ボランティア自身のメンタルヘルスケア

婚活を続ける上で、うまくいくことばかりではない。

なかなか良い相手と巡り会えなかったり、良いと思っていた相手に断られたりと利用者が傷つくことも多々あると思われる。

利用者の心のケアをしながら寄り添ってあげることもボランティアの役割の一つ。

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・受講者に、自身のストレスコントロール、嫌なことを言われたときの気分転換法等を発表してもらう。

○不成立時のフォロー

婚活は必ずうまくいくとは限らない。期待していたお相手から断られ

傷ついてしまう利用者もいるが、つらい時こそ利用者は皆さんの支えを必要としているので、利用者に寄り添いながらフォローしてあげることが重要。

○お断り理由のヒアリングと相手へのフィードバック

お相手からお断りの理由が聞けた場合、状況によってはお伝えしてよい場合もある。

ただし、必ずしもそのままお伝えすべきではなく、伝えられる利用者をなるべく傷つけることのないような配慮が必要。仮に利用者にとって耳の痛いことでも、次の機会に向かって伝えるべき事があるならば、客観性を持たせながら、ボランティアとして気づいたことをお伝えしてみる。

よい経験となって、次の出会いへとつながるようなフォローを、心がけること。

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・受講者に、利用者がお相手から断られた際の、声掛けの方法を考えてもらう。

○「もっといるかも症候群」について

未婚・晩婚化の理由として上位にあげられるのが「理想の人に出会えない」という理由。

自分の理想とのギャップが起因して、前に進めなくなってしまう利用者もいる。

なかなか決まらない方へのフォローとして、「理想」について今一度考えてみることを促すのも有効。

決まらないと思い悩む要因が自分自身にもあることがわかれば、気持ちも軽くなって活動にも積極的になれる可能性もある。

ただ、利用者の将来に関わることなので、安易に妥協を推奨するのではなく、統計データ等も引用しながら、あくまでご自身の考え方を見直すべきか、考えていただくことを提案する、という姿勢で話すことが重要。

○ボランティア自身のストレスについて

ボランティアの皆さん自身も活動を通じて嫌なことを言われたり、利

用者から過度なプレッシャーを受けたりすることが想定される。

ひとりで抱え込まずに相談しながら進めていくことが大事なので、気軽にセンター等に相談していただきたい。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・ボランティア自身が、悩んだりストレスをためたりしないことの重要性を伝える。
- ・困ったときの相談窓口を伝える。

【講義展開例】

- ・先輩ボランティアなどに、活動での悩みとその解決法を話してもらう。

○先輩ボランティアの体験談

ボランティア活動は大変なことも多い反面、嬉しいこともたくさんある。

先輩ボランティアたちも、いろいろな経験をしながらやりがいを感じて活動をしている。

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・第4章（5）先輩ボランティアの体験談の振り返りを行う。

（3）結婚支援ボランティア同士のネットワークづくり

ボランティアの活動はチームワークが重要です。センターや先輩ボランティアさんと連携しながら進めると、より成果が出やすくなります。連絡会などの機会を設け、ボランティアに積極的な参加を促すことも有用なので、研修の場でもその意識づけをしてみてください。

○ボランティア同士の連携について

当県では地区ごとにチーム制で活動している。各チームにはベテランボランティアのチームリーダーとサブリーダーがいるのでわからないことがあったら積極的に相談いただきたい。

皆さんも将来的には、新人ボランティアのフォローをお願いしたい。

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・事務局からボランティア同士のネットワークの活動内容を説明する。

（４）オンラインツールの活用法

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・センターが導入しているオンラインツール使用方法を説明する。
- ・オンラインツールの導入は、若い世代に利用してもらうためには必須であり、若い世代の会員が増えることでカップリング率の向上につながる旨、説明する。

【講義展開例】

- ・オンラインツールのパンフなどを配布し、説明し、後に読んでもらう。（なお、LINEとZOOMの使用法は、附録スライド第5章末尾に記載しているので、活用して下さい。）

(5) QA集

最後に、結婚支援業務において直面しやすいさまざまなケースについての対応方針について、QA集の形で取りまとめています。一部のケースについてはNG対応も整理しているので、研修の際にいくつか例示して参加者の皆さんに対応を考えてもらうことも一案です。

※下記は、実際に各自治体で使われているQ&Aを参考に編集したのですが、対応の仕方や留意点等が異なる場合は修正して、地域の実情に合った内容に編集してください

分類	Q (ケース)	A (対応方針)
利用者とのやり取り	✓ 利用者間の日程が合わない。	✓ 片方がただただ忙しいからと言って日程調整が長引くと、もう片方の不信感に繋がるので、仕事帰りや用事の隙間等で時間を空ける努力は婚活においても基本であることを伝える。
	✓ 引き合わせ後の継続意思を確認すると、利用者が自身の意思を言わずに「相手の方はどう言っていますか」等と聞いてくる。	✓ 相手の方の意思が気になる方は多いが、その後の交際・結婚を考えると「相手の思うままの自分」ではなく、正直な気持ちを伝えていただく必要があるため、まず自身の意思を伝えていただくようにする。
	✓ 利用者からの連絡が来ず、日程調整が進まない。	<p>✓ 何らかの理由でメールに気付かない、確認出来ない等の可能性も念頭に置き、利用者の休日や勤務状況を考慮して複数回連絡を取ってみる。</p> <p>✓ 特に初めて引き合わせに臨む利用者等、どのように返事をして良いのか分からない場合もあることに留意する。</p> <p>✓ 返事が遅い利用者には、「この期間は連絡が大事になりますので、1日1回はメールチェック</p>

		をお願いします」等とお伝えする。
✓ 引き合わせや交際お断りの理由を聞いて、相手の方に伝えた方が良いか。	✓ お断りの理由を聞いても、本音の理由を話したがない方も多いことを念頭に置く。 ✓ 更に、お断りの理由を相手の方に伝えることは、困惑や動揺を生んで気持ちの切替を阻害し、異性への不信感に繋がる恐れもあるため、基本的には相手の方に伝えることはしない。 NG: お断りの理由を相手の方に伝え、「〇〇を改善すべきだ」等とアドバイスしてしまう	
✓ 利用者から「今後の参考として自身についてアドバイスしてほしい」と相談を受ける。	✓ 一般論の範囲で、否定的な表現は避けて押し付けにならないように配慮してアドバイスを行う。 ✓ 体系・顔・表情・髪型等の容姿に関わるアドバイスは避けるようにする。 NG: 「前髪が顔にかかると暗い印象になるから、散髪した方が良いでしょう！」等と容姿に関わるアドバイスをしてしまう。	
✓ 利用者とのやり取りをする際、つい頻繁にメッセージ送信・架電等をしてしまう。	✓ 利用者の方の生活のペースに配慮し、連絡がつかないときは相手からの返信を待つ時間をとる。 NG: 夜間や早朝に架電する NG: 利用者からの返信が来なかったため、過度な回数のメッセージ送信をしてしまう	
✓ 利用者から「このお相手と結婚するかどうか悩んでいる」といった相談を受ける。	✓ その二人の成婚が正解かどうかは分からないため、結婚するよう押し付けるのではなく、二人	

		<p>の心の揺らぎを受け止めてアドバイスし、二人の決断を支援するようにする。</p> <p>NG:「絶対に結婚した方が良いでしょう！」等と押し付けてしまう</p>
プロフィール、マッチング	<p>✓ 利用者から、「自己PRの書き方が分からない」「上手な書き方を教えて欲しい」「自分のプロフィールはこれで大丈夫か」等と相談を受ける。</p>	<p>✓ 現在のプロフィールと一緒に確認し、不安な気持ちを軽減する。</p> <p>✓ 自己PR参考例等があれば、作成のヒントとして提示する。</p>
	<p>✓ 利用者から、病気や障害のことについて、プロフィールへ記載すべきか、どのタイミングでカミングアウトすべきか相談を受ける。</p>	<p>✓ プロフィールへの記載内容については、利用者ご本人の意向次第であることを念頭に置く。</p> <p>✓ その上で、「一般的には、結婚においては重要な情報であるため、一定早い時期（遅くとも成婚を見据えた交際に至る段階まで）にお伝えすることが望ましいと思われるが、プライベートな情報であるため、お相手を信頼でき受け止めてくれるであろうタイミングを見計らって、カミングアウトすることが良いのではないか」等と適宜助言する。</p> <p>NG:プロフィールへの記載/非記載やカミングアウトのタイミングをボランティアから指示する</p>
	<p>✓ 利用者から「写真は公開したくないが、非公開にしたときに不利になるか」と相談を受ける。</p>	<p>✓ 利用者本人の意向次第だが、写真非公開の方には申込が来づらいため、可能なら公開することをお勧めする。</p>
	<p>✓ 利用者から「特にこれと言った趣味がないのだが、何か書くべきか」と相談を受ける。</p>	<p>✓ 利用者本人の意向次第だが、趣味は申し込みのきっかけにもなる重要な項目であり、引き合わせ時の会話のきっかけにもなる</p>

		ため、いつも何気なくしていることや、単純に好きなことで良いので書くことがおすすめであることを伝える。
✓	利用者から「自分に不利になる情報（年収や離婚歴、こどもの有無等）を書いた方が良いか」と相談を受ける。	✓ 利用者本人の意向次第だが、活動の目的が結婚であることを踏まえ、書いておいた方が結果的にスムーズであることが多いと伝える。
✓	利用者から「お相手についての希望はどのくらい書いたら良いか」と相談を受ける。	✓ 例えば、以下のような手順で検討すると良いと伝える。 ①結婚相手に求める理想の条件を思いつくまま書き出す ②優先順位が高い順に並べ替える ③希望条件を満たす人が実際に自身の周りにいるか考える → いなければ厳しい条件と認識する ④譲れない条件と妥協できる条件を線引きして、譲れない条件は希望として記載する
✓	利用者から「離婚歴がある場合婚活は厳しいか」と相談を受ける。	✓ 離婚歴のある方も多く婚活していることを伝え、安心していただく。
✓	利用者から「周囲からこんな人がいいよ、あんな人がいいよ、とアドバイスされるが、どうしたら良いか」と相談を受ける。	✓ あくまで自分のための結婚であることを確認し、良いと感じたアドバイスは受け入れ、しっかりこなかったアドバイスは考え方の一つとして受け止めておくことを提案することが一案。 ✓ 両親等のアドバイスがしっかりこなかった場合、出来れば感情的にならずしっかりと話し合っておくことを勧める。
✓	高齢の利用者から「年齢的に婚活は難しいか」「若い（年の差	✓ 極端に高齢でなければ、毎年一定数の成婚があることを伝える。

	<p>の離れた)方と結婚したい」と相談を受ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 一方で、年の差婚希望に関しては成婚実績が少ないことを伝え、適宜希望条件の見直しを勧める。 ✓ それでも年の差婚を希望される場合は、しばらく希望条件でトライしてみていただき、中々マッチングしない場合に改めて条件の見直し検討を提案する。
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 利用者から「申し込んでも断られてばかりでしんどい」「無力感を感じる」「自分が無価値のように思えてしまう」「婚活は疲れる」等と相談を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 抱えている辛い気持ち、悲しい気持ちをまず傾聴し、気持ちを受け止めた上で、申し込んだこと自体を肯定する。 ✓ 申込を断られるのは婚活している以上誰もが通る道であり、お断り理由はその時のタイミングやお相手の事情など様々で、自分自身を否定された訳ではないことを伝え励ます。 ✓ 婚活を通じて交際・成婚した方々も、たくさんの申込をし、受けてもらった件数よりも断られた件数の方が多いことがほとんどであると伝え、失敗を恐れず気持ちを切り替えて、引き続き積極的な活動ができるよう後押しする。
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 利用者から、LGBTQであることについて、プロフィールへ記載すべきか、どのタイミングでカミングアウトすべきか相談を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大前提として、プロフィールへの記載内容については、利用者ご本人の意向次第であることを念頭に置く。 ✓ その上で、特に性的指向や性的自認が外見等から判別しづらいケースにおいても、「一般的には、結婚においては重要な情報であるため、早い時期にお伝え

		<p>することが望ましいと思われるが、プライベートな情報であるため、お相手を信頼でき受け止めてくれるであろうタイミングを見計らって、「カミングアウトすることが良いのではないか」等と適宜助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 一方で、性的指向や性的自認によってはマッチングが非常にしづらい可能性もあることは伝え、適宜専門機関の紹介も行う。
引き合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 利用者から、適切な服装についてアドバイスして欲しいと相談を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 男女ともに清潔感のあるスタイルが好ましい（一例として男性は紺やグレー等のスーツやジャケットにパンツと革靴、女性は明るめの色の服にナチュラルメイクでアクセサリ・ネイル等は控えめ）と伝える。
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 引き合わせで利用者間の会話が弾まない。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コミュニケーションが苦手な方も多く、まして引き合わせの場は緊張して当然であることを念頭に置く。 ✓ 会話のきっかけが全くない場合はYes/Noで答えられるクローズドクエスション、会話が膨らまない場合はオープンクエスションで会話を促すことが一案。 ✓ ただし、第三者に見守られていると会話しづらいと感じることも多いので、様子が気になっても退席してしまう方が、会話が弾むこともある。 <p>NG：場を持たせようとしてボランティアが話を続けてしまい、利用者の話す機会を奪ってしまう</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 利用者から「引き合わせ等でいつも緊張してしまい、ひとりの方が楽だと感じてしまう。結婚に向かないのだろうか」等と相談を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コミュニケーションが苦手な方も多く、まして引き合わせの場は緊張して当然であることを伝える。 ✓ その上で、なぜ婚活を始めたのか、結婚に対する思いを改めて一緒に確認していくことが一案。
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 引き合わせの際、力が入りつい話し過ぎてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自己紹介は短めに（1-2分程度）済ませ、引き合わせの流れを説明した後はあまり話し込まず退席し、利用者同士で話す時間を確保する。 <p>NG：ボランティア自身の価値観や経験等の話を長々としてしまう</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 引き合わせの場所として、落ち着いた話せる個室を利用しても良いか。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 引き合わせの場所は落ち着いて話せる場所が好ましいが、完全に他からの視線が届かない個室は避けるようにする。 <p>NG：利用者から「落ち着いた話したい」との要望を受け、完全個室を手配してしまう</p>
交際、結婚	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 利用者から「他に良い人が現れるかもしれないと思うと、結婚に踏み切れない」と相談を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「もっと良い人が現れるかもしれない」という考えを否定する必要はないが、未来の事は誰にも分からず、今以上に良い人は現れない可能性もあることを伝える。 ✓ 結婚が決められないことを「他に良い人が現れるかも」という理由付けをして、無意識のうちに逃げているのかもしれないため、まずは目の前の相手、現実と向き合うことを勧める。 <p>NG：今以上に良い人は現れないから、結婚するべきだ！等と断定的に指示</p>

		<p>してしまう</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 相手からの話を待つだけでなく、積極的に自身から行動しても良いことを伝える。 ✓ 相手も相談者の気持ちが分からず悩まれているかもしれないため、話し合いの場を設けて、お互いの理解を深めることを勧める。
個人情報	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 利用者から「早く結婚したいが相手が具体的な話をしてくれない」と相談を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 名前や住所等の個人情報でなくとも、個人の特定につながる固有名詞（卒業学校名、会社名、住んでいる地区名など）は避けていただく。 ✓ プロフィールの公開項目にある内容については、一般的に初対面で聞いても差支えない内容だが、相手が非公開とされている項目については「差支えなければ〇〇について伺っていいですか」、「答えたくない場合は、話されなくて結構です」等と前置きすることを勧める。 ✓ 何か聞きたいことがあれば、「自分はこうだけど、あなたはどうですか？」と聞くことも一案。
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 引き合わせ直前に、一方から「仕事でトラブルが起きたので、お引合せを延期してください。」と連絡が入ったが、相手の方にはどのように伝えればよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 個人的な事柄等を本人の承諾なしに相手の方に伝えないようにする。（「やむを得ない事情」や「急なご都合」等の言葉を使う） ✓ 利用者の事情をどうしても相手の方に伝えなければいけない場合は、本人に確認し了承を得た上で伝える。

		<p>NG: 本人の承諾無しに「お仕事で〇〇のトラブルが起きたとのことなので、引き合わせが延期になります」と等と個人的な事柄を相手の方に伝えてしまう</p>
	<p>✓ 知人等が利用者であることを知った。</p>	<p>✓ 知人等が利用者であることを知っても、第三者にはもちろん、自身の家族や知人等の家族、知人等本人にも言わないようにする。</p> <p>NG: 知人等本人に「登録しているんですね」と声をかけてしまう。</p>
クレーム対応	<p>✓ 大声を上げたり、態度で威嚇されたり、テーブルをたたかれたりした場合、どのように対処したら良いか。</p>	<p>✓ まず、大声や威嚇行為について注意を促し（2-3回）、止めない場合は退席を促し、それでも大声や威嚇行為を続ける場合はビル管理者や警察等に連絡する。</p> <p>NG: こちらも感情的になって対応する、相手の不当な要求に応える</p>
	<p>✓ 長時間の交渉・クレームを打切るタイミングと、その切り出し方はどうしたら良いか。</p>	<p>✓ 最初に面談時間・対応時間を約束しておく。</p> <p>✓ これ以上交渉しても堂々巡りになると判断したら、「何と申されても当方の考え方は変わりません」と切り出し、退席を促す。</p> <p>✓ 相手がそれでも居座るようであれば、ビル管理者や警察等に連絡する。</p> <p>NG: 相手の不当な要求に応える</p>
	<p>✓ 誤った発言をした場合には、どのように対処したら良いか。</p> <p>✓ ミス等に付け込んで不当な要求をされた場合、どのように対処したら良いか。</p>	<p>✓ 誤った発言をした場合は、慌てず速やかに訂正する。</p> <p>NG: 誤ったことを認めない、誤ったことについて過度に謝罪する</p>

		<p>✓ 「ご指摘の件と要求は別の問題であり、要求には応じることはできません。」等として不当要求には応じない。</p> <p>NG：相手の不当な要求に応える</p>
	<p>✓ 上司との面談を要求してきて、「用件は直接上司に話す」と言っている場合どのように対処したら良いか。</p>	<p>✓ 上司の面談要求に応じる必要はなく、「私が担当なので、お話は私が伺います。上司には必要があれば私から報告します」と説明する。</p> <p>✓ 面談要求が執拗な場合は、ビル管理者等に連絡して退去を促す。</p> <p>NG：上司の面談要求に正当な理由なく応える</p>

【コラム：ヒューマンサービス（対人援助）における傾聴・共感の重要性】

結婚支援ボランティアの現場では、利用者に対して良いアドバイスをしようとするあまり、つついボランティアの方が一方的に話し続けてしまう、ということがありますが、ヒューマンサービス（対人援助）の現場において重要なことは、利用者の方のお話に耳を傾けて（傾聴）、思い・気持ちを受け止め（共感）、その上で上手にアドバイスを伝えることです。

本コラムでは、そのために必要な3ステップについて説明します。

1. マインド（援助職としての態度）

- ・ ヒューマンサービス（対人援助）の現場において、コミュニケーションの基盤となるのはマインド（援助職としての態度）です。福祉の分野では、以下に示す「バイステックの7原則」がよく参考にされています。

原則	内容
① 個別化	✓ 各利用者がそれぞれ違うことを意識し尊重する NG例：「今の若者は皆〇〇だから～」等とステレオタイプに当てはめて考える
② 意図的な感情の表出	✓ 利用者の感情表現を大切にする NG例：指示口調で利用者に接し、利用者自身の感情を引き出さない
③ 統制された情緒的関与	✓ 援助職は自身の感情をコントロールする NG例：ボランティア自身が感情的になってしまう
④ 受容	✓ 利用者の態度や行動を、道徳的あるいは感情論的にならず受け止める NG例：「その考え方は〇〇だから良くない」等と否定する
⑤ 非審判的態度	✓ 援助職の価値観や倫理観によって利用者を一方的に非難しない NG例：「そういうことを言うからダメなんだ」等と非難する
⑥ 自己決定	✓ 利用者自身で選択・決定できるよう支援する NG例：「あなたはこの人に申し込むべき」等とボランティアが決めてしまう
⑦ 秘密保持	✓ 援助の過程で知り得た秘密を厳守する NG例：利用者の個人情報を他の利用者に伝えてしまう

2. テクニック（コミュニケーションの技術・技法）

- ・ 上述したようなマインドを持っていても、それが上手に表現されなければ相手には伝わりません。以下、コミュニケーションに関するテクニックをいくつか紹介します。

✓ 心の壁（ブロッキング）を取り除く

人の話を聴くとき、自分の考えや気持ちがふと浮かぶと、心の壁（ブロッキング）となって邪魔をしてしまいがちです。話を聴いているときに、つい自分のことを話したくなったり、すぐにアドバイスしたくなったり、結論を急ぎたがったりする人は、以下に示すような自分の心の壁・癖を把握し、取り除くように心掛ける必要があります。

- ◇ 決めつけ：「どうせ〇〇に決まっていますよ」
- ◇ 言いたがり：「私もそうでした、今思えばその時は～」
- ◇ 批判的・一方的：「それは、〇〇するべきでしたね」
- ◇ 勝手な解釈：「それはつまり、〇〇ということですよ」
- ◇ 憶測・独りよがり：「きっと〇〇のせいですね」
- ◇ 教えたがり：「そういうときは〇〇すればよいのです」

✓ ペーシング/ミラーリング

人の話を聴くとき、その人と波長を合わせることで一体感を生み、上手に話を引き出すことが出来ます。相手の呼吸のリズムや話し方（話す速度、口調・言葉遣い等）を観察して、ペースを合わせる「ペーシング」や、相手の仕草や動作・姿勢等を鏡に映したように真似る「ミラーリング」等のテクニックを用いると、波長を合わせることが出来ます。

✓ 繰り返し、言い換え・要約

相手の話を聴いて、うなずきやあいづちを示しながら、相手が話す言葉の一部を短くそのままの言葉で返す「繰り返し」を用いることで、相手は言いたかったことが誤解されることなく伝わったと実感するとともに、自身の感情や考えを客観的に再認識することが出来ます。

更に踏み込んで、相手の話から感じ取ったことや理解したことを聞き手の言葉で返す「言い換え」、話の要点を聞き手が整理して返す「要約」を用いると、相手の言いたいことや考えを整理してあげることが出来ます。

✓ リフレーミング

相手が持っている意味づけや解釈を、異なる視点で捉え直す技法を「リフレーミング」と呼びます。例えば否定的に自分や他者を評価している人に対して、肯定的なイメージを付け加えることで、短所と長所の両方からその人全体を捉えて気付きや変化をもたらすことができます。

(例：理屈っぽい→論理的、神経質→几帳面、自信がない→謙虚等)

3. スキル（テクニックを効果的に用いる実践力）

- ・ 色々なテクニックを知っていても、その場その場で適切なテクニックを使い分け、自然に使いこなせなければ実践力には結びつきません。

実際、結婚支援のベテランボランティアの方々は、難しいテクニックの名前等は知らずとも、自然に同様の技法を実践出来ています。

実践力を高めるためには、様々な経験を積むことが一番ですが、グループ活動等を通じてベテランボランティアの方々の経験をお聞きする、事例集・QA集等を通じて事例ベースでの学びを深める等により、現場での経験不足を補完することも出来ます。

第3回研修

第6章. 結婚支援業務に関するトラブルおよびその対応

結婚支援ボランティアの皆さんと利用者の方々との間で起きるトラブルについては、その事例や対応策について、よく知っておく必要があります。

ここでは、結婚支援活動を行う上で想定されるトラブル対応のうち、基本となるものを紹介します。

(1) 利用者・家族、地域、ペアの問題

結婚支援活動を行う上でよく発生するトラブルの例と対応策を紹介。

・利用者の経歴の詐称、結婚以外の動機

過去の違反例や注意すべき点、違反者が出た際の対応の仕方（センターごとの線引きを記載）。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・利用者の経歴詐称や、結婚以外の利用(商品販売、結婚する気の全くない交際目的等)は、休会や退会させられる。
- ・そのような事例を把握したら、センターに連絡してほしい。

【講義展開例】

- ・事務局から、実際の事例について説明する。
- ・過去に具体的事例があれば、個人名等がわからないようにしつつ紹介する。(そのほうが受講者のイメージが湧きやすくなる)

・利用者に連絡が取れない、会合に遅刻、不適切発言

連絡が取れない場合の休会扱いへの対応、遅刻時のお詫び、お相手へのフォロー

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・利用者に連絡が取れなくなってしまった場合等のトラブル対応について説明。
- ・このような事例を把握したら、センターに連絡するよう伝える。

【講義展開例】

- ・過去に具体的事例があれば、個人名等がわからないようにしつつ紹介する。

・お引き合わせペアの都合が合わない

隙間時間を探すアドバイス、前向きな姿勢、不安を抱かせない配慮

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・お引き合わせペアの都合が合わないという事例について、解説する。

【講義展開例】

- ・先輩ボランティアに、実際の事例について話してもらう。

・デート費用などの金銭トラブル

交際終了時に男性からデート費用の請求があったケース。⇒当事者間で解決を図る必要がある。トラブル回避のために事前にデート初期の費用は折半するアドバイス。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・デート費用などの金銭トラブルがあることについて、解説する。

【講義展開例】

- ・受講者に、金銭トラブルの対応策を考えてもらう。
- ・過去に具体的事例があれば、個人名等がわからないようにしつつ紹介する。

・家族の過干渉・非協力

家族が子の結婚に過剰に介入する場合の対応の在り方、また結婚に積極的でない場合の対応策

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・家族の過干渉や非協力などのケースがあることを、解説する。

【講義展開例】

- ・先輩ボランティアに、実際の事例について話してもらう。

・地域の慣習・相続制度の問題

慣習や相続制度に関する問題は、交際の早い段階で共有し合う必要性をアドバイスすることで、相続財産等の諸問題の深刻化を軽減させる。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・地域の慣習・相続の問題などがあることを、解説する。

【講義展開例】

- ・受講者に、地元の結婚に関する地域の慣習などの事例について尋ねる。
- ・過去に具体的事例があれば、個人名等がわからないようにしつつ紹介する。

(2) 利用者からのハラスメント

利用者からのハラスメントとクレームが発生した場合、独りで解決しようとせずに状況に応じた相談窓口にご相談することでトラブルの拡大を防ぐことが重要。

・利用者からのハラスメントとクレームが発生した際の相談窓口

地域の実情に合わせた窓口や支援内容を紹介、ボランティアが一人で抱え込まないようフォローする体制の明示

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・利用者には、様々な方がいる。自分の希望どおりにいかないことをもって、ボランティアの皆さんに、無理難題を言ったり、暴言を吐いたりといった、ハラスメントもあるかもしれない。
- ・また、センターの活動に対するクレームを言われる可能性もある。
- ・このような場合は、自分一人で抱え込まず、センターに相談してほしい。

【講義展開例】

- ・事務局から、対応策について説明する。

・ストーカーやDV等の緊急な対応を要する相談を受けた場合

速やかに最寄りの警察に連絡をするように伝える（地域によって、特にDVについては警察以外の窓口や支援体制がある場合も多いので、担当部局と事前に良く調整して、どの窓口につなぐべきか、整理しておくことが必要）。同時にセンターにも報告する。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・利用者からの、ストーカーや DV などの緊急対応を要するような話や情報を得た場合の対応を説明する。

【注意点】

- ・地域の相談窓口については、利用者の安全に関することなので、ストーカー対応、DV 対応を担当している部署と、どのような窓口を紹介するか、よく相談して資料を作成してください。

【講義展開例】

- ・事務局から、対応策について説明する。

(3) 利用者へのハラスメント

こちらがそのつもりがなくても、相手にとってハラスメントと捉えられるケースもある。注意が必要。

- ・行き過ぎ、やりすぎ、押しつけ、無理強い等に対する注意
- ・対話時の表現で注意すべきポイント

例) 「片親」「シングル」「おじさん」「おばさん」「男なんだから～しないと」「女なんだから～しないと」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・利用者と直接の会話、電話、メールなどやりとりする場面では、利用者の心証を害さない、あるいは結婚への前向きな気持ちを失わせない配慮が必要。
- ・場を和ませる、冗談・軽口のもつもりでも、利用者にとってはハラスメントと感ずる可能性があり、特に若い人は、上の年代とは価値観・常識の範囲が変わっているので、注意が必要。
- ・特に昨今は、男なんだからこうすべき、女なんだからああすべき、というような発言は、性別に基づいて、ステレオタイプを押し付けることになり、非常に問題視されるので、特に留意。

【講義展開例】

- ・事務局から、過去の具体的事例について説明する。

第7章. 結婚支援業務に関わるための法的知識等

結婚支援を行う上で、結婚に関する法的な問題について基本的な知識を理解していただきます。この知識は、結婚支援活動をする上で、基本となるものです。

研修時のポイント等

【注意点】

「法的な問題」ということで、受講者がかしこまって警戒してしまう可能性もあるので、

- ・「法的な問題」といっても、どれも、常識的な話。
 - ・ただ、皆さん「なんとなく」は知っていても、あまり正確には把握していないことも多いと思うので、この機会に、まとめて聞いてもらいたい。
 - ・結婚支援ボランティアの業務にも、関係してくる知識である。
- など、なるべく心理的ハードルを下げるように努めることが望ましい。

この章で学ぶ「結婚に関する法的な問題5項目」

- (1) 結婚に関連する基本的な法律について
- (2) 個人情報保護法の基本
- (3) 戸籍制度
- (4) 関連情報
- (5) 独身証明書

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・受講者に、5つの問題であまりよくわからない問題は何か、質問する。

(1) 結婚に関連する基本的な法律について

・憲法第 24 条

日本国憲法第 24 条は、「家族生活における個人の尊厳と両性の平等」を明記している。条文は次のとおり。

【1 項】婚姻は、両性の合意のみに基づいて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない。

【2 項】配偶者の選択、財産権、相続、住居の選定、離婚並びに婚姻及び家族に関するその他の事項に関しては、法律は、個人の尊厳と両性の本質的平等に立脚して、制定されなければならない。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・ポイントは、第 1 項の「両性の合意のみに基づいて成立」という点。
- ・つまり、結婚する男女双方の合意があれば結婚することができ、両親や周囲の人の反対があっても、最終的には止めることはできない。
- ・第 6 章で、家族が反対している例を紹介したが、本人が結婚に前向きな場合は、最後は、この憲法の条文を紹介するのも一案かもしれない。

・民法第二章婚姻のポイント

法的に夫婦になれる年齢、成年被後見人の結婚、結婚の届け出、再婚することが許されない期間、詐欺や脅迫にあつて結婚させられた場合。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・民法第二章「婚姻」の内容について説明。

【講義展開例】

- ・長い間、女性は 16 歳から結婚できる制度となっていたが、2022 年 4 月から 18 歳になった。
- ・昔は、未成年者の結婚には親の合意が必要だったが、今はそもそも 18 歳は成年なので、親の合意が必要な場面もなくなった。

(2) 個人情報保護法の基本

個人情報の保護に関する法律（個人情報保護法）は、利用者や消費者が安心できるように、個人情報の有用性に配慮しつつ、個人の権利利益を保護するためのルールを定めた法律。

・ 個人情報とは

「個人情報」

生存する個人に関する情報で、特定の個人を識別することができるもの（他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）

（例）「氏名」、「生年月日と氏名の組合せ」、「顔写真」等。

「個人識別符号」

その情報だけでも特定の個人を識別できる文字、番号、記号等として法令で定めがあるもの

（例）「免許証番号」、「マイナンバー」等。

・ 要配慮個人情報とは

不当な差別、偏見その他の不利益が生じないように取扱いに配慮を要する情報として、法律・政令に定められた情報

（例）人種、信条、社会的身分、病歴、犯罪の経歴

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・ 個人情報とは何かについて説明。
- ・ 特に要配慮個人情報については、それによって差別や偏見が生じないように、慎重な取り扱いが必要。

・ 守るべき4つの基本ルール

- ①個人情報の取得・利用「勝手に使わない！」
- ②個人情報の保管「なくさない！ 漏らさない！」
- ③個人情報の提供「勝手に人に渡さない！」
- ④開示請求等への対応「お問合わせに対応！」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・個人情報で守るべき基本ルール。使わない、なくさない、漏らさない、渡さない。
- ・最後の「お問い合わせに対応」は、「本人からのお問い合わせ」のこと。つまり本人が「私の個人情報を見せてほしい」と言ってきた場合の話。本人以外からの「お問い合わせ」に対応して個人情報を出してしまうのは、情報漏洩。
- ・なお、本人の同意があれば、どれも行いうことができる。
- ・個人情報の扱いの原則は、「本人同意なしにやるのはダメ」。ということ。
- ・良かれと思っても、利用者から聞いた個人情報（健康・宗教・賞罰歴 等）について、本人の同意なく、他のボランティアや他の利用者に伝えないこと。

【講義展開例】

- ・受講者に、個人情報に関して困った事が無いか聞く。

・個人情報流出の事例

○ボランティア同士で利用者について話すとき、他人に聞こえる声で話をしていた。

○利用者の情報を家族や友達に話をしていた。

○個人情報を車などに放置した。

○メールを誤送信した。

○不要になった個人情報を適切に破棄しなかった。

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・過去に具体的事例があれば、個人名等がわからないようにしつつ紹介する。

（3）戸籍制度

戸籍は、人の出生から死亡に至るまでの親族関係を登録公証するもので、日本国民について編製され、日本国籍をも公証する唯一の制度。ここでは、近年増加している再婚と養子縁組について学ぶ。

・再婚

○結婚するカップルのうち、約4組に1組が再婚者を含む結婚である。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・戸籍は、日本国民全員について作成されており、生まれてから死ぬまで、戸籍に載り続ける。
- ・結婚した男女は同じ戸籍に入ることになる。
- ・現在は、実は4分の1のカップルが再婚。(2(16)離婚・再婚の動向 も参照。)

・養子縁組

○結婚するカップルどちらかに子どもがいる場合は、子どもの名字や戸籍を決める必要がある。

○一般的に再婚のときは普通養子縁組となる。(父母による養子となる子どもの監護が著しく困難又は不相当であること等の事情がある場合において、子の利益のため特に必要があると家庭裁判所に認められる必要があり「特別養子縁組」という仕組みもある。)

「普通養子縁組」

養い親(養親)と養子の双方に制限が少なく、養子が成年の場合は養親と養子の同意によって成立する。制度上、養子が未成年の場合は、「養子縁組許可」を求める審判を家庭裁判所に申し立てることが必要だが、妻子が配偶者の子(いわゆる連れ子)等の場合は家庭裁判所の許可は不要。普通養子縁組では、養子になっても実父母との親族関係は残り、戸籍に実親の名前が記載され、養親と養子の続柄は「養子(または養女)」と記される。

(4) 関連情報

人権、性的指向・性自認の多様性や、多様な家族形態があることなどに配慮する。

・人権

「人権」とは「すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」あるいは「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持つ権利」。

・人権や個人情報等に関する関わり方

宗教、思想、信条、病歴、心身の障害の状況などの情報については、要配慮個人情報に該当する場合があります、利用者が自発的に話さない限り、自ら収集しないこと。

障害者、ひとり親、被差別部落出身者、LGBTQ、外国人等が利用者となることも想定されるが、利用者との対話時には、差別と指摘されるような言動や、不快感を与えるような言葉を避けるよう、気を付けること。

・注意する点

○障害者に対して、応対が横柄、差別的、威圧的になること。逆に、「大変ですね」「かわいそうね」などと不必要に言うこと

○ひとり親に対して「片親」「シングル」などの言葉を使用すること

○利用者の出身地や家柄を調べたり、聞いたりすること

○外国人というだけの理由で、結婚支援に関し不合理な扱いをすること

研修時のポイント等

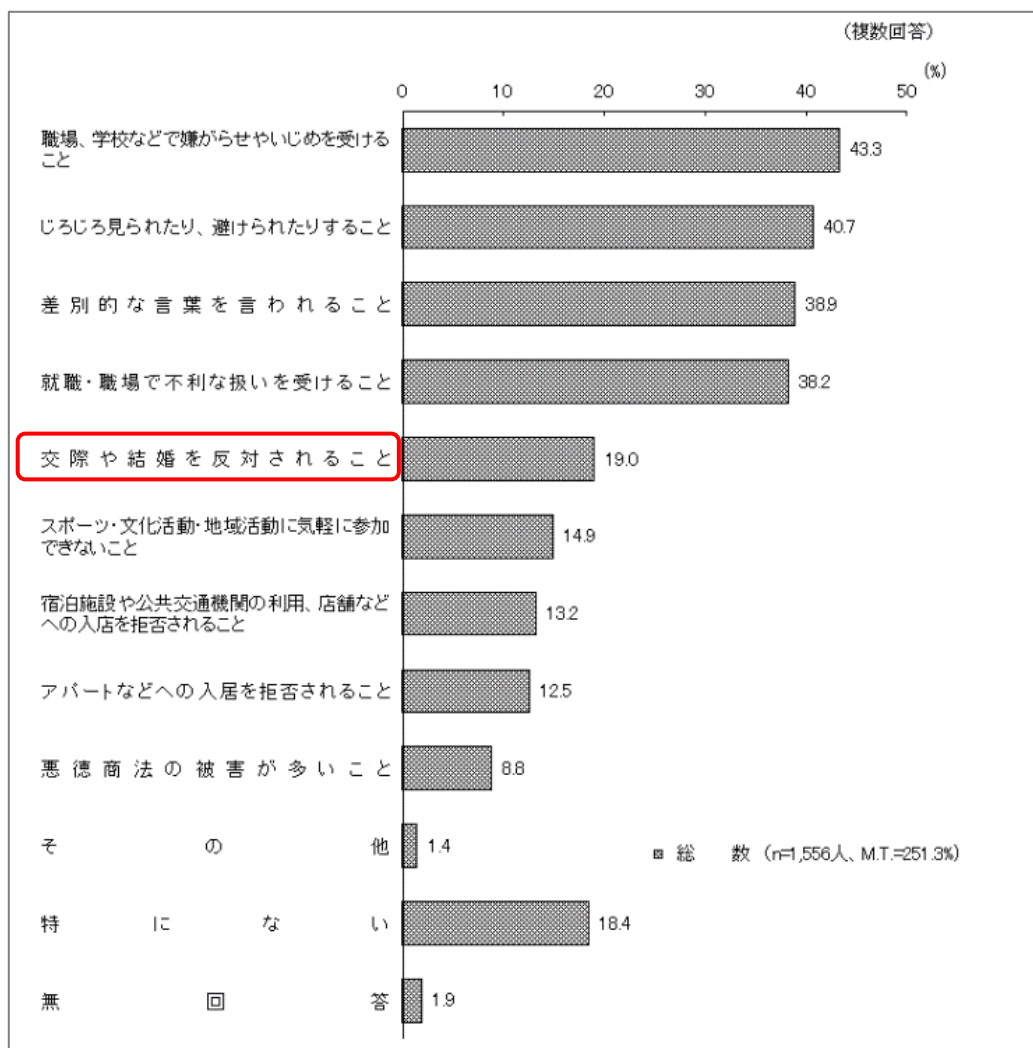
【重点説明ポイント】

- ・ボランティアは利用者とコミュニケーションする場面も多いことから、ふとした一言で利用者を傷つけることのないよう、特に人権にかかわることには注意が必要。
- ・また、ボランティアが利用者よりも相当年長であることも多いが、親しみのつもりで敬語を使わないなどの言葉遣いが、失礼・乱暴と利用者に受け取られる可能性もある。
- ・利用者が障害者、外国人、LGBTQであって、支援者自体、こうした利用者に接する経験やノウハウが足りないと考えられる場合、経験やノウハウが足りないことを率直に認めつつ、利用者に対して失礼な言動をしていることがあれば遠慮なく指摘してほしいと最初に伝えておくのも一案である。

【講義展開例】

- ・受講者に、人権問題で「うっかり間違えそうな事とは何か」尋ねる。

・『結婚問題で周囲の反対を受けること』は障害者にとって人権問題の上位



内閣府『令和4年度 人権擁護に関する世論調査』「図10 障害者に関する人権問題」

研修時のポイント等

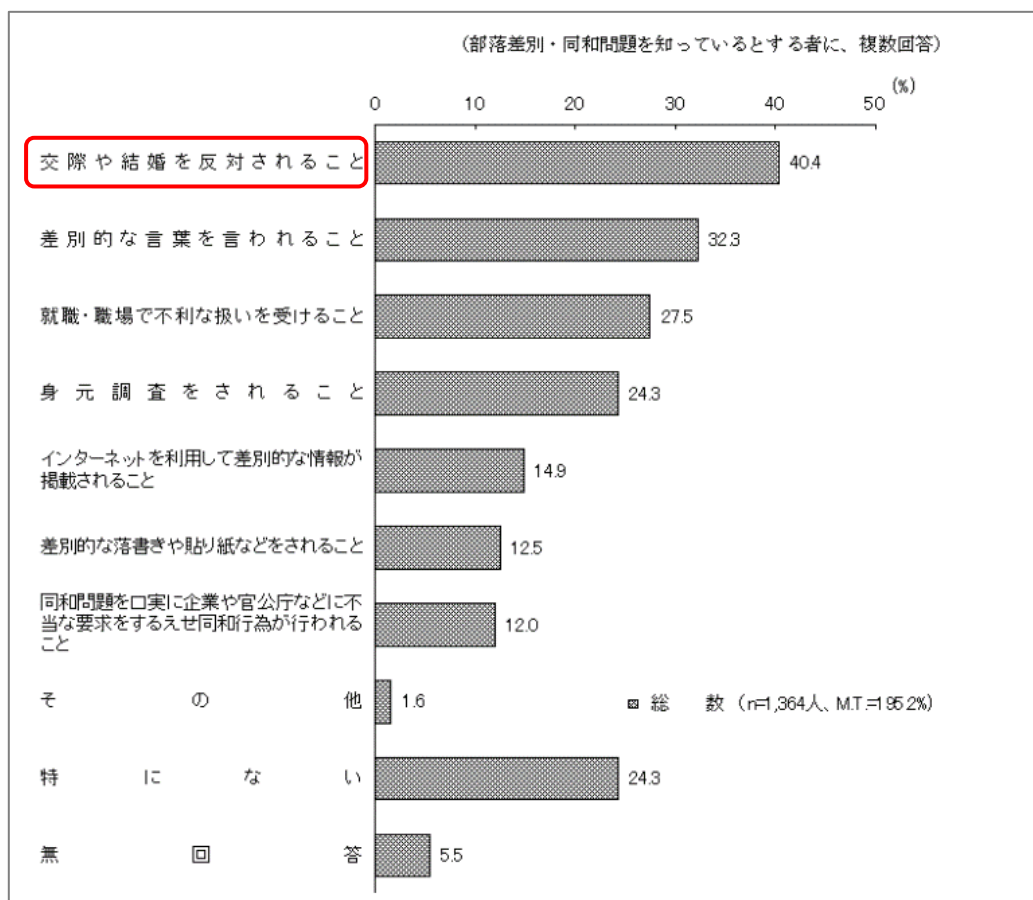
【重点説明ポイント】

- ・障害者も、当然、結婚支援サービスの利用者になることができる。
- ・障害者に聞いたアンケートでは、「結婚について周囲の反対を受けること」が人権問題の上位にあがっている。
- ・結婚する・しない、する場合誰とするか、は、本人の意思が大事であり、それをいつまでも反対し続けるのは、人権の問題でもあり、プライバシーの問題でもある。
- ・障害者は、こういった反対を受けながらも、結婚相手を探して努力しているかもしれないので、その可能性も考えながら、言動に気を付けつつサポートしていくことが必要。
- ・障害の有無は個人情報であり、お相手等に伝えるタイミングはご本人の意思次第。
- ・なお「障害者」という表記を気にする方もいるが、これについては現行のままとすべき意見も含めて様々なご意見がある。国の制度等の表記は「障害者」となっている。

【講義展開例】

- ・受講者に、障害者の利用者への対応で気を付けるべきことを聞いてみる。

・『結婚問題で周囲の反対を受けること』は、部落差別の問題として最も高い結果に

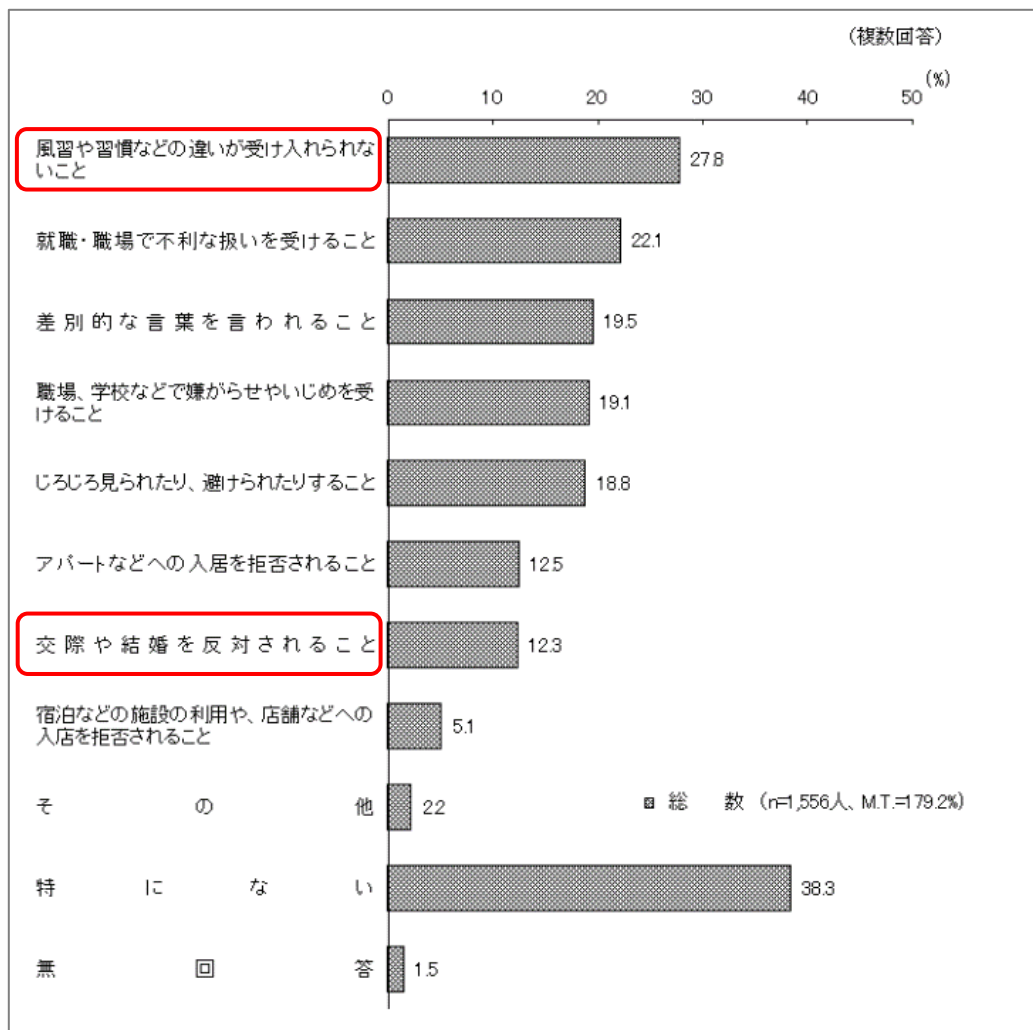


内閣府『令和4年度 人権擁護に関する世論調査』「図12 部落差別・同和問題に関する人権問題」

研修時のポイント等

- 【重点説明ポイント】
- ・「結婚への反対」は、アンケートを取ると、部落差別問題の第1位の問題になっている。
 - ・部落差別問題はデリケートなので、不用意に出身地域を掘り下げて聞かないことが必要なケースもある（ただし、地域により異なる）。

・外国人の風習や習慣等の違いを理解および許容することが大事



内閣府『令和4年度 人権擁護に関する世論調査』「図16 外国人に関する人権問題」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・センターにおいては、外国人の利用者を〇〇〇の条件で受け入れている。(受け入れていない場合は、適宜このスライドは削除。)
- ・外国人であるからといって特別な対応は必要なく（在留資格や各国独身証明の確認除く）、分け隔てなくサポートすること、文化・風習・宗教の違いにも配慮すること、迷ったらセンターに相談すること、を心がけてほしい。

【講義展開例】

- ・受講者に、外国人の利用者への対応の仕方を、話しあってもらおう。

・ L G B T Q

L G B T Qとは次の言葉の頭文字をとって組み合わせた言葉で、性的少数者（セクシャルマイノリティ）を表す言葉の一つとして、使われる。それぞれの言葉の意味は一般に以下のとおり。

○性的指向…どのような性別の人を好きになるか、ということ。

※性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律（以下「理解増進法」という。）においては「性的指向とは、恋愛感情又は性的感情の対象となる性別についての指向」と定義されています。

L…Lesbian（レズビアン）女性の同性愛者（心の性が女性で恋愛対象も女性）。

G…Gay（ゲイ）男性の同性愛者（心の性が男性で恋愛対象も男性）

B…Bisexual（バイセクシャル）両性愛者（恋愛対象が女性にも男性にも向いている）。

○性自認…自分の性をどのように認識しているのか、ということ。「心の性」と言われることもある。多くの方は「身体の性」と「心の性」が一致しているが、「身体の性」と「心の性」が一致せず、自身の身体に違和感を持つ人たちもいる。

※理解増進法においては、「ジェンダーアイデンティティとは、自己の属する性別についての認識に関するその同一性の有無又は程度に係る意識」と定義されています。

T…Transgender（トランスジェンダー）「身体の性」は男性でも「心の性」は女性というように、「身体の性」と「心の性」が一致しないため「身体の性」に違和感を持つ人。「心の性」にそって生きたいと望む人も多くみられる。

なお、Qとはクエスチョニングまたはクィアのことを指す。クエスチョニングとは、自身の性のあり方について特定の枠に属さない人、分からない人、決めていない等の人を指す。また、クィアとは、規範的とされる性のあり方以外を包括的に表す言葉である。

また、こうしたL G B T Qの枠に当てはまらない人もいる。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・センターの利用者及び利用者の家族や友人等に LGBTQ の人がいるケースも考えられるので、差別的言動には気を付けなければならない。

【講義展開例】

- ・受講者に、LGBTQ に関して知っている事を話しあってもらおう。

○利用者および利用者の家族や友人が LGBTQ であるかもしれないので、下記のような発言・行動をとらないように注意する。

・「ホモ」「オカマ」「男らしくない」「女らしくない」などとからかう。

・「どこかおかしいのでは」「問題があるのでは」「気持ち悪い」などとうわさ話をする。

・本人の了承なく、その人の性的指向や性自認について暴露する（アウティング）。

研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・受講者に、LGBTQ の利用者への発言で注意すべき事を、話しあってもらおう。

・名字について

○現在の民法のもとでは、結婚に際して、夫婦ともに男性又は女性のいずれかの氏（名字）を名乗ることになっている。

○女性の社会進出等に伴い、結婚後も旧姓を名乗る「旧姓使用」が広がっている。

○また、旧姓使用してもなお残る職業生活上の不便・不利益、アイデンティティの喪失など様々な不便・不利益が指摘されてきたことなどを背景に、近年、選択的夫婦別氏制度の導入を求める意見がある。

○夫婦の名前については、様々な考え方があるので、「夫婦になったら名字を一つにするのが当たり前」や逆に「早く選択的夫婦別姓を導入すべき」というような発言も、慎むようにする。

(5) 独身証明書

・独身証明書とは

独身証明書とは、「氏名」「生年月日」「本籍地」が記載され、民法第732条（重婚の禁止）の規定に抵触しないことを証明するもの。

独身証明書は、本籍地の市区町村役場で作成し発行している。

・独身証明書を認する意義

結婚支援を行うにあたり、独身であることは重要な情報であり、公的に実施する事業においては、一律に求める必要がある。

ただし、単に出会いの場の提供する程度の場合は、本人同士で身元や資格を確認しあうことでも構わない。

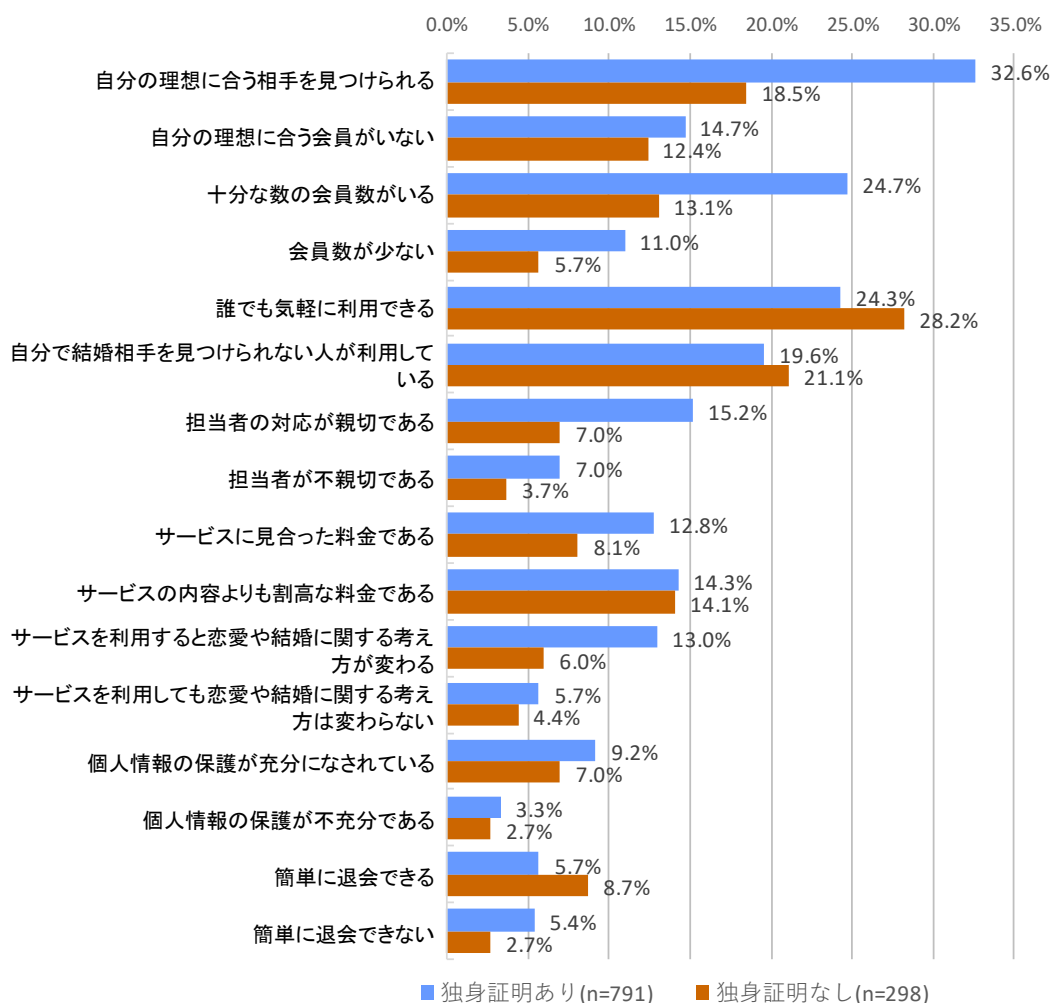
研修時のポイント等

【講義展開例】

- ・独身証明書を受講者に見せて、感想を聞いてみる。

・独身証明の有無によるサービスイメージの比較

20歳～49歳の独身者のうち、結婚相手紹介サービス・結婚相談所（独身証明あり）を現在利用中の方は、婚活サイト・婚活アプリ（独身証明なし）を利用中の方と比較して、「自分の理想の相手を見つけられる」「十分な会員数がある」「担当者の対応が親切」などの項目が特に強くイメージされている。（複数回答）



一般社団法人日本結婚相手紹介サービス協議会
2019年8月19日プレスリリースより

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・官民含めて、様々な結婚支援サービスがあるが、独身証明を求めるサービスの方が、理想の相手探しに役立つ、というイメージを持たれている。

・ 独身証明書の請求方法

独身証明書の窓口での請求は、忙しくて取りに行けない、利用者にとって羞恥心等の問題がある。地域によっては窓口以外でも郵送や電子申請ができる場合があり、手続きの迅速化にもつながるので利用者にも案内する。

研修時のポイント等

【注意点】

- ・ 独身証明書の請求は、ボランティアが利用者に直接促すような場面は想定されないが、ボランティアの基礎知識・参考情報として説明しておくもの。

V モデルプログラム附録について

モデルプログラム附録は、研修資料のひな型となるものですが、ボランティア等の正式名称、センターの正式名称をはじめ、活動内容、少子化に関するデータ等、地域の実情に合わせて加工・編集していただくことを想定しています。

したがって、モデルプログラム附録を活用する場合も、全ページ、そのまま使用して大丈夫か、加工・編集が必要かどうか、実施者において改めて確認の上で使用するようになさってください。

そのうえで、特に「モデルプログラム附録」の中で、加工や編集が必要なページを、以下ピックアップし、加工・編集の方向性を解説しました。

こちらを参考に、各ページの加工・編集作業を行うようになさってください。

1, 加工・編集が必要なページ

第1章. わが国および各地域における少子化の現状	
5P	(1) 日本・本県（市町村）の人口推移（●●県）
7P	(2) 出生数、出生率の推移（●県）
10P	(4) 婚姻件数、婚姻率、50歳時未婚率の状況（●県）
第4章. 結婚支援ボランティアの活動内容	
58-62P	(1) 結婚支援ボランティアとは
63-77P	(2) 結婚支援ボランティアの活動内容
	①～⑤※必要に応じて削除
78-82P	(3) 結婚支援ボランティアの制度
83-84P	(4) 結婚支援センターとのコミュニケーション
第5章. 結婚支援業務に関する知識・技能	
89-108P	(1) 利用者とのコミュニケーションの方法
	①～④※必要に応じて削除
109-114P	(2) 利用者・ボランティア自身のメンタルヘルスケア
115-116P	(3) 結婚支援ボランティア同士のネットワークづくり
117-123P	(4) QA集
第6章. 結婚支援業務に関するトラブルおよびその対応	
133-134P	(2) 利用者からのハラスメント
第7章. 結婚支援業務に関わるための法的知識等	
155-157P	(5) 独身証明書

2. 自地域の統計情報の更新

第1章では、日本全国の統計の次のページに、皆様の地域の現状を示す想定で作成しています。

自地域の役場のホームページにデータが公開されていると思いますので、そちらを張り付けて更新してください。

第1章. わが国および各地域における少子化の現状

見つからない場合は自治体の統計関連部署にお問い合わせみてください。

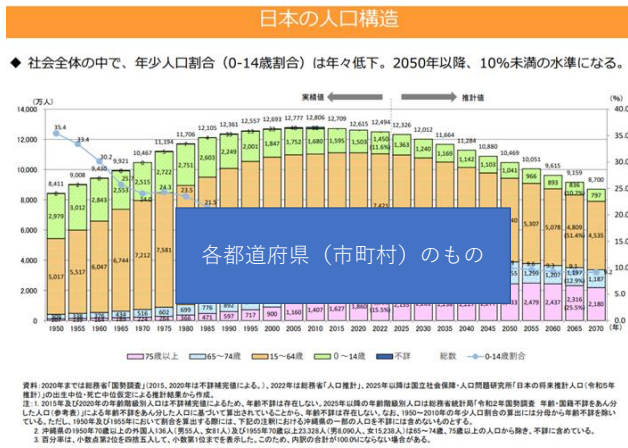
どうしてもない場合はページごと削除してしまっても構いません。

【6P/8P/11P】

(1) 日本・本県（市町村）の人口推移（●●県）

6

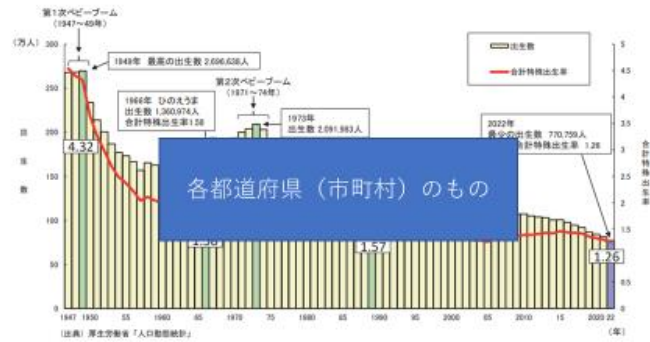
- 各都道府県（市町村）の状況



(2) 出生数、出生率の推移 (●県)

8

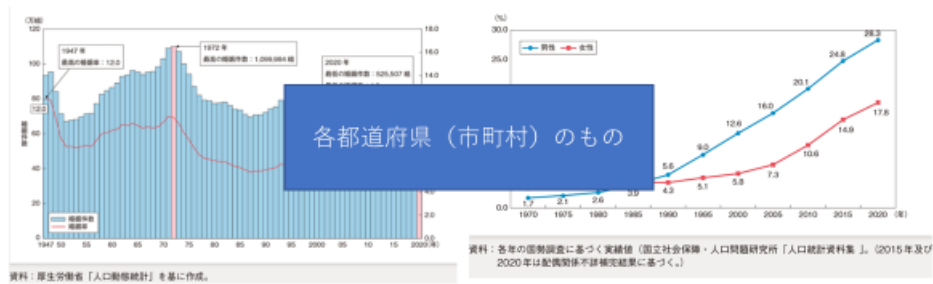
- 各都道府県（市町村）の状況



(4) 婚姻件数、婚姻率、50歳時未婚率の状況 (●県)

11

- 各都道府県（市町村）の状況



3. 実施する支援内容に合わせて更新

第4章と第5章では、各地域で実施されている、結婚支援の支援内容の代表的なものについて記述しています。

地域によっては、実施していない支援内容もあるかと思いますので、実施していない内容は削除して使用してください。

第4章. 結婚支援ボランティアの活動内容

60ページおよび63ページに、代表的な支援内容を①～⑤の5つに分けて記載しています。

自地域で実施していない支援内容は削除してください。

<例>

婚活イベントの運営サポートはボランティアさんをお願いしていない。

⇒②を削除

カップリング後の交際フォローはセンター職員が対応している。

⇒③を削除 etc

【60P】②⑤の取り組みを実施していないケース

(1) 結婚支援ボランティアとは ①主な活動内容

1. 当県の結婚支援ボランティアの主な活動

① 1対1のお引き合わせ時の立会い・フォロー

② ~~婚活イベントの運営サポート~~

③ 各取り組みでのカップリング後の交際フォロー

④ 地域における独身者への広報、出会の応援

⑤ ~~結婚希望者をとりまく関係者への啓発活動~~

以上の5つです。

第1回研修の時にデータでお示したように、本人たちの努力だけで婚活を進めるのが厳しい現状もある中、婚活支援するのが主な役割です。

(1) 結婚支援ボランティアとは ①主な活動内容

1. 当県の結婚支援ボランティアの主な活動

① 1対1のお引き合わせ時の立会い・フォロー

② 各取り組みでのカップリング後の交際フォロー

③ 地域における独身者への広報、出会の応援

以上の3つです。

第1回研修の時にデータでお示したように、本人たちの努力だけで婚活を進めるのが厳しい現状もある中、婚活支援するのが主な役割です。

63ページも同様に編集し、64～77ページにある削除した取り組みの○数字に対応したページを削除してください。

第5章. 結婚支援業務に関する知識・技能

90～108ページは第4章の支援内容①～④に対応した内容で作成しています。

前項で削除した取り組みがある場合は、見出しに記載のある○数字のページを参照し該当するページを削除して使用してください。

4. 自地域の実態に合わせて更新

第4章～第7章では、各地域で実施されている取組のうち代表的なものを参考に、各スライドを作成しています。

そこで具体的な内容については自地域の実態に合わせて修正する必要があります。該当のないものは適宜削除するなどしてください。

第4章. 結婚支援ボランティアの活動内容

【65P】お引き合わせの会場

(2) 結婚支援ボランティアの活動内容
① 1対1のお引き合わせ時の立会い・フォロー②

2. 会場の確認
当県で利用できるお引き合わせ会場の例

【A地区】ホテル●●ラウンジ 住所：●●町2丁目-15 電話：00-0000-0000 定休日：第2・4火曜日	【B地区】喫茶店▽ 住所：--町1丁目-1 電話：00-0000-0000 定休日：なし（年末年始）
【C地区】ホテル×ラウンジ 住所：××町3丁目-10 電話：00-0000-0000 定休日：なし（年末年始）	【D地区】レストラン◇◇ 住所：△△町1丁目-1 電話：00-0000-0000 定休日：木曜日

一度も行ったことがない会場は、可能なら下見しておくで安心。
当日は〇〇分程度前に会場に向かい、席のレイアウトの確認やお茶菓子を持ってきてもらうタイミングをお店の方と打ち合わせしておくとういでしょう。

1対1のお引き合わせの際に利用できる会場を示したページです。
自地域で活用できる（よく活用する）会場について記載してください。

【66P】基本ルール・留意事項

(2) 結婚支援ボランティアの活動内容
① 1対1のお引き合わせ時の立会い・フォロー③

当日の同席・ルールと留意事項の説明
当日はまず会員証と本人確認書類で本人確認をし、留意事項について説明します。

<当県の基本ルール・留意事項>

- ✓ 初回お引き合わせ時には、お名前や連絡先などは非公開です。
(無理に聞き出したりしないように注意します)
- ✓ 時間は〇時間までです。会場で解散するよう伝えてください。
(盛り上がりすぎて後日日程調整してもらいます)
- ✓ 終わりましたら各々サポーターへ連絡してもらってください。
(それぞれから連絡するよう伝えましょう)
- ✓ 〇日以内に再度お会いしたいかサポーターに連絡してもらってください。
(ダメだった場合も連絡が必要です、連絡がない場合こちらから連絡しましょう)
- ✓ 不成立だった場合、お相手のプロフィールが閲覧できなくなる旨伝えてください。
(後からクレームにならないよう事前説明してきましょう)

おおよそ〇分程度経過したら様子を見て退席します。

お引き合わせ時の基本ルールと留意事項について代表的な事例を記載しています。自地域で定めるルールと照らし合わせて適宜修正してください。

【71P】婚活イベントマッチングカード等の記入・集計例

(2) 結婚支援ボランティアの活動内容 ② 婚活イベントの運営サポート ②

12

2. マッチングカード等の記入・集計例

■ファーストインプレッションカード

<ファーストインプレッションカード>

男性 女性 ____番さんへ

先ほどのプロフィールトークで、____さんと仲よくなれたらいいなと思いました。よろしくお願ひします。

男性 女性 ____番より

■マッチングカード

<マッチングカード>

男性 ____番さん

第一候補 ____番

第二候補 ____番

第三候補 ____番

■マッチング判定シート

	女1	女2	女3	女4	女5	女6
男1	B	A	A			C
男2	B	A		A		C
男3	A		C	B	C	A
男4	C		A	B	B	C
男5	C	A	B		B	
男6	B			A	A	B

男性は青で、(→横のライン左列)
女性は赤で、(→縦のライン右列)
第一候補：A 第二候補：B 第三候補：C

■結果報告カード

男性 女性 ____番さんへ

____さん()

____さん()

おめでとうございます。当日は____さんの子とカップルになりました。この後、お相手とお引き合わせいたします。

残念ながらマッチングはありませんでした。今後おセンターでは皆さまの良い出会いをお願ひしております。

そのままに
お願ひ下さい。

またお申し込みをお待ちしております。

婚活イベントで使用するマッチングカード等の見本が示されています。

自地域で実際に使用するツールの画像がありましたら、より具体的になりますので、そちらに差し替えてください。

【74P】本人および独身者であることの確認

(2) 結婚支援ボランティアの活動内容 ④ 地域における独身者への広報、出会いの応援 ④

74

利用者との顔合わせ（相談申込/機縁紹介）

身近な知り合いやよく行くお店などに「婚活ボランティア」として活動していることをアピールしておく、情報が入りやすくなる。結婚を希望する独身者やその家族から相談があった場合は、本人と面談をし、支援内容の説明や希望条件のヒアリングを行います。

本人に結婚の意思があることを必ず確認してください。

本人および独身者であることの確認

本人と面談する際は、必ず本人確認と独身であることの確認を行ってください。

本人確認	写真付きの本人確認書類（免許証・パスポート等）で確認。ない場合は複数の身分証を提出してもらう。
独身確認	独身証明書で確認（1か月以内の発行されたものに限ります）。

本人確認および独身者であることを確認する際に、提出してもらう書類について説明しています。

自地域で実際に提出してもらっている書類と比較して過不足があれば修正してください。

【76P】利用者および相手についての希望の登録

(2) 結婚支援ボランティアの活動内容 ④ 地域における独身者への広報、出会いの応援③

17

3. 利用者情報および相手についての希望の登録

当県では以下の様式に、利用者の情報と希望条件を記入してもらいます。

自己PRの記載例について、第5章で紹介いたします。

利用者の情報および相手についての希望を登録するフォーマットの見本が、示されています。

自地域で実際に使用するツールの画像がありましたら、より具体的になりますので、そちらに差し替えてください。

【78～82P】結婚支援ボランティアの制度

76～82 ページには結婚支援ボランティア制度の説明として、以下の内容の見本が示されています。

各項目ごとに自地域の実態に合わせて編集してください。

<ボランティア制度記載内容>

- ・結婚支援ボランティアの認定手順（78P）
- ・活動経費の支払清算方法、センターが加入するボランティア保険等（79P）
- ・結婚支援ボランティアの資格要件（80P）
- ・結婚支援センターへの誓約書の提出（81P）
- ・結婚支援ボランティアの登録期間（82P）

【83P】センターの連絡先

(4) 結婚支援センターとのコミュニケーション ① 連絡

・センターとの連絡

困った事があった場合、不安な場合などは、随時センターへお問い合わせください。

連絡先：〇〇〇婚活サポートセンター

☎ 000-000-0000

(〒* * * * * □□市△△△* - * * * 〇〇ビル)

必要書類提出方法：ご持参いただくか郵送で提出ください。
郵送料は後日切手でお返しします。

結婚支援センターとのコミュニケーションの項目において、センターの連絡先や書類の提出先を示しています。

実際の電話番号・住所に修正してください。

【84P】情報交換会の予定

(4) 結婚支援センターとのコミュニケーション ② 情報交換会

・センター主催の情報交換会

- ・年〇回程度、意見交換会を開催します。
- ・活動状況の確認と、お互いの利用者の情報について、ボランティア同士で情報交換を行い、いい相手がいないか相互に相談してください。
- ・詳しい日程などは、決まり次第センターからお知らせします。

■本年度の情報交換会の予定

時期	会場
20xx年 ●月	〇〇公民館 レクリエーションルーム
20xx年 ◇月	市役所 第二会議室

結婚支援センターが開催する情報交換会・意見交換会についての情報を、記載しています。

実際の開催予定を記入してください。

第5章. 結婚支援業務に関する知識・技能

【113P】困ったときの相談窓口

(2) 利用者・ボランティア自身のメンタルヘルスケア ⑤

27

困ったときの相談窓口

ボランティア活動をするうえで困りごと等があった場合は、一人で抱え込まずにまずはセンターにご相談してください。
センター職員は皆さんの味方です。些細なことでも遠慮なく連絡いただくと嬉しいです。

<〇〇センター連絡先>
000-000-0000

センター職員に相談しづらい悩みもあるかと思いますが。メンタルヘルスに関する匿名で相談できる窓口も紹介しておりますので、こちらもご活用ください。

<〇県こころのホットライン>
000-000-0000

メンタルヘルス関連以外の窓口も第6章で紹介しています。

利用者・ボランティア自身のメンタルヘルスケアとして、困ったときの相談窓口を示しています。

センターの連絡先と、自地域のメンタルヘルス関連の相談窓口があれば、修正してください。

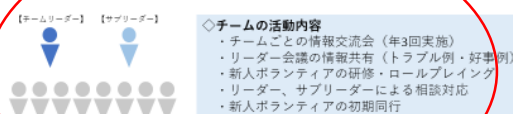
【116P】ボランティア同士の連携について

(3) 結婚支援ボランティア同士のネットワークづくり ②

39

ボランティア同士の連携について

当県では地区ごとにチーム制で活動しています。各チームにはベテランボランティアのチームリーダーとサブリーダーがいますのでわからないことがあったら積極的にご相談ください。



皆さんも将来的には新人ボランティアのフォローをお願いします。

ボランティア同士のネットワークづくり・連携についての事例を示しています。

自地域の実態に合わせて修正してください。

連携体制の構築がまだの場合は、体制が整うまで当該ページごと削除して構いません。

この機会にぜひ検討してみてください。

第6章. 結婚支援業務に関するトラブルおよびその対応

【133P】利用者からのハラスメントとクレームが発生した場合の相談窓口

(2) 利用者からのハラスメント

10

利用者からのハラスメントとクレームが発生した場合

独りで解決しようとせずに、状況に応じた相談窓口相談することでトラブルの拡大を防ぐことが重要。

- 地域の実情に合わせた窓口や支援内容を紹介
- ボランティアが一人で抱え込まないようフォローする体制の明示

上記について記載をしてください

利用者からハラスメントを受けたり、クレームが発生したりした場合の相談窓口を明記してください。

【134P】ストーカーやDV等の緊急な対応を要する相談を受け場合の窓口

(2) 利用者からのハラスメント

11

ストーカーやDV等の緊急な対応を要する相談を受けた場合

速やかに最寄りの警察に連絡するように伝える。
同時にセンターにも報告する。
その他、以下のような相談窓口も活用。

- 地域の相談窓口を明記
(特にDVについては、警察以外の窓口や支援体制があり、まずはそちらに繋ぐことが推奨されていることも多いので、担当部局と事前に調整して、どの窓口へ繋ぐべきか、整理しておく必要があります。)

上記について記載をしてください

ストーカーやDV等の緊急な対応を要する相談を受けた際の相談窓口について、地域の警察に連絡するように明記していますが、警察以外にも相談できる窓口が地域にある場合には、合わせて記載してください。

(第6章(2)にも記載しましたが、特にDVについては、警察ではなく別の相談窓口をまず紹介する体制が築かれているケースもあるため、どの窓口を紹介するかは、事前によく地域の担当部署と調整してください。)

第7章. 結婚支援業務に関わるための法的知識等

【157P】独身証明書の請求方法

(5) 独身証明書 ③

22

3. 独身証明書の請求方法

独身証明書の窓口での請求は、忙しくて取りに行けない、利用者にとって羞恥心等の問題がある。地域によっては窓口以外でも郵送や電子申請ができる場合は、手続きの迅速化にもつながるため利用者にも案内する。

自地域については、以下の申請方法が可能である。

請求先	請求できる方
【窓口郵送の請求先】	必要なもの
【郵送請求の請求先】	手数料
【電子申請での請求】	

自地域申請方法について利用者に案内できるよう資料を編集してください。
窓口のみの場合は当該スライドを削除願います。

ボランティア同士のネットワークづくり・連携についての事例を示していません。

自地域の実態に合わせて修正してください。

連携体制の構築がまだの場合は、体制が整うまで当該ページごと削除して構いません。